# 第１章　学部および研究科の概要

## １．学部および研究科の沿革

本学部は、昭和 4 年 4 月に創設された旧制広島文理科大学にその源を発し、広島高等師範学校の関連学科の一部をも含めて組織されたものである。

昭和 24 年 5 月　国立学校設置法により、広島大学設置
同文学部設置
3 学科（哲学、史学、文学）　13 専攻（＊哲学、＊中国哲学、倫理学、国史学、東洋史学、西洋史学、地理学、国語学国文学、＊中国文学、英語学英文学、＊ドイツ文学、＊フランス文学、言語学：＊は後に平成 8 年度までの専攻名に改称）

昭和 28 年 4 月　広島大学大学院設置
同文学研究科設置
11 専攻（西洋哲学、＊中国哲学、倫理学、国史学、東洋史学、西洋史学、地理学、国語学国文学、＊中国文学、＊英文学、＊独文学：＊は後に平成 12 年度までの専攻名に改称）

昭和 35 年 4 月　研究科に言語学専攻増設

昭和 40 年 4 月　学部に考古学講座増設
研究科にフランス文学専攻増設

昭和 44 年 4 月　研究科に考古学専攻増設

昭和 47 年 5 月　学部にインド哲学講座増設

昭和 51 年 4 月　研究科の中国哲学専攻を中国哲学・インド哲学専攻に改称

平成 9 年 4 月　学部を 1 学科（人文学）とし、28 小講座を 10 大講座に改組して、コース制を新設

平成 13 年 4 月　研究科の 14 専攻を 1 専攻（人文学）、7 基幹講座、1 協力講座に改組

平成 16 年 4 月　国立大学法人法施行

平成 18 年 4 月　協力講座を廃止

平成 19 年 4 月　研究科の教育研究分野「総合文化学」を「比較日本文化学」に改称

平成 20 年 4 月　中国文学思想文化学講座を応用哲学・古典学講座と日本・中国文学語学講座に、言語文化学講座と表象文化学講座を欧米文学語学・言語学講座に再編（表 1-1）

平成 21 年 4 月　研究科の教育研究分野を、比較日本文化学、思想文化学、歴史文化学、日本・中国文学語学、欧米文学語学・言語学、地表圏システム学の 6 分野に再編

平成 22 年 4 月　研究科の教育研究分野「比較日本文化学」を「人間文化学」に改称

## ２．学部の教育理念および教育目標の設定

**文学部教育理念**

主として人文学の分野における幅広い基礎学力と専門知識を有し、鋭い感性と客観的視点に基づいて現代社会を的確に見据え、その発展に貢献できる人間性豊かな個性的人材を養成する。

**文学部教育目標**

(1) 伝統的教育の成果と方法論を継承し、専門領域における基礎的研究を深化させる。
(2) 新たな研究領域や学際領域に常に注目し、幅広い研究を積極的に推進する。
(3) 現代社会に対する鋭い問題意識を常に持って、研究の活性化をはかる。
(4) 外国語の運用能力を高めると共に、専門領域の必要に即した情報処理能力を身につける。
(5) 絶え間ない自己改革を行う謙虚さ・柔軟性を養う。
(6) 人類の歴史に学び、国際平和の精神を重視する姿勢を培う。

## ３．学部の内容および構成

文学部は、昭和 4 年に創設された旧制広島文理科大学以来の伝統を継承し、3 学科制の下に 28 の小講座と 15 の専攻から構成され、教育・研究両面にわたって優れた成果をあげてきた。

平成 9 年 4 月から、1 学科・5 教育コースに改組し、教育・研究を実施している。改組の目的は、人文学科 1 学科とすることによって人間に関する学問である人文学の諸分野が自由かつ柔軟に交流できるようにするためである。共同研究や新たな学問分野に弾力的に対応し、教員の人事交流の円滑化を図った。平成 18 年度からは、到達目標型教育プログラムの全学的な導入にともない、5 教育コースを主専攻プログラムとし、加えて「地域史」、「フィールド文化環境学」、「ことばと文芸」の三つの副専攻プログラムを設けた。この副専攻プログラムは、平成 21 年度から主専攻プログラムを単位とした 5 プログラムに再編されている。

5 教育コース（主専攻プログラム）は、伝統的基礎学に基づいて設定しつつ、個性に応じた学生の幅広い選択を可能としており、大学全体の学部教育の方針にも対応するものである。

なお、教員組織は平成 9 年 4 月に 10 大講座に再編成したが、平成 13 年 4 月には大学院へ移して 7 基幹講座、1 協力講座に再編成した。平成 20 年 4 月に 6 基幹講座に再編した。学士課程教育については、基幹講座所属教員が担当※）している。

**教育コース（主専攻プログラム）**

**哲学・思想文化学プログラム**

東洋や西洋の古代から現代までに至る哲学・思想を、宇宙観、人間観、自然観などを含めて幅広く教育する。

担当教員組織　応用哲学・古典学講座

**歴史学プログラム**

ナショナルな枠組みを超え、グローバルな視点で世界各地の古代から現代までの歴史の展開過程を教育する。

担当教員組織　歴史文化学講座

**地理学・考古学・文化財学プログラム**

フィールドワーク、コンピュータによる情報処理などの手法により、この地表上に展開してきた過去の生活の営み、文化遺産、都市・農村などの地域の仕組み、自然環境などについて教育する。

担当教員組織　地表圏システム学講座

**日本・中国文学語学プログラム**

日本語と日本文学、中国語と中国文学、および両者の関わりについて、東アジア文化圏の語学文学の視点から教育を行う。

担当教員組織　日本・中国文学語学講座

**欧米文学語学・言語学プログラム**

英語、ドイツ語、フランス語などの豊かな語学力を培い、文学的センスを磨く。言語一般および文学に関する原理や理論の教育を行う。

担当教員組織　欧米文学語学・言語学講座

※）総合人間学講座所属教員は、各教育コースに協力している。

## ４．研究科の理念

大学院文学研究科は、広島大学大学院の中にあって、基盤的研究科群に自己を位置付け、他の研究科との連携を図りつつ、高度な教育研究を推進する。人文学の伝統的なディシプリンを踏まえながら、人間およびその文化を根元的かつ全体的にとらえると共に、常に新しい知の探求と開拓を目指すことをその理念とする。かくして、変動する現実社会を見据えそれに積極的に対応できる有為な人材を養成し、もって世界の学術文化の進展と人類の福祉の向上に寄与することを目的とする。

この理念に基づき、広島大学文学部の教育目標にも配慮しつつ、各研究領域は、自立的で特色のある研究教育活動を推進して文化の発展に貢献することを目指す。即ち、知識偏重に陥ることなく、豊かな感性と、人間およびその文化に対する深い洞察力を養う人材の育成をはかる。

博士課程前期においては、豊かな学識と、自立的・創造的研究を行うための基礎的能力を身につけさせる。

博士課程後期においては、大学院教育における一貫性を重視して、社会的要請に十分応えうる高度な研究能力と学識を備えた人材を養成する。

## ５．研究科の中期目標

平成 28 年度から第三期中期目標期間が始まり、広島大学の第三期中期目標・中期計画が示された。そのなかで文学研究科が連携・実施組織として指定された事項について、文学研究科の第三期中期目標・中期計画を策定した。（番号等は全学の中期目標番号）

### Ⅰ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

#### １ 教育に関する目標

**（１）教育内容及び教育の成果等に関する目標**

（学士課程）

＜１＞人類が直面する予測不能な種々の課題を発見し解決することのできる教養と専門的知識及び能力を身に付け，平和を希求するグローバル人材を養成する。

（大学院課程）

＜２＞高度な専門的知識を基礎に自ら価値を生み出し，人類が直面する予測不能な種々の課題を発見し解決するとともに，平和を希求してグローバルに活躍する高度専門人材を養成する。

**（４）入学者選抜に関する目標**

＜７＞国内外から多様な背景を持った優秀な人材を受け入れるため，新たな入学者選抜を実施する。

#### ２ 研究に関する目標

**（１）研究水準及び研究の成果等に関する目標**

＜８＞人類が伝えてきた文字・テクスト・モノ・文化や，それを育んできた環境等に即して「新しい知の創造」を実現するため，国内外のトップレベルの研究機関と連携し，世界トップレベルの研究達成を目指す。

#### ４ その他の目標

**（１）グローバル化に関する目標**

＜１２＞大学院を中心にさらなる国際化を目指し，海外での研究と対等以上に渡り合える人材,海外へ日本を発信できる人材の養成など,国際通用性を高めていく。

## Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

### １ 組織運営の改善に関する目標

＜２３＞教職員のワーク・ライフ・バランスを推進するとともに，部局運営および大学運営における意思決定の場に女性を積極的に登用する。

## ６．研究科の内容および構成

平成 13 年４月から、従来の 14 専攻を１専攻（5 教育研究分野）に改め、また教員組織を学部から大学院に移した。平成 19 年度から教育研究分野「総合文化学」を「比較日本文化学」に改め、6 教育研究分野とした。平成 22 年度から教育研究分野「比較日本文化学」を「人間文化学」に改めた。

**人文学専攻**

本研究科は、研究者養成大学としての機能を十分に発揮してきたが、国際化・高度情報化が急速に進む社会の変化、学際化する教育研究、多様な教育のニーズ等に柔軟に対応するために、従来の専門分化した教育研究を見直し、専門分化した 14 専攻の単なる統合や連携でなく、これらの枠を超えたより柔軟かつ弾力的な教育研究の展開が可能な人文学１専攻への改組を行った。

**人材養成**

文学部の教育目標にも配慮しつつ、これまでの実績を活かし、自立的で特色ある教育研究活動を推進し、文化の進展に貢献するため、従来からの大学等高等教育研究機関の教育・研究者の養成はもとより、高度な専門的学識を身につけ、自立的・創造的研究を行う能力を備えた人材の養成、および高度な専門的学識とそれを十分に活用する能力を兼ね備えた高度専門職業人を養成する。

**教育研究組織**

専門深化した 14 専攻の伝統的な教育研究方法を踏まえつつ、領域横断的な教育研究を目指し、1 専攻「人文学専攻」に再編・改組し、6 教育研究分野（人間文化学、思想文化学、歴史文化学、日本・中国文学語学、欧米文学語学・言語学、地表圏システム学）を設け教育研究を行う。

**教育研究分野**

○　人間文化学分野

本教育研究分野は、思想文化学、歴史文化学、日本・中国文学語学、欧米文学語学・言語学、地表圏システム学の各領域を基礎に、学際的視野に立って、多文化社会、異文化交流、比較文化などの問題意識を持ち、世界に向けて日本の人文学研究を発信することができる人材の養成を目指す。幅広い比較の視点から多角的に日本文化を考究することをはじめ、アジア諸地域、及びヨーロッパ、アメリカなどの文化を、領域横断的・国際的視点から相対化

しつつ多角的に考究し、文化とは何かを総合的に問うことを目指す。各領域のいずれかに重点を置きながら、領域を横断的に扱って巨視的な問題提起を行うことができる。

○　思想文化学分野

現代社会の急激な変化は、伝統的な価値観を動揺させ、人々の生き方に不安と混迷をもたらしている。現代社会は多様な価値観が錯綜する社会である。この多方面にわたる諸相を、世界観・人間観・生命観・人生観・社会観・自然観等の思想文化の視点から検討し直す必要に迫られている。本教育研究分野では、西洋哲学・倫理学・インド哲学・中国思想文化学の伝統的な文献学的方法を踏まえ、思想文化の理解を深化させるとともに、応用哲学の実践的・横断的な研究によって、人間存在の普遍的な問題、現代社会の新たな問題について、思想文化学の視座から教育する。すなわち、欧米・インド・中国・日本等各地域の社会・歴史の中で受け継がれてきた人類の英知に基づいて、現代を思索する人間を育成する。

○　歴史文化学分野

世界を揺るがす民族問題や環境問題が示すように、現在では一国の単位や従来の研究の枠組みにとらわれない学問の推進が求められている。本教育研究分野では、日本など各国の歴史的個性とともに世界的関連性を捉えることを重視し、総合的・多面的に歴史文化の実証的追究を行う。このため、伝統的な文献史料の分析に加えて、フィールドワークやコンピュータを利用したデータ分析や史料解析等の実験的方法に基づく高度な教育研究を行う。また、先端的な研究手法と広範な世界認識を育む授業の一層の充実を図り、広い領域にわたる授業が多面的に履修できるように、柔軟で相互補完的なカリキュラムを編成している。

○　日本・中国文学語学分野

本教育研究分野では、東アジアにあって歴史上つねに密接な関わりあいを持ち続けてきた日本と中国の文化事象を研究対象とする。日本においては千数百年、中国においては数千年におよぶ長い歴史の中で生み出された多様な文化遺産のうち、主に記述された言語資料を取り上げて、文学・語学の視座から精密に読み解き、深い考察を加える。さらに、日中双方の言語・文芸の特色をつぶさに比較検討して相互の影響関係の様相を探究し、また両者を総体として大きな視座で捉え直すことで、21世紀の我が国の将来を展望するとともに、世界における東アジア文化のアイデンティティの解明とその確立に貢献することを目指す。

○　欧米文学語学・言語学分野

平成 20 年に新しく生まれ変わった教育研究分野である。アメリカ・イギリス文学、英語学、ドイツ文学語学、フランス文学語学、言語学を研究する。文学部の「欧米文学語学・言語学」コースに対応している。21 世紀に相応しい文化多元主義の観点から、英語、ドイツ語、フランス語、日本語を含む諸言語の歴史的研究、記述および理論的研究を推進するだけでなく、主として欧米の言語を駆使して創造された文学を、文芸理論、言語理論、文献学的手法を援用して研究する。こうした教育や研究を実践しながら、言語と文化の関係を世界的な観点から志向することのできる国際性豊かな人材の育成をめざす。

○　地表圏システム学分野

人類が創り上げ、地球表面上に残存させた諸事物（文化景観、集落、遺跡・遺物、諸文化財）を、自然地理的環境（地形・気候など）や社会経済的環境などと有機的に関連付けて、地球上の多様な地表圏文化を学際的・総合的に把握することを目標とする。そのための教育・研究は主に、地理学的地域調査や活断層調査、コンピュータ解析と年代測定、遺跡発掘と考古資料の分析、有形・無形の文化財調査とその保存修復などのフィールドワークや理化学的分析といった実験的手法によって達成される。さらに、今日、世界的課題となっている文化遺産や自然遺産の保護、文化景観の保全、地球環境問題などにも、実践的に対応できる教育と研究を行う。

**教育課程編成の考え方および履修方法等**

**（１）教育課程編成の基本的考え方**

研究者養成に加え、高度専門職業人の養成、熟年世代の学位取得機会の提供といった社会のニーズに応えるために、複数教員指導制を導入するとともに、複数の教育プログラムを提供する。

［博士課程前期］

① 修士論文作成コース

主に博士課程後期に進学し、研究者を目指す学生のためのコース。分野専門科目の履修に力点を置き、修士論文の作成を最終的な目標としたプログラムによって修学する。

② 特定課題研究コース

より高度な専門知識・教養を身につけた職業人や知識人を養成するコース。全分野共通科目や各分野共通科目の履修に重点を置いたプログラムによって修学し、特定課題研究の成果を作成する。

［博士課程後期］

学位取得を促進するため、学位取得スケジュールの整備、複数教員指導制の導入を行い、幅広い研究テーマに柔軟に対応できるきめ細かな研究指導を行う。

**（２）修了要件**

［博士課程前期］

① 2 年以上在学し、30 単位以上修得し、修士論文又は特定課題研究の成果を提出して、その審査および最終試験に合格すること。

② 在学期間に関しては、教授会が優れた業績を上げたと認める者について、1 年以上在学すれば足りるものとする。

［博士課程後期］

① 3 年以上在学し、定められた授業科目（特別研究指導）6 単位を修得し、博士論文を提出して、その論文審査および最終試験に合格すること。

② 在学期間に関しては、教授会が優れた業績を上げたと認める者について、当該課程に 1 年（2 年未満の在学期間をもって修士課程又は博士課程前期を修了した者にあっては、当該在学期間を含めて 3 年）以上在学すれば足りるものとする。

**（３）学位の授与**

博士課程前期は修士（文学）、博士課程後期は博士（文学）を授与する。

**（４）研究指導の方法等**

① 研究指導の基本方針

複数教員指導制による、幅広い研究テーマに柔軟に対応できるきめ細かな研究指導。

② 研究指導の特色

a 学生が問題を広く深い視点から把握できるように入学後速やかに主指導教員および副指導教員（2 名以上）を定める。

b 博士課程前期においては、教育研究分野および研究課題を定め、計画的な研究指導を行う。

c 博士課程後期においては、研究計画書を作成させ、博士課程修了の基本スケジュールに従って研究指導を行う。

d 外国人留学生のために論文作成言語を弾力化する。

**（５）既設の学部との関係**

人文学専攻の設置によって期待される教育研究における活性化と専門深化および新しい学問領域の開拓・発展等の成果を、学部の教育に効果的に反映できるように体制を整備する。人文学専攻 6 教育研究分野における領域横断的教育研究の成果を学部教育に反映させ、学部改組で志向された幅

広く柔軟な教育を充実させるため、優秀な大学院生を積極的にＴＡ・ＲＡに採用し、活力ある学部教育を実現する。

**（６）留学生や社会人の受け入れ**

① 留学生の受け入れ

アジア圏を中心とした外国人留学生を受け入れ、計画的な指導を行うことにより学位を取得させる。外国人留学生を積極的に受け入れるために、論文作成言語を弾力化するなど大学院教育の国際化に対応する。

② 社会人の受け入れ

「社会人特別選抜」（平成 11 年度）、「フェニックス特別選抜」（平成 12 年度後期）の制度を導入している。

表1－1　講座の編成　（教員配置状況は，表7－1参照）

平成8年度以前

| 学科 | 小講座（28講座） |
|---|---|
| 哲学科 | 哲学 |
| | 哲学史 |
| | 中国古代中世思想史 |
| | 中国近世思想史 |
| | インド哲学 |
| | 倫理学 |
| | 倫理思想史 |
| 史学科 | 日本古代中世史 |
| | 日本近世近代史 |
| | 中国史 |
| | アジア史 |
| | 西洋古代中世史 |
| | 西洋近世最近世史 |
| | 人文地理学・地域学 |
| | 自然地理学・地域学 |
| | 考古学 |
| 文学科 | 国語学 |
| | 古代中世国文学 |
| | 近世近代国文学 |
| | 中国語学 |
| | 中国文学 |
| | 英語学 |
| | 英文学 |
| | 英米文学語学 |
| | ドイツ語学 |
| | ドイツ文学 |
| | フランス語学フランス文学 |
| | 言語学 |

→

平成9年度

| 学科 | 大講座（10講座） |
|---|---|
| 人文学 | 哲学 |
| | 中国思想文化学 |
| | 日本史学 |
| | 世界史学 |
| | 地理学・考古学 |
| | 文化財学 |
| | 日本語学日本文学 |
| | 中国語学中国文学 |
| | 欧米文学語学 |
| | 言語学 |

→

平成13年度

| 専攻 | 講座（8講座） |
|---|---|
| 人文学 | 総合人間学 |
| | 応用倫理・哲学 |
| | 歴史文化学 |
| | 中国文学思想文化学 |
| | 言語文化学 |
| | 表象文化学 |
| | 地表圏システム学 |
| | 言語応用文化学（協力講座）※ |

※平成18年4月　廃止

「自己点検・評価の記録6」 P.8 表1-2参照

→

平成20年度

| 専攻 | 講座（6講座） |
|---|---|
| 人文学 | 総合人間学 |
| | 応用哲学・古典学 |
| | 歴史文化学 |
| | 日本・中国文学語学 |
| | 欧米文学語学・言語学 |
| | 地表圏システム学 |

「自己点検・評価の記録10」 P.1　参照

# 第２章　研究科の教育活動

## １．大学院生の受け入れ

平成 28 年 11 月 1 日現在、文学研究科の在籍者数は、博士課程前期 164 名、博士課程後期 105 名で、博士課程前期・博士課程後期ともに定員を上回っている（表 2-1）。年度別に見れば、平成 28 年度の博士課程前期充足率は 114.1%と、平成 24 年度以来定員 100%以上を継続して達成している（表 2-2）。その主たる要因は、北京研究センターを活用した外国人留学生特別選抜 II 等を通じた留学生の積極的受け入れにある。特に顕著なのは、平成 28 年度博士課程後期における定員充足率が、平成 27 年度実績 65.6%から 100%へと大幅に改善されたことである（表 2-3）。その背景として、博士課程前期を修了した留学生が博士課程後期へ進学するという好循環の形成が挙げられる。今後も、平成 28 年度に立ち上げた博士課程後期外国人留学生（社会人）特別選抜、東千田未来創生センターを拠点とする社会人学び直しプログラム特別選抜（博士課程前期）等を通じて、博士課程後期の入学者をいかにして確保するかが、文学研究科にとっての継続的課題である。

## ２．教育・研究状況

平成 13 年度に行われた人文学 1 専攻への改組以来の 5 教育研究分野に加えて、平成 19 年度に新たに比較日本文化学分野（総合人間学講座の教員が担当）を開設し、以後は全 6 教育研究分野で教育・研究を行う体制をとっている。また、総合人間学講座の教員が人文学専攻共通科目を担当することにより、平成 13 年度の改組以来の全分野を包括する俯瞰型教育も継続して実践している。なお、平成 22 年 4 月に比較日本文化学分野を人間文化学分野に改称し、順次教員の拡充も行われて、外国人留学生を中心とした多くの大学院生の幅広い興味関心に応じることができる態勢が整ってきたところである。講座の枠組みを超えた複数指導教員体制による教育指導も、引き続き各分野で行われている。

広島大学大学院文学研究科における教育・研究は、これまでの学術的手法をきちんと体得しながら、なおかつ新しい学問の創造を目指すことを基本方針としている。ところが、運営費交付金削減のあおりを受けて、退職教員のポストの補充を速やかに行えないケースも生じてきた。その一方で文学研究科は、近年の大学院生の多様化という現実にも直面し、必ずしも従来の教育手法のみでは対応できない局面も現れ始めている。こうした状況において文学研究科では、「人文学の方法と教育」FD 等を通じて教育手法を継続的に模索しつつ、新たな文化創造の担い手としての資質を養成し、時代とともに変化する社会の要請に応えるという本研究科の責務を果たすべく務めている。

なお、博士課程前期の外国人留学生が修士論文を執筆するに当たっては、日本語校閲の便宜が図られ、論文の完成度を高めるのに効果を上げているが、留学生に対する全学的な支援体制の一層の拡充が不可欠である。

## ３．学位（博士）授与状況

学位（博士）取得者数は、課程博士号（甲）・論文博士号（乙）とも一定の水準を維持している（表 2-4)。平成 28 年度の学位（博士）の取得者は課程博士号（甲）6 名、論文博士号（乙）3 名であった。今後も、外国人留学生等多様な大学院生の受け入れと論文の質の維持とのバランスを取りながら、学位取得者数を増加させていく必要がある。

なお、文学研究科の学位（博士）論文は、著書として公刊されて初めて学界から評価を受けるのが通例であるため、電子化されての全文公開には適さない場合が多い。一方、若手の学位論文の公刊は、構造的出版不況のせいもあって必ずしも円滑に進まない。大学出版会による刊行の促進も含め、大学の積極的な援助が望まれるところである。

## ４．就学援助

### (1) 日本学生支援機構奨学金

平成 28 年度も奨学金受給者の多くの者が日本学生支援機構奨学金から給付を受けている。しかし、外国人留学生を除く在学生数に対する奨学生数の割合は、平成 14 年度に比して受給者・比率とも 3 分の 1 程度の 16.4%へと低下し、平成 26 年度以来横ばい状態にある（表 2-5)。日本学生支援機構奨学金の奨学金受給者の選考は、研究科が定める選考要領に基づいて行われているが、受給者数の配分がこれだけ減ってくると大学院生への支援も手薄にならざるを得ない。政府財政の困難な時期ではあるが、前途有為な人材育成のためにも、もっと積極的な国の教育投資をお願いしたい。

入学年度別受給率で見ると、博士課程前期は平成 26 年度の 36.6%を底に、平成 27 年度の 51.4%、平成 28 年度の 53.3%と回復基調にある。他方、博士課程後期は平成 28 年度が 26.7%と、50%から 70%で推移した平成 21 年度までと比して低水準に留まっている（表 2-6)。このため、在学者が最初から奨学金申請を諦めるのみならず、後期進学希望者が進学をためらうという事態も生じている。研究者養成のみならず高度専門職業人養成という使命遂行のためにも、申請者全員への奨学金貸与はぜひ実現されねばならない。社会全体での配慮が強く望まれる。

### (2) 授業料の減免

授業料の減免は、学期ごとに授業料免除を申請した学生について書類審査に基づいて実施しており、表 2-7 にあるように全額免除と半額免除の別がある。前期分と後期分とをあわせた授業料免除申請者数は、平成 28 年度は 218 名と奨学生数の推移と見事に逆比例している。このうち全額免除を許可されたのは 87 名、半額免除は 110 名となっている。同年度後期の不許可件数は、同前期および前年度の二桁台に比べて 5 件にとどまっており、若干の改善が見られる（表 2-7)。

授業料の減免と奨学金の給付は、ともに大学院生に対する修学支援の一環であるため、さらなる拡充を望むところである。

## ５．修了者の進路・活動状況

### (1) 博士課程前期修了者の進路・活動状況

平成 28 年度の博士課程前期修了者は 79 名、そのうち後期進学者数は 21 名で(表 2-8)、これが博士課程後期の定員充足率 100%達成に貢献したことは疑いない。

博士課程前期修了者の一般企業への就職が増加しているのも近年の特徴である。平成 28 年度は前年度 19 名から 22 名へと漸増している。従来、文学研究科修了者は公務員や高校教員など高度専門職業人としての進路を選ぶ傾向が強かったが、近年は公務員・高校教員ともに狭き門となっている。しかし、公務員はともかく、高校教員は全国的に採用枠が拡大しており、また採用を前提とした大学院進学という選択肢も加わった。専門性を生かすためにも、積極的に採用試験にチャレンジするよう促していきたい。OB を講師として迎えて高校教員採用試験対策講習会が開かれ、一定の効果が生まれつつあるのは、特筆すべきことである。これからも一層充実した「出口」指導を行う必要がある。

### (2) 博士課程後期修了者・単位修得退学者の進路・活動状況

博士課程後期は、前期課程に比してより高度な研究能力・学識を備えた研究者・高度専門職業人養成を担っており、修了者も研究職に進むことを志望している。しかし、テニュア・トラック制度等の導入にもかかわらず、多くの博士課程後期進学者・修了者にとって就職は相変わらず容易でない。そのことが博士課程後期進学者・修了者を安定的に生み出せない要因となっている。

なお、平成 28 年度は、日本学術振興会特別研究員（DC）に 1 名が採用されており（表 2-9)、今後も説明会等を通じてさらに積極的に応募を促していきたい。

## ６．文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」

### (1) 放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム

平成 23 年度文部科学省の「博士課程教育リーディングプログラム（複合領域型・横断的テーマ)」事業に採択され、本研究科の教員 5 名がプログラム担当教員として参画している。

平成 25 年 10 月入学者 1 名、平成 26 年 10 月入学者 1 名が本研究科に所属している。

### (2) たおやかで平和な共生社会創出プログラム

平成 25 年度文部科学省の「博士課程教育リーディングプログラム（複合領域型・多文化共生社会)」事業に採択され、本研究科の教員がプログラムコーディネーターとなり、ほかに 4 名がプログラム担当者として参画している。

平成 26 年 4 月入学者 2 名、平成 26 年 10 月、平成 27 年 4 月、平成 28 年 4 月入学者各 1 名が本研究科に所属している。

## 表２－１　大学院文学研究科の学生定員および在籍学生数

平成28年11月1日現在

| 専　　攻 | | 前　期 | | 後　期 | | 合　計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 定員 | 在籍数 | 定員 | 在籍数 | 定員 | 在籍数 |
| 人文学専攻 | | 128 | 164（85） | 96 | 105（43） | 224 | 269（128） |
| | 人間文化学 | | 52（50） | | 30（27） | | 82（77） |
| | 思想文化学 | | 20（9） | | 12（2） | | 32（11） |
| | 歴史文化学 | | 26（5） | | 8（2） | | 34（7） |
| | 日本・中国文学語学 | | 32（12） | | 21（8） | | 53（20） |
| | 欧米文学語学・言語学 | | 20 | | 23（1） | | 43（1） |
| | 地表圏システム学 | | 14（9） | | 11（3） | | 25（12） |

注：在籍者数の（　）は，外国人留学生を内数で示す。

## 表２－２　文学研究科博士課程前期入学試験実施状況（年度別）

| 年　度 | 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 欠席者数 | 合格者数 | 入学者数 | 欠員 | 充足率（%） | 合格率（%） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成１９ | 64 | 72 | 70 | 2 | 68 | 60 | 4 | 93.8 | 97.1 |
| ２０ | 64 | 84 | 82 | 2 | 76 | 69 | 0 | 107.8 | 92.7 |
| ２１ | 64 | 88 | 86 | 2 | 70 | 68 | 0 | 106.3 | 81.4 |
| ２２ | 64 | 89 | 85 | 4 | 69 | 61 | 3 | 95.3 | 81.2 |
| ２３ | 64 | 87 | 82 | 5 | 68 | 59 | 5 | 92.2 | 82.9 |
| ２４ | 64 | 92 | 90 | 2 | 73 | 68 | 0 | 106.3 | 81.1 |
| ２５ | 64 | 80 | 80 | 0 | 74 | 71 | 0 | 110.9 | 92.5 |
| ２６ | 64 | 101 | 100 | 1 | 92 | 83 | 0 | 129.7 | 92.0 |
| ２７ | 64 | 121 | 110 | 11 | 85 | 75 | 0 | 117.2 | 77.3 |
| ２８ | 64 | 134 | 118 | 16 | 83 | 73 | 0 | 114.1 | 70.3 |
| 平均値 | 64.0 | 94.8 | 90.3 | 4.5 | 75.8 | 68.7 | 1.2 | 107.3 | 83.9 |

注1：充足率は，入学定員の充足率（表中，募集人員に対する入学者の割合）を示す。
注2：合格率は，受験者数に対する合格者数の割合を示す。

## 表２－３　文学研究科博士課程後期入学試験実施状況（年度別）

| 年　度 | 募集人員 | 入学 | | 進学 | | 計 | | 充足率（%） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 志願者数 | 入学者数 | 志願者数 | 入学者数 | 志願者数 | 入学者数 | |
| 平成１９ | 32 | 17 | 10 | 15 | 16 | 32 | 26 | 81.3 |
| ２０ | 32 | 6 | 5 | 9 | 8 | 15 | 13 | 40.6 |
| ２１ | 32 | 19 | 16 | 10 | 7 | 29 | 23 | 71.9 |
| ２２ | 32 | 9 | 7 | 19 | 12 | 28 | 19 | 59.4 |
| ２３ | 32 | 11 | 9 | 13 | 9 | 24 | 18 | 56.3 |
| ２４ | 32 | 5 | 3 | 12 | 6 | 17 | 14 | 28.1 |
| ２５ | 32 | 7 | 6 | 8 | 8 | 15 | 14 | 43.8 |
| ２６ | 32 | 12 | 12 | 12 | 11 | 24 | 23 | 71.9 |
| ２７ | 32 | 17 | 12 | 9 | 9 | 26 | 21 | 65.6 |
| ２８ | 32 | 15 | 13 | 22 | 19 | 37 | 32 | 100.0 |
| 平均値 | 32 | 11.8 | 9.3 | 12.9 | 10.5 | 24.7 | 20.3 | 63.4 |

注：充足率は，入学定員の充足率（表中，募集人員に対する入学者の割合）を示す。

## 表２－４　学位（博士）授与状況

広島大学大学院文学研究科

| 専攻＼年度 | 16 | | 17 | | 18 | | 19 | | 20 | | 21 | | 22 | | 23 | | 24 | | 25 | | 26 | | 27 | | 28 | | 合　計 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 甲 | 乙 | 甲 | 乙 | 甲 | 乙 | 甲 | 乙 | 甲 | 乙 | 甲 | 乙 | 甲 | 乙 | 甲 | 乙 | 甲 | 乙 | 甲 | 乙 | 甲 | 乙 | 甲 | 乙 | 甲 | 乙 | 甲 | 乙 | 計 |
| 人文学 | 12 | 10 | 16 | 8 | 10 | 11 | 11 | 6 | 14 | 5 | 9 | 5 | 8 | 3 | 11 | 7 | 6 | 4 | 10 | 4 | 11 | 3 | 9 | 3 | 6 | 3 | 133 | 72 | 205 |
| 西洋哲学 | 0 | | 1 | | 0 | | 0 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 中国哲学・インド哲学 | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | | 0 |
| 倫理学 | 1 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 国史学 | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | | 0 |
| 東洋史学 | 1 | | 1 | | 0 | | 0 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 |
| 西洋史学 | 0 | | 1 | | 1 | | 0 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 3 |
| 地理学 | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | | 0 |
| 考古学 | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | | 0 |
| 国語学国文学 | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | | 0 |
| 中国語学中国文学 | 1 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 英語学英文学 | 1 | | 4 | | 0 | | 0 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | | 5 |
| ドイツ語学ドイツ文学 | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | | 0 |
| フランス文学 | 1 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 言語学 | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | | 0 |
| 合計 | 17 | 10 | 23 | 8 | 11 | 11 | 11 | 6 | 15 | 5 | 9 | 5 | 8 | 3 | 11 | 7 | 6 | 4 | 10 | 4 | 11 | 3 | 9 | 3 | 6 | 3 | 147 | 72 | 219 |

昭和61年度以降の授与者のうち

外国籍の者…　（5年度以前8名，7年度1名，8年度1名，9年度3名，10年度3名，11年度1名，12年度3名，13年度1名，14年度2名，15年度2名，16年度2名，17年度1名，19年度2名，20年度1名，21年度2名，22年度2名，23年度2名，24年度1名，25年度6名，26年度2名，27年度3名，28年度2名）

他研究科出身者…

他大学出身者…　（5年度以前8名，6年度3名，7年度3名，8年度1名，10年度1名，11年度1名，12年度1名，13年度1名，14年度4名，15年度5名，16年度3名，17年度１2名，18年度5名，19年度3名，20年度9名，21年度6名，23年度2名，24年度3名，25年度1名，26年度6名，27年度1名，28年度1名）

**表２－５　文学研究科学生の日本学生支援機構奨学金受給状況**

| 年　度<br>(10.1現在) | 奨学生数内訳<br>博士前期<br>(人) | 博士後期<br>(人) | 計<br>(人) | 在学生数<br>(人) | 奨学生割合<br>(%) | ［参考］<br>地方育英団体<br>奨学生（人） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成 14 | 67 | 64 | 131 | 280 | 46.8 | 1 |
| 15 | 57 | 52 | 109 | 247 | 44.1 | 0 |
| 16 | 50 | 40 | 90 | 249 | 36.1 | 1 |
| 17 | 63 | 40 | 103 | 254 | 40.6 | 1 |
| 18 | 39 | 28 | 67 | 248 | 27.0 | 2 |
| 19 | 24 | 40 | 64 | 241 | 26.6 | 2 |
| 20 | 33 | 23 | 56 | 252 | 22.2 | 3 |
| 21 | 42 | 14 | 56 | 263 | 21.3 | 3 |
| 22 | 43 | 20 | 63 | 259 | 24.3 | 3 |
| 23 | 39 | 14 | 53 | 240 | 22.1 | 2 |
| 24 | 38 | 10 | 48 | 229 | 21.0 | 1 |
| 25 | 36 | 8 | 44 | 242 | 18.2 | 0 |
| 26 | 31 | 11 | 42 | 260 | 16.2 | 0 |
| 27 | 32 | 11 | 43 | 265 | 16.2 | 1 |
| 28 | 33 | 11 | 44 | 269 | 16.4 | 1 |

注1：在学生数には外国人留学生は含まれない。
注2：日本育英会奨学金貸与事業は，平成16年4月1日より日本学生支援機構に統合された。

**表２－６　文学研究科学生の日本学生支援機構奨学金受給状況**
（入学年度別）

| 入学年度 | 博士課程前期<br>奨学生数<br>(人) | 在学生数<br>(人) | 奨学生割合<br>(%) | 博士課程後期<br>奨学生数<br>(人) | 在学生数<br>(人) | 奨学生割合<br>(%) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成 14 | 34 | 63 （ 38 ） | 54 | 14 | 25 （ 14） | 56.0 |
| 15 | 20 | 43 （ 20 ） | 46.5 | 14 | 20 （ 15） | 70.0 |
| 16 | 27 | 52 （ 27 ） | 51.9 | 14 | 27 （ 14） | 51.9 |
| 17 | 20 | 42 （ 20 ） | 47.6 | 7 | 15 （ 7） | 46.7 |
| 18 | 18 | 37 （ 18 ） | 48.6 | 14 | 29 （ 14） | 48.3 |
| 19 | 15 | 37 （ 15 ） | 40.5 | 15 | 25 （ 15） | 60.0 |
| 20 | 18 | 41 （ 18 ） | 43.9 | 8 | 12 （ 8） | 66.7 |
| 21 | 24 | 41 （ 26 ） | 58.5 | 6 | 14 （ 6） | 42.9 |
| 22 | 18 | 36 （ 18 ） | 50 | 4 | 15 （ 4） | 26.7 |
| 23 | 18 | 38 （ 18 ） | 47.4 | 2 | 12 （ 2） | 16.7 |
| 24 | 20 | 46 （ 22 ） | 43.5 | 2 | 11 （ 2） | 18.2 |
| 25 | 16 | 36 （ 18 ） | 44.4 | 3 | 8 （ 3） | 37.5 |
| 26 | 15 | 41 （ 22 ） | 36.6 | 5 | 12 （ 5） | 41.7 |
| 27 | 18 | 35 （ 14 ） | 51.4 | 2 | 9 （ 2） | 22.2 |
| 28 | 16 | 30 （ 16 ） | 53.3 | 4 | 15 （ 4） | 26.7 |

注1：在学生数には，外国人留学生は含まれない。
注2：在学生数の（　）は，申請者数を内数で示す。
注3：日本育英会奨学金貸与事業は，平成16年4月1日より日本学生支援機構に統合された。

**表２－７　文学研究科学生の授業料免除申請状況**

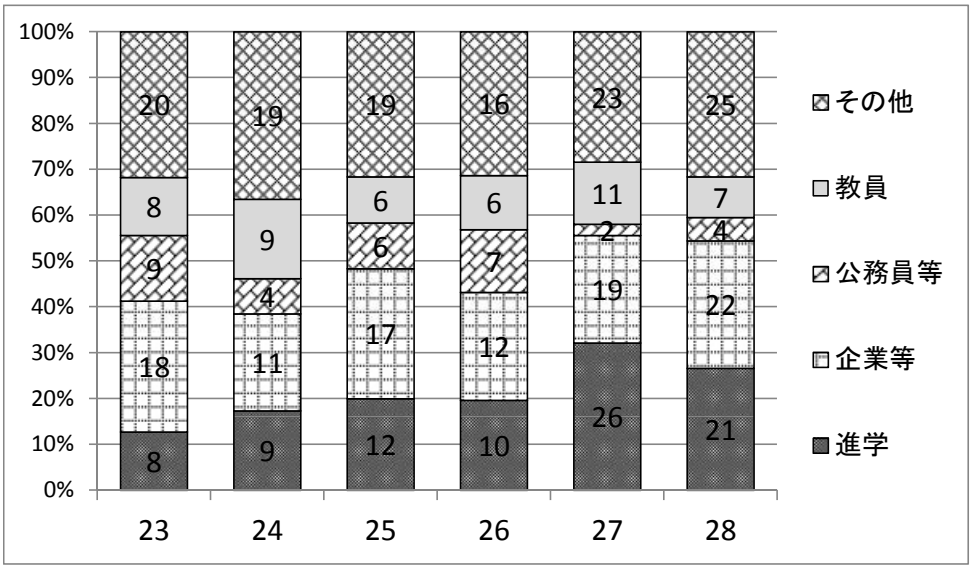
| 実施年度 | 学期 | 申請者<br>(人) | 許可者（人）<br>全額免除 | 半額免除 | 不許可<br>(人) | 免除総額<br>(千円) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成 14 | 前期分 | 41 （ 8 ） | 20 （ 5 ） | 3 （ 1 ） | 18(2) | 5,285.4 |
| | 後期分 | 34 （ 8 ） | 15 （ 4 ） | 5 （ 3 ） | 14(1) | 5,183.4 |
| 15 | 前期分 | 33 （ 8 ） | 19 （ 7 ） | 2 （ 0 ） | 12(1) | 5,182.2 |
| | 後期分 | 34 （ 10 ） | 23 （ 9 ） | 1 （ 0 ） | 10(1) | 6,119.4 |
| 16 | 前期分 | 39 （ 13 ） | 18 （ 7 ） | 11 （ 5 ） | 10(1) | 6,119.4 |
| | 後期分 | 32 （ 12 ） | 24 （ 11 ） | 5 （ 1 ） | 3(0) | 6,900.6 |
| 17 | 前期分 | 41 （ 16 ） | 26 （ 15 ） | 2 （ 1 ） | 13(0) | 7,233,3 |
| | 後期分 | 35 （ 19 ） | 18 （ 9 ） | 13 （ 10 ） | 4(0) | 6,563,6 |
| 18 | 前期分 | 36 （ 16 ） | 13 （ 1 ） | 11 （ 9 ） | 12(6) | 4,956.1 |
| | 後期分 | 36 （ 20 ） | 13 （ 2 ） | 12 （ 9 ） | 11(9) | 5,090.1 |
| 19 | 前期分 | 42 （ 20 ） | 17 （ 5 ） | 20 （ 15 ） | 5(0) | 7,233.3 |
| | 後期分 | 42 （ 30 ） | 13 （ 5 ） | 27 （ 24 ） | 2(1) | 7,099.3 |
| 20 | 前期分 | 51 （ 34 ） | 14 （ 3 ） | 31 （ 28 ） | 6(3) | 7,903.1 |
| | 後期分 | 69 （ 53 ） | 15 （ 4 ） | 41 （ 40 ） | 13(9) | 9,510.5 |
| 21 | 前期分 | 85 （ 64 ） | 13 （ 1 ） | 53 （ 51 ） | 19(12) | 10,537.4 |
| | 後期分 | 79 （ 61 ） | 12 （ 1 ） | 48 （ 48 ） | 17(12) | 9,644.4 |
| 22 | 前期分 | 91 （ 65 ） | 14 （ 1 ） | 59 （ 52 ） | 18(12) | 11,653.5 |
| | 後期分 | 89 （ 66 ） | 17 （ 2 ） | 60 （ 54 ） | 12(10) | 12,591.3 |
| 23 | 前期分 | 78 （ 60 ） | 52 （ 42 ） | 13 （ 10 ） | 13(8) | 15,672.1 |
| | 後期分 | 75 （ 59 ） | 40 （ 30 ） | 28 （ 25 ） | 7(4) | 14,466.6 |
| 24 | 前期分 | 75 （ 56 ） | 51 （ 34 ） | 22 （ 22 ） | 2(0) | 16,609.8 |
| | 後期分 | 70 （ 53 ） | 45 （ 29 ） | 22 （ 21 ） | 3(3) | 15,002.4 |
| 25 | 前期分 | 76 （ 56 ） | 56 （ 40 ） | 18 （ 16 ） | 2(0) | 17,413.5 |
| | 後期分 | 82 （ 65 ） | 51 （ 38 ） | 28 （ 27 ） | 3(0) | 17,413.5 |
| 26 | 前期分 | 76 （ 56 ） | 56 （ 40 ） | 18 （ 16 ） | 2(0) | 17,413.5 |
| | 後期分 | 82 （ 65 ） | 50 （ 37 ） | 29 （ 28 ） | 3(0) | 17,279.5 |
| 27 | 前期分 | 108 （ 86 ） | 57 （ 45 ） | 41 （ 37 ） | 10(4) | 20,762.2 |
| | 後期分 | 104 （ 87 ） | 42 （ 32 ） | 50 （ 45 ） | 12(9) | 17,949.3 |
| 28 | 前期分 | 109 （ 92 ） | 50 （ 40 ） | 46 （ 43 ） | 11(9) | 19,556.7 |
| | 後期分 | 109 （ 93 ） | 37 （ 32 ） | 64 （ 58 ） | 5(3) | 18,485.1 |

注：（　）内は，外国人留学生を内数で示す。

表２－８　文学研究科博士課程前期修了者の進路状況

| 年度 | 進路 | 男 | 女 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 平成23年度 | 修了者数 | 19 | 44 | 63 |
| | 博士後期進学 | 2 | 6 | 8 |
| | 就職 | 14 | 21 | 35 |
| | 企業等 | 6 | 12 | 18 |
| | 公務員等 | 4 | 5 | 9 |
| | 教員 | 4 | 4 | 8 |
| | その他 | 3 | 17 | 20 |
| 平成24年度 | 修了者数 | 18 | 34 | 52 |
| | 博士後期進学 | 4 | 5 | 9 |
| | 就職 | 11 | 13 | 24 |
| | 企業等 | 1 | 10 | 11 |
| | 公務員等 | 4 | 0 | 4 |
| | 教員 | 6 | 3 | 9 |
| | その他 | 3 | 16 | 19 |
| 平成25年度 | 修了者数 | 21 | 39 | 60 |
| | 博士後期進学 | 5 | 7 | 12 |
| | 就職 | 8 | 21 | 29 |
| | 企業等 | 4 | 13 | 17 |
| | 公務員等 | 2 | 4 | 6 |
| | 教員 | 2 | 4 | 6 |
| | その他 | 8 | 11 | 19 |
| 平成26年度 | 修了者数 | 25 | 26 | 51 |
| | 博士後期進学 | 3 | 7 | 10 |
| | 就職 | 15 | 10 | 25 |
| | 企業等 | 3 | 9 | 12 |
| | 公務員等 | 7 | 0 | 7 |
| | 教員 | 5 | 1 | 6 |
| | その他 | 7 | 9 | 16 |
| 平成27年度 | 修了者数 | 24 | 57 | 81 |
| | 博士後期進学 | 8 | 18 | 26 |
| | 就職 | 12 | 20 | 32 |
| | 企業等 | 7 | 12 | 19 |
| | 公務員等 | 1 | 1 | 2 |
| | 教員 | 4 | 7 | 11 |
| | その他 | 4 | 19 | 23 |
| 平成28年度 | 修了者数 | 28 | 51 | 79 |
| | 博士後期進学 | 12 | 9 | 21 |
| | 就職 | 8 | 25 | 33 |
| | 企業等 | 3 | 19 | 22 |
| | 公務員等 | 2 | 2 | 4 |
| | 教員 | 3 | 4 | 7 |
| | その他 | 8 | 17 | 25 |

参考



## 表2－9 平成15－27年度 日本学術振興会特別研究員採用状況

| 年度 | 資格 | 氏名 | 研 究 課 題 名 | 研究分野 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成15 | DC | 小林　芳恵 | ヴァーキャパディーヤ研究 | インド哲学・仏教学 | 平成16年度まで継続（16年度資格はPD） |
| 平成16 | DC | 石田　雅春 | 戦後日本における文教政策の展開と構造 | 歴史文化学 | 平成17年度まで継続（17年度資格はPD） |
| 平成17 | DC | 小林　久泰 | プラジュニャーカラグプタの自己認識理論の研究 | インド哲学・仏教学 | 平成18年度まで継続 |
| 平成18 | PD | 松永　京子 | 現代アメリカ文学にみるエコポリティックス：多様なエスニック作家の環境政治的想像力 | 英米文学語学 | 平成20年度まで継続 |
| | DC | 河本　大地 | 途上国の有機農業をめぐる構造と産地の実態－スリランカの事例を中心として－ | 地理学 | |
| 平成20 | DC | 根本　裕史 | ツォンカパの中観思想における時間論と業報思想の研究 | インド哲学・仏教学 | 平成21年度まで継続（21年度資格はPD） |
| 平成22 | PD | 山口　佳巳 | 古文書による社寺建築等の復元と中世の建築工事に関する研究 | 考古学 | 平成24年度まで継続 |
| | DC | 松岡　寛子 | ジャイナ＝パンダーラ所蔵二写本に基づく『摂真実論』「外界対象」章の原典研究 | インド哲学 | 平成23年度まで継続 |
| | DC | 山崎　一穂 | クシェーメーンドラの仏教説話の研究―その源泉資料の解明と文学的観点からの考察― | インド哲学 | 平成23年度まで継続 |
| 平成23 | PD | 吉良　史明 | 近世末期国学者の知識形成と交流―西日本における文人ネットワークを中心に― | 日本文学語学 | 平成25年度まで継続 |
| | PD | 有松　唯 | 西アジア領域国家形成過程における地域社会の変容：構造と構成原理の考古学的研究 | 考古学 | 平成25年度まで継続 |
| | DC | 片山　由美 | 『法華経』の「一乗」研究―仏伝考察とパーリ・チベット撰述文献の「一乗」議論解明― | インド哲学 | 平成24年度まで継続 |
| | DC | 岩田　康弘 | ドイツ応用倫理学の研究 | 哲学 | 平成24年度まで継続 |
| 平成24 | DC | 平下　義記 | 土地所有秩序の再編と福山義倉の歴史的意義－近世近代移行期地域社会論－ | 日本史学 | 平成25年度まで継続（25年度資格はPD） |
| | DC | 松井　真雪 | ロシア語における有声性の不完全中和の実験音韻論的研究：産出と知覚の視点から | 言語学 | 平成26年度まで継続 |
| 平成25 | DC | 川村　悠人 | 美文論書『バッティカーヴィア』における文法規則例証の様態とその文法学的側面の解明 | インド哲学 | 平成26年度まで継続（26年度資格はPD） |
| | PD | 友成　有紀 | インド古典文法における意味論の発展史－カーラカ理論を中心に－ | インド哲学 | 平成27年度まで継続 |
| | DC | 深町　悟 | ヴィクトリア朝期の小説における反帝国主義の流行とそのプロパガンダ的特長の研究 | 英語学 | 平成27年度まで継続 |
| | DC | 笠井　今日子 | 鑢製鉄業の構造的研究による近世社会解明へのアプローチ | 日本史学 | 平成26年度まで継続（26年度資格はPD） |
| 平成26 | DC | 黒住　奏 | 現代アメリカ先住民文学における土地と環境正義に関する研究 | 英米文学語学 | 平成29年度まで継続 |
| | DC | 中須賀　美幸 | 仏教論理学派アポーハ論の研究　－概念形成における他者の排除の機能の解明 | インド哲学 | 平成29年度まで継続 |
| 平成28 | DC | 出木　良輔 | 日本近代文学に見る＜教員＞増と教育言説の研究 | 日本文学語学 | 平成29年度まで継続 |

# 第３章　学部の教育活動

## １．学生の受入れ

### (1) 学生募集と広報

平成 28 年度も一般入試に加えて、AO 入試総合評価方式Ⅲ型（ゼミナール選考）、50 歳以上の社会人を対象とする AO 入試（フェニックス方式）、私費外国人留学生特別選抜、および編入学試験による募集を行った。AOⅢ型入試は 16 の多彩な専門分野を擁する文学部の特性を活かした学生募集であり、特定の専門分野にモチベーションを強く持つ学生を受け入れようとするものである。また、平成 28 年度には AO 入試（国際バカロレア入試）を導入した。文学部は、これらの学生募集活動に際し、入学センターが作成した「広島大学で何が学べるか」、「入学者選抜に関する要項」、「学生募集要項」等の募集案内を配布するとともに、オープンキャンパスや公開説明会・受験相談会、西日本地区および広島県内各地の高等学校等に積極的に出向いて大学・学部紹介等の広報活動を行っている。

これに加えて文学部独自の広報活動として、広報パンフレット「新しい知の探求」、広報ビデオ「新しい知の探求」を作成・配布するとともに、その内容をホームページに掲載してインターネット上でも公開している。近年の高度情報化社会においてインターネット上の情報公開は非常に効果が大きいので、このホームページを年々改善・更新することによって、文学部の特色・教育内容・学生生活等の実態を受験生によりよく理解してもらえるよう努めている。

### (2) 入学者の選考

文学部の入学定員は、人文学科 140 名である。平成 28 年度の入学者選抜方法は主として一般入試および AO 入試によった。一般入試は分離分割方式を採用しており、センター試験と個別学力試験を課す前期日程（募集人員 95 名）、センター試験と面接試験を課す後期日程（募集人員 20 名）に分かれる。AO 入試は総合評価方式Ⅲ型（募集人員 25 名）、国際バカロレア入試（募集人員若干名）、フェニックス方式（募集人員若干名）によって行った。さらに 3 年次編入学試験（募集人員 10 名）を実施している。それぞれ多様な角度から学力を厳正に測り、質の確保に十分力を尽くしている。

### (3) 入学者の状況

平成 28 年度に実施した入試における文学部人文学科の入学志願者数・受験者数は、483 名・298 名、合格者数・入学者数は 157 名・150 名である（表 3-1、表 3-2）。ここ数年で最低を記録した平成 24 年度の入学志願者数と受験者数は、平成 27 年度入試からセンター試験における地歴・公民の選択方法を改め、公民科目の選択幅を広げて受験しやすくするという方法を採用したことにより、やや上向きに転じ、平成 28 年度にはその効果が一層

顕著になった。

入学志願者の出身地としては、広島県を中心とした中国・四国のほか、九州、近畿地方の出身者が多い。県内の出身者の占める比率は、前回とほぼ同じく 25%前後となっている。このほか、県別では愛知県、静岡県が増加傾向にある（表 3-3）。

## ２．教育活動

### (1) 教育コース

文学部では人文学科に、哲学・思想文化学コース、歴史学コース、地理学・考古学・文化財学コース、日本・中国文学語学コース、欧米文学語学・言語学コースという 5 つの教育コースを設けて学部教育を行っている。コース決定は、あらかじめ入学時のオリエンテーションの中で説明した後、第 1 年次前期終了時に予備調査を行い、後期開始時の調査結果の公示を経て、第 1 年次末に、各コースの受入れ目安を勘案して、学業成績（GPA）と志望理由とにもとづいて決定している。

広島大学が平成 18 年度から導入した到達目標型教育プログラム（HiPROSPECTS）は、主専攻プログラム・副専攻プログラム・特定プログラムからなる。そのうち、学士号を取得するために全員が登録する主専攻プログラムは、文学部においては、1 年次終了時に行われるコース決定に対応した 5 つの教育プログラムをもって編成されている。選択に伴う大きな混乱は、現在まではない。

### (2) 「教養ゼミ」「入門科目」

「教養ゼミ」と「入門科目」は、教育コースの決定に先立って、本学部専門教育担当教員が新入生を対象にして、それぞれ第 1・第 2 セメスターに開講する授業科目である。

「教養ゼミ」は、専門教育に先立つ共通的・予備的授業を行うためのもので、学生を約 10 名ずつにグループ分けして実施している。教員については、各専門分野から 1 名ずつ、計 16 名が指導にあたり、受講生の受動的学習から能動的学習への転換を促している。

「入門科目」は、16 の専門分野に対応して、それぞれの分野の内容を入門的に紹介する授業として開設されている。教育コースを志望する際の参考にすることができるよう、開講時間についても隣接分野との重なりを避ける等の配慮をしつつ、毎週水曜日の午後（5・6 時限、7・8 時限、9・10 時限）に設定することによって複数履修の便宜を図っている。

### (3) 授業の開講と履修状況

平成 28 年度の開設授業科目数は前期（1～2T）207 コマ、後期（3～4T）210 コマとなっている（表 3-4）。専任教員担当の授業総時間は 316.5 時間である。平成 26 年度から加わった AIMS-HU プログラムの授業総時間は 4.0 時間である（表 3-5）。

開設授業科目数は前年度に比して若干の減少となっているが、国立大学への運営費交付

金削減にともない、退職した専任教員の後任補充に支障をきたしていることがその一つの要因である。この状態が続くのであれば、今後教育プログラムの維持や教育の質・水準を保つことはきわめて困難となっていく。全学の抜本的な対策が必要となっている。

履修した授業科目の単位取得状況（合格率）は、前期・後期を通じて 90%前後である（表 3-6)。全体として学生は、相変わらず順調に学習している。

また、文学部では各プログラムにおいて、自由選択科目として 10～16 単位を他学部からでも履修できることを認めている。平成 28 年度卒業生の多くは、文学部以外の授業もかなり履修している（表 3-7 および分布図)。

なお、教職志望者への便宜として、教育学部等で開設される教職に関する専門科目を自由選択科目に参入できるように改めた教育課程を、平成 26 年度入学生から適用している。

### (4) 学生の休学、退学状況

留学・語学研修を除く学生の休学は、平成 28 年度前期 16 名、後期 8 名であり、過去数年間とあまり変化はない。海外留学・語学研修による休学は、前期 3 名、後期 4 名であった（表 3-8)。特に多いとは言えないが、着実に海外長期留学者を出している。グローバル人材の育成を加速させるため、今後も一層積極的な取り組みが求められる。

また、退学者は前年度同様の 4 名であった（表 3-9)。

## ３．就学援助

### (1) 日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構の奨学生に関する選考は、例年通り書類審査にもとづいて実施されている。在学生に対する奨学生（外国人留学生を除く）の割合は、平成 28 年度は 47.1%と、例年並みの 50%弱で推移した(表 3-10)。入学年度別にみると、平成 28 年度入学生の 56.8%が奨学金を給付されている（表 3-11)。景気は回復傾向にあるとはいえ、保護者の経済支援が十分でなく、奨学金とアルバイトで生計を立てる学生像が一般的となりつつある状況において、貸与型でなく支給型の奨学金の拡充を切望する次第である。

### (2) 授業料の減免

授業料は、減免を申請した学生について書類審査にもとづき減免措置が実施されている。平成 23 年度から減免金額がかなり増加して、その傾向が平成 28 年度も続いている。他方で、不許可者は同前期 7 名、同後期 5 名で、平成 27 年度に引き続きやや多くなっている（表 3-12)。

## ４．卒業生の進路・活動状況

平成 28 年度文学部卒業生 169 名の進路状況は、大学院進学者 17%（前年度 20%)、公

務員・教員・企業等に就職した者 73%（前年度 64%）、その他が 9%（前年度 5%）であった（表 3-13）。このうち「その他」には教員・公務員志望者が多く含まれており、2 年後・3 年後にほぼ希望を叶えて就職していくケースが多いが、現在のアンケート方式では数値を把握し難い。過年度生の就職状況も、もう少し追跡していく必要があるだろう。

火曜日 9・10 時限のリテラ・アワーで、民間企業（マイナビ）講師によるガイダンスや、OB・OG・就職内定者による体験談等々の企画をいっそう充実させて、学生の就職活動への意識を高めるとともに、優秀な人材を社会に送り出すよう就職指導をより強化しているところである。卒業者の主な就職先は、表 3-14 に示すとおりである。企業の業種別では、出版ジャーナリズム・地方銀行・観光運輸等が有力な就職先であることがわかる。

かつて広島大学文学部からは多くの優秀な高校教員を輩出してきたが、新卒時に採用に至らない、ないし教員志望を持ちつつも断念する学生が少なくない。教員となった卒業生が教え子に本学文学部の受験を勧めるという循環構造を維持するためにも、各教科内容を十分に身につけた学生を、教育学部との連携強化も模索して、積極的に高校の教壇に立てるよう支援していく必要がある。その一環として、OB を招いて教員採用試験のための講演会や国語科教員採用対策講習会を実施している。

平成 20 年度より就学相談室を設置し、キャリアカウンセラーの資格を持つ相談員が就職・就学上の悩みを抱えている学生に対して個別相談を実施しており、近年利用者が著しく増加している。さらなる充実を図っていきたい。

## ５．文部科学省「大学の世界展開力強化事業」

### アジアの共同経済発展と信頼関係の確立による平和構築に貢献する中核人財教育プログラム

平成 25 年度文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」に採択され、本研究科の教員 13 名がプログラム担当教員として参画している。

平成 28 年度における本学部の受入学生は 5 名、派遣学生は 2 名である。

表３－１　広島大学文学部入学試験実施状況（１）

| 入学年度 | 学科 | 選考方式 | 募集人員 | 志願者数 | | | 受験者数 | | | 合格者数 | | | 入学者数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 平成23年度 | 人文学科 | 前期 | 95 | 116 | ◎1<br>104 | ◎1<br>220 | 114 | ◎1<br>102 | ◎1<br>216 | 51 | 49 | 100 | 49 | 47 | 96 |
| | | 後期 | 20 | 36 | ◎3<br>41 | ◎3<br>77 | 17 | ◎2<br>13 | ◎2<br>30 | 6 | 14 | 20 | 5 | 12 | 17 |
| | | AO入試(ｾﾞﾐﾅｰﾙ選抜) | 25 | 29 | 58 | 87 | 16 | 25 | 41 | 10 | 16 | 26 | 10 | 16 | 26 |
| | | AO入試(ﾌｪﾆｯｸｽ方式) | 若干名 | 1 | 3 | 4 | 1 | 3 | 4 | 1 | 3 | 4 | 1 | 3 | 4 |
| | | 合計 | 140 | 182 | ◎4<br>206 | ◎4<br>388 | 148 | ◎3<br>143 | ◎3<br>291 | 68 | 82 | 150 | 65 | 78 | 143 |
| 平成24年度 | 人文学科 | 前期 | 95 | 76 | 62 | 138 | 75 | 59 | 134 | 56 | 51 | 107 | 54 | 49 | 103 |
| | | 後期 | 20 | ◎1<br>37 | 21 | ◎1<br>58 | ◎1<br>10 | 6 | ◎1<br>16 | ◎1<br>8 | 6 | ◎1<br>14 | ◎1<br>6 | 5 | ◎1<br>11 |
| | | AO入試(ｾﾞﾐﾅｰﾙ選抜) | 25 | 38 | 44 | 82 | 14 | 21 | 35 | 11 | 14 | 25 | 11 | 14 | 25 |
| | | AO入試(ﾌｪﾆｯｸｽ方式) | 若干名 | 2 | 3 | 5 | 2 | 3 | 5 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| | | 合計 | 140 | ◎1<br>153 | 130 | ◎1<br>283 | ◎1<br>101 | 89 | ◎1<br>190 | ◎1<br>76 | 71 | ◎1<br>147 | ◎1<br>72 | 68 | ◎1<br>140 |
| 平成25年度 | 人文学科 | 前期 | 95 | 111 | ◎1<br>100 | ◎1<br>211 | 109 | 99 | 208 | 52 | 54 | 106 | 49 | 54 | 103 |
| | | 後期 | 20 | ◎2<br>62 | 59 | ◎2<br>121 | 17 | 23 | 40 | 7 | 14 | 21 | 7 | 13 | 20 |
| | | AO入試(ｾﾞﾐﾅｰﾙ選抜) | 25 | 27 | 42 | 69 | 12 | 23 | 35 | 7 | 20 | 27 | 7 | 20 | 27 |
| | | AO入試(ﾌｪﾆｯｸｽ方式) | 若干名 | 5 | 4 | 9 | 5 | 4 | 9 | 2 | 1 | 3 | 2 | 1 | 3 |
| | | 合計 | 140 | ◎2<br>205 | ◎1<br>205 | ◎3<br>410 | 143 | 149 | 292 | 68 | 89 | 157 | 65 | 88 | 153 |
| 平成26年度 | 人文学科 | 前期 | 95 | ◎1<br>111 | 86 | ◎1<br>197 | ◎1<br>110 | 84 | ◎1<br>194 | ◎1<br>53 | 54 | ◎1<br>107 | ◎1<br>51 | 51 | ◎1<br>102 |
| | | 後期 | 20 | ◎1<br>46 | ◎2<br>32 | ◎3<br>78 | 15 | 8 | 23 | 12 | 6 | 18 | 10 | 5 | 15 |
| | | AO入試(ｾﾞﾐﾅｰﾙ選抜) | 25 | 28 | 39 | 67 | 11 | 22 | 33 | 8 | 17 | 25 | 8 | 17 | 25 |
| | | AO入試(ﾌｪﾆｯｸｽ方式) | 若干名 | 2 | 3 | 5 | 2 | 3 | 5 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 |
| | | 合計 | 140 | ◎2<br>187 | ◎2<br>160 | ◎4<br>347 | ◎1<br>138 | 117 | ◎1<br>255 | ◎1<br>74 | 78 | ◎1<br>152 | ◎1<br>70 | 74 | ◎1<br>144 |
| 平成27年度 | 人文学科 | 前期 | 95 | 101 | 84 | 185 | 96 | 82 | 178 | 54 | 53 | 107 | 52 | 50 | 102 |
| | | 後期 | 20 | ◎1<br>54 | ◎1<br>47 | ◎2<br>101 | 19 | ◎1<br>14 | ◎1<br>33 | 12 | ◎1<br>11 | ◎1<br>23 | 9 | ◎1<br>11 | ◎1<br>20 |
| | | AO入試(ｾﾞﾐﾅｰﾙ選抜) | 25 | 44 | 61 | 105 | 18 | 24 | 42 | 8 | 17 | 25 | 8 | 17 | 25 |
| | | AO入試(ﾌｪﾆｯｸｽ方式) | 若干名 | 2 | 1 | 3 | 2 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| | | 合計 | 140 | ◎1<br>201 | ◎1<br>193 | ◎2<br>394 | 135 | ◎1<br>121 | ◎1<br>256 | 75 | ◎1<br>81 | ◎1<br>156 | 70 | ◎1<br>78 | ◎1<br>148 |
| 平成28年度 | 人文学科 | 前期 | 95 | 109 | ◎1<br>105 | ◎1<br>214 | 105 | ◎1<br>103 | ◎1<br>208 | 53 | ◎1<br>53 | ◎1<br>106 | 51 | ◎1<br>52 | ◎1<br>103 |
| | | 後期 | 20 | ◎2<br>99 | ◎1<br>67 | ◎3<br>166 | ◎2<br>32 | 15 | ◎2<br>47 | ◎2<br>14 | 6 | ◎2<br>20 | ◎2<br>13 | 4 | ◎2<br>17 |
| | | AO入試(ｾﾞﾐﾅｰﾙ選抜) | 25 | 42 | 49 | 91 | 14 | 16 | 30 | 9 | 16 | 25 | 9 | 16 | 25 |
| | | AO入試(ﾌｪﾆｯｸｽ方式) | 若干名 | 3 | 3 | 6 | 3 | 3 | 6 | 2 | 1 | 3 | 2 | 1 | 3 |
| | | 合計 | 140 | ◎2<br>253 | ◎2<br>224 | ◎4<br>477 | ◎2<br>154 | ◎1<br>137 | ◎3<br>291 | ◎2<br>78 | ◎1<br>76 | ◎3<br>154 | ◎2<br>75 | ◎1<br>73 | ◎3<br>148 |
| 平成29年度 | 人文学科 | 前期 | 95 | ◎2<br>108 | 101 | ◎2<br>209 | 108 | 101 | 209 | 50 | 57 | 107 | 46 | 56 | 102 |
| | | 後期 | 20 | 108 | ◎1<br>88 | ◎1<br>196 | 35 | ◎1<br>18 | ◎1<br>53 | 12 | ◎1<br>11 | ◎1<br>23 | 11 | ◎1<br>10 | ◎1<br>21 |
| | | AO入試(ｾﾞﾐﾅｰﾙ選抜) | 25 | 32 | 40 | 72 | 14 | 16 | 30 | 12 | 13 | 25 | 12 | 13 | 25 |
| | | AO入試(ﾌｪﾆｯｸｽ方式) | 若干名 | 3 | 3 | 6 | 3 | 3 | 6 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 |
| | | AO入試(国際ﾊﾞｶﾛﾚｱ) | 若干名 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 合計 | 140 | ◎2<br>251 | ◎1<br>232 | ◎3<br>483 | 160 | ◎1<br>138 | ◎1<br>298 | 75 | ◎1<br>82 | ◎1<br>157 | 70 | ◎1<br>80 | ◎1<br>150 |

注：AO入試(ｾﾞﾐﾅｰﾙ入試）の受験者数は，第２次選考の受験者数を示す。
　◎は，私費外国人留学生を外数で示す。

表３－２（ａ）　広島大学文学部入学試験実施状況（２）

| 年度 | 学科 | 入学定員 | 志願者数 | | | 受験者数 | | | 合格者数 | | | 入学者数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 平成21年度 | 人文学科 | 140 | 234 | 286 | 520 | 148 | 186 | 334 | 58 | 96 | 154 | 56 | 94 | 150 |
| 平成22年度 | 人文学科 | 140 | ◎3<br>192 | ◎1<br>225 | ◎4<br>417 | ◎2<br>131 | 154 | ◎2<br>285 | ◎1<br>55 | 97 | ◎1<br>152 | ◎1<br>50 | 92 | ◎1<br>142 |
| 平成23年度 | 人文学科 | 140 | 182 | ◎4<br>206 | ◎4<br>388 | 148 | ◎3<br>143 | ◎3<br>291 | 68 | 82 | 150 | 65 | 78 | 143 |
| 平成24年度 | 人文学科 | 140 | ◎1<br>153 | 130 | ◎1<br>283 | ◎1<br>101 | 89 | ◎1<br>190 | ◎1<br>76 | 71 | ◎1<br>147 | ◎1<br>72 | 68 | ◎1<br>140 |
| 平成25年度 | 人文学科 | 140 | ◎2<br>205 | ◎1<br>205 | ◎3<br>410 | 143 | 149 | 292 | 68 | 89 | 157 | 65 | 88 | 153 |
| 平成26年度 | 人文学科 | 140 | ◎2<br>187 | ◎2<br>160 | ◎4<br>347 | ◎1<br>138 | 117 | ◎1<br>255 | ◎1<br>74 | 78 | ◎1<br>152 | ◎1<br>70 | 74 | ◎1<br>144 |
| 平成27年度 | 人文学科 | 140 | ◎1<br>201 | ◎1<br>193 | ◎2<br>394 | 135 | ◎1<br>121 | ◎1<br>256 | 75 | ◎1<br>81 | ◎1<br>156 | 70 | ◎1<br>78 | ◎1<br>148 |
| 平成28年度 | 人文学科 | 140 | ◎2<br>253 | ◎2<br>224 | ◎4<br>477 | ◎2<br>154 | ◎1<br>137 | ◎3<br>291 | ◎2<br>78 | ◎1<br>76 | ◎3<br>154 | ◎2<br>75 | ◎1<br>73 | ◎3<br>148 |
| 平成29年度 | 人文学科 | 140 | ◎2<br>251 | ◎1<br>232 | ◎3<br>483 | 160 | ◎1<br>138 | ◎1<br>298 | 75 | ◎1<br>82 | ◎1<br>157 | 70 | ◎1<br>80 | ◎1<br>150 |

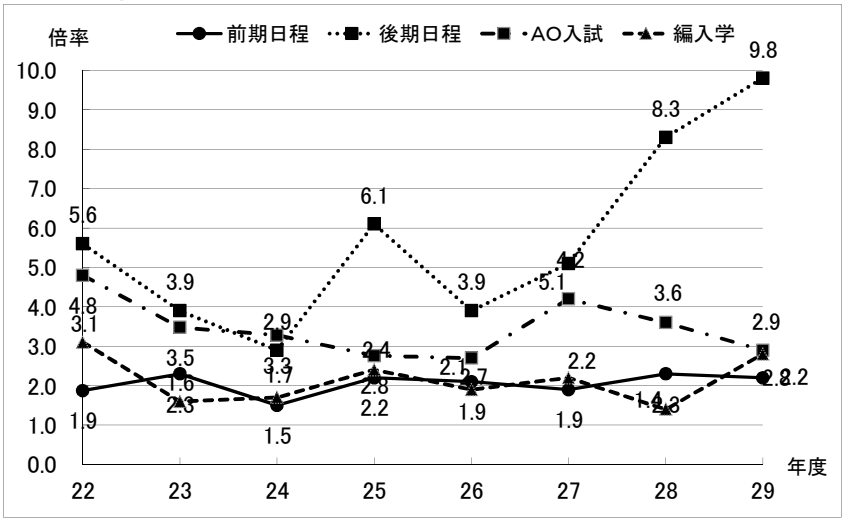
注：◎は，私費外国人留学生を外数で示す。

表３－２（ｂ）　広島大学文学部編入学試験実施状況

| 年度 | 学科 | 入学定員 | 志願者数 | | | 受験者数 | | | 合格者数 | | | 入学者数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 平成22年度 | 人文学科 | 10 | 11 | 20 | 31 | 9 | 20 | 29 | 6 | 11 | 17 | 6 | 11 | 17 |
| 平成23年度 | 人文学科 | 10 | 6 | 10 | 16 | 6 | 8 | 14 | 3 | 5 | 8 | 3 | 4 | 7 |
| 平成24年度 | 人文学科 | 10 | 4 | 13 | 17 | 4 | 11 | 15 | 0 | 4 | 4 | 0 | 4 | 4 |
| 平成25年度 | 人文学科 | 10 | 13 | 11 | 24 | 13 | 11 | 24 | 6 | 4 | 10 | 5 | 4 | 9 |
| 平成26年度 | 人文学科 | 10 | 12 | 7 | 19 | 10 | 7 | 17 | 3 | 5 | 8 | 3 | 5 | 8 |
| 平成27年度 | 人文学科 | 10 | 7 | 15 | 22 | 5 | 14 | 19 | 2 | 6 | 8 | 1 | 6 | 7 |
| 平成28年度 | 人文学科 | 10 | ◎1<br>11 | 3 | ◎1<br>14 | ◎1<br>11 | 3 | ◎1<br>14 | ◎1<br>4 | 1 | ◎1<br>5 | ◎1<br>3 | 1 | ◎1<br>4 |
| 平成29年度 | 人文学科 | 10 | ◎1<br>16 | 12 | ◎1<br>28 | ◎1<br>15 | 12 | ◎1<br>27 | ◎1<br>6 | 6 | ◎1<br>12 | ◎1<br>5 | 6 | ◎1<br>11 |

注：◎は，私費外国人留学生を外数で示す。

（参考）広島大学文学部志願倍率の推移

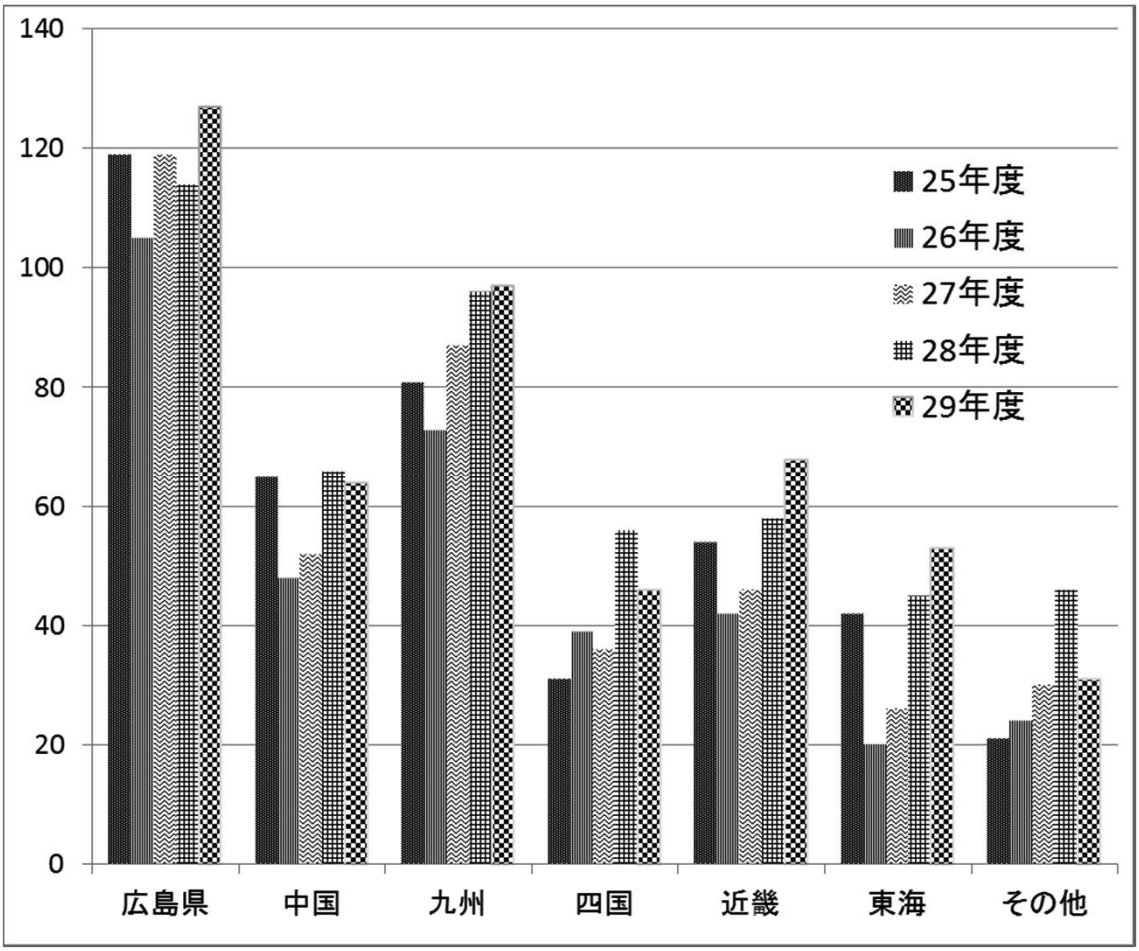


## 表３－３　都道府県別志願者数・合格者数

| 都道府県 | 平成25年度 | | 平成26年度 | | 平成27年度 | | 平成28年度 | | 平成29年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 志願者数 | 合格者数 | 志願者数 | 合格者数 | 志願者数 | 合格者数 | 志願者数 | 合格者数 | 志願者数 | 合格者数 |
| 北海道 | 2 | 1 | 4 | 2 | 2 | | 4 | | 7 | 1 |
| 青森 | | | | | | | | | | |
| 岩手 | | | | | | | | | | |
| 宮城 | 1 | 1 | | | | | 2 | | 2 | 0 |
| 秋田 | | | | | | | 2 | 1 | | |
| 山形 | 1 | | | | 1 | 1 | | | 2 | 0 |
| 福島 | 1 | | | | | | | | | |
| 茨城 | 1 | 1 | | | 1 | | 6 | 1 | 3 | 0 |
| 栃木 | 1 | 1 | 2 | | 1 | | | | | |
| 群馬 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 0 |
| 埼玉 | | | | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 千葉 | 3 | 1 | 3 | 1 | | | 2 | | 2 | 1 |
| 東京 | 1 | 1 | 1 | | 1 | | 3 | | | |
| 神奈川 | | | | | 3 | | 4 | 1 | | |
| 新潟 | | | | | 2 | 1 | | | 1 | 0 |
| 富山 | | | | | | | 1 | | 2 | 1 |
| 石川 | 3 | 2 | 1 | 1 | 4 | 2 | 1 | | 1 | 0 |
| 福井 | | | 2 | | 6 | 4 | 6 | 1 | 3 | 2 |
| 山梨 | | | | | 3 | 1 | | | 2 | 1 |
| 長野 | 1 | | 3 | | 2 | | 4 | 1 | 1 | 0 |
| 岐阜 | 6 | | 4 | 2 | 2 | 1 | 3 | 2 | 11 | 1 |
| 静岡 | 7 | 2 | 4 | 1 | 7 | 4 | 16 | 5 | 14 | 6 |
| 愛知 | 17 | 6 | 10 | 3 | 12 | 6 | 17 | 6 | 22 | 6 |
| 三重 | 12 | 5 | 2 | 1 | 5 | 2 | 9 | 1 | 6 | 1 |
| 滋賀 | 5 | 2 | 4 | 1 | 3 | 1 | 5 | 1 | 7 | 1 |
| 京都 | 13 | 8 | 3 | | 4 | 4 | 12 | 6 | 9 | 2 |
| 大阪 | 15 | 4 | 11 | 4 | 10 | 2 | 16 | 4 | 20 | 4 |
| 兵庫 | 13 | 5 | 20 | 8 | 24 | 6 | 16 | 5 | 26 | 6 |
| 奈良 | 4 | | 3 | | 1 | | 5 | 1 | | |
| 和歌山 | 4 | 2 | 1 | | 4 | 2 | 4 | 1 | 6 | 3 |
| 鳥取 | 8 | 1 | 8 | 3 | 6 | 3 | 8 | 3 | 11 | 5 |
| 島根 | 10 | 5 | 8 | 5 | 15 | 9 | 13 | 6 | 7 | 4 |
| 岡山 | 28 | 14 | 16 | 7 | 15 | 5 | 25 | 11 | 23 | 10 |
| 広島 | 119 | 45 | 105 | 56 | 119 | 45 | 114 | 33 | 127 | 44 |
| 山口 | 19 | 7 | 16 | 7 | 16 | 6 | 20 | 3 | 23 | 7 |
| 徳島 | 8 | 5 | 8 | 4 | 5 | 2 | 10 | 4 | 6 | 4 |
| 香川 | 7 | 2 | 6 | 1 | 13 | 6 | 14 | 9 | 11 | 6 |
| 愛媛 | 13 | 6 | 21 | 11 | 15 | 5 | 27 | 12 | 23 | 8 |
| 高知 | 3 | 1 | 4 | 4 | 3 | 1 | 5 | 1 | 6 | 2 |
| 福岡 | 30 | 8 | 24 | 7 | 26 | 7 | 36 | 4 | 33 | 8 |
| 佐賀 | 7 | 2 | 1 | 1 | 14 | 5 | 11 | 5 | 12 | 4 |
| 長崎 | 12 | 3 | 11 | 7 | 6 | 5 | 14 | 7 | 13 | 3 |
| 熊本 | 10 | 5 | 6 | 2 | 4 | 2 | 8 | 3 | 8 | 2 |
| 大分 | 9 | 3 | 14 | 5 | 14 | 5 | 10 | 6 | 12 | 4 |
| 宮崎 | 4 | 1 | 3 | 1 | 9 | 6 | 5 | 3 | 6 | 4 |
| 鹿児島 | 9 | 6 | 14 | 5 | 14 | 6 | 12 | 5 | 13 | 5 |
| 沖縄 | | | | | 1 | | 1 | | | |
| その他 | 5 | | 7 | 2 | 2 | 1 | 7 | 4 | 3 | 1 |
| 合計 | 413 | 157 | 351 | 153 | 396 | 157 | 481 | 157 | 486 | 158 |

注：その他は，高卒認定，外国の学校等を示す。

（参考）地域別志願者数の推移（中国地方は広島県を除く）



## 表３－４　平成２８年度　文学部　週間授業開設数

| コース等 | 曜日 | 前期 | | | | | | 後期 | | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1・2 | 3・4 | 5・6 | 7・8 | 9・10 | 小計 | 1・2 | 3・4 | 5・6 | 7・8 | 9・10 | 小計 | |
| 哲学・思想文化学 | 月 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 4 |
| | 火 | 6 | 8 | 0 | 1 | 0 | 15 | 4 | 7 | 2 | 1 | 0 | 14 | 29 |
| | 水 | 0 | 6 | 0 | 0 | 1 | 7 | 0 | 3 | 1 | 1 | 2 | 7 | 14 |
| | 木 | 2 | 1 | 3 | 4 | 1 | 11 | 1 | 4 | 4 | 4 | 1 | 14 | 25 |
| | 金 | 2 | 4 | 3 | 2 | 0 | 11 | 2 | 4 | 3 | 2 | 0 | 11 | 22 |
| | 計 | 10 | 21 | 6 | 7 | 2 | 46 | 7 | 20 | 10 | 8 | 3 | 48 | 94 |
| 歴史学 | 月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 火 | 4 | 2 | 3 | 2 | 0 | 11 | 0 | 4 | 2 | 3 | 2 | 11 | 22 |
| | 水 | 0 | 4 | 1 | 0 | 3 | 8 | 0 | 4 | 2 | 1 | 4 | 11 | 19 |
| | 木 | 1 | 2 | 2 | 0 | 0 | 5 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 5 | 10 |
| | 金 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 | 6 | 2 | 3 | 2 | 1 | 0 | 8 | 14 |
| | 計 | 7 | 10 | 7 | 3 | 3 | 30 | 3 | 12 | 8 | 6 | 6 | 35 | 65 |
| 地理学・考古学・文化財学 | 月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | 火 | 1 | 2 | 2 | 2 | 0 | 7 | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 8 | 15 |
| | 水 | 0 | 3 | 1 | 3 | 1 | 8 | 1 | 3 | 2 | 2 | 3 | 11 | 19 |
| | 木 | 3 | 2 | 2 | 1 | 3 | 11 | 3 | 1 | 3 | 1 | 1 | 9 | 20 |
| | 金 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 5 | 1 | 1 | 2 | 2 | 0 | 6 | 11 |
| | 計 | 5 | 8 | 7 | 7 | 4 | 31 | 7 | 8 | 9 | 7 | 4 | 35 | 66 |
| 日本・中国文学語学 | 月 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 火 | 1 | 1 | 3 | 2 | 0 | 7 | 0 | 1 | 2 | 3 | 0 | 6 | 13 |
| | 水 | 0 | 2 | 0 | 1 | 1 | 4 | 0 | 2 | 1 | 2 | 2 | 7 | 11 |
| | 木 | 0 | 4 | 3 | 3 | 0 | 10 | 0 | 2 | 3 | 2 | 0 | 7 | 17 |
| | 金 | 0 | 1 | 2 | 2 | 0 | 5 | 0 | 3 | 2 | 3 | 0 | 8 | 13 |
| | 計 | 1 | 9 | 9 | 8 | 1 | 28 | 0 | 8 | 8 | 10 | 2 | 28 | 56 |
| 欧米文学語学・言語学 | 月 | 3 | 0 | 2 | 2 | 0 | 7 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 9 |
| | 火 | 0 | 4 | 8 | 5 | 1 | 18 | 0 | 5 | 4 | 5 | 1 | 15 | 33 |
| | 水 | 0 | 6 | 0 | 2 | 1 | 9 | 0 | 6 | 3 | 4 | 2 | 15 | 24 |
| | 木 | 1 | 6 | 6 | 2 | 0 | 15 | 0 | 5 | 4 | 2 | 0 | 11 | 26 |
| | 金 | 0 | 6 | 5 | 4 | 0 | 15 | 0 | 4 | 5 | 5 | 0 | 14 | 29 |
| | 計 | 4 | 22 | 21 | 15 | 2 | 64 | 0 | 20 | 18 | 16 | 3 | 57 | 121 |
| 共　通 | 月 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 4 |
| | 火 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| | 水 | 0 | 1 | 2 | 1 | 1 | 5 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 3 | 8 |
| | 木 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 |
| | 金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 1 | 2 | 2 | 3 | 8 | 0 | 0 | 1 | 2 | 4 | 7 | 15 |
| 合　計 | 月 | 3 | 3 | 3 | 3 | 1 | 13 | 0 | 3 | 2 | 1 | 1 | 7 | 20 |
| | 火 | 12 | 17 | 16 | 12 | 2 | 59 | 6 | 19 | 12 | 14 | 4 | 55 | 114 |
| | 水 | 0 | 22 | 4 | 7 | 8 | 41 | 1 | 18 | 10 | 11 | 14 | 54 | 95 |
| | 木 | 7 | 15 | 16 | 10 | 4 | 52 | 5 | 13 | 16 | 10 | 3 | 47 | 99 |
| | 金 | 5 | 14 | 13 | 10 | 0 | 42 | 5 | 15 | 14 | 13 | 0 | 47 | 89 |
| | 計 | 27 | 71 | 52 | 42 | 15 | 207 | 17 | 68 | 54 | 49 | 22 | 210 | 417 |

注1：教養ゼミ，集中講義，卒業論文指導を除く。
注2：総合科学部が開設し，文学部の専門教育科目として読み替えられる科目を含む。
　　（3科目…地理学・考古学・文化財学コース）
注3：ターム開講科目など1回の授業が2時限を超えるものは，開始時限の該当欄に算入した。
　　（2～4時限→1・2時限，7～9時限→7・8時限　など）
注4：ターム開講科目で週2回開講する科目は早い曜日に算入した（前期２科目）。

## 表３－５　文学部・文学研究科　教員の週間授業担当時間数

| 年度 | 専任教授・准教授・助教 | | | | | | | | | | | | 非常勤講師（学外） | | | 非常勤講師（学内） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学部授業 | | | AIMS-HU プログラム授業 | | | 大学院授業 | | | 博士課程リーディング育成プログラム授業 | | | 学部・大学院授業 | | | 学部・大学院授業 | | |
| | 総時間（コマ） | 人数 | 平均時間 | 総時間（コマ） | 人数 | 平均時間 | 総時間（コマ） | 人数 | 平均時間 | 総時間（コマ） | 人数 | 平均時間 | 総時間（コマ） | 人数 | 平均時間 | 総時間（コマ） | 人数 | 平均時間 |
| 平成16年度 | 289.5 | 51 | 5.7 | | | | 199.0 | 52 | 3.8 | | | | 40.0 | 27 | 1.5 | 44.0 | 14 | 3.1 |
| 平成17年度 | 286.5 | 50 | 5.7 | | | | 181.0 | 51 | 3.5 | | | | 39.0 | 26 | 1.5 | 41.5 | 13 | 3.2 |
| 平成18年度 | 263.0 | 47 | 5.6 | | | | 165.0 | 50 | 3.3 | | | | 40.0 | 24 | 1.7 | 34.0 | 9 | 3.8 |
| 平成19年度 | 282.0 | 57 | 4.9 | | | | 183.0 | 59 | 3.1 | | | | 38.0 | 22 | 1.7 | 53.0 | 18 | 2.9 |
| 平成20年度 | 287.0 | 54 | 5.3 | | | | 172.0 | 56 | 3.1 | | | | 51.0 | 30 | 1.7 | 54.0 | 17 | 3.2 |
| 平成21年度 | 313.0 | 54 | 5.8 | | | | 172.0 | 57 | 3.0 | | | | 40.0 | 28 | 1.4 | 50.0 | 16 | 3.1 |
| 平成22年度 | 314.0 | 52 | 6.0 | | | | 186.0 | 55 | 3.4 | | | | 41.0 | 27 | 1.5 | 46.0 | 15 | 3.1 |
| 平成23年度 | 326.0 | 55 | 5.9 | | | | 178.0 | 56 | 3.2 | | | | 42.0 | 28 | 1.5 | 42.0 | 13 | 3.2 |
| 平成24年度 | 331.0 | 58 | 5.7 | | | | 190.0 | 61 | 3.1 | | | | 51.0 | 34 | 1.5 | 11.0 | 7 | 1.6 |
| 平成25年度 | 335.0 | 58 | 5.8 | | | | 189.0 | 60 | 3.2 | | | | 51.0 | 34 | 1.5 | 11.0 | 7 | 1.6 |
| 平成26年度 | 336.5 | 58 | 5.8 | 4.0 | 4 | 1.0 | 193.0 | 60 | 3.2 | 1.0 | 1 | 1.0 | 51.0 | 34 | 1.5 | 16.0 | 9 | 1.8 |
| 平成27年度 | 312.0 | 56 | 5.6 | 4.0 | 4 | 1.0 | 179.0 | 57 | 3.1 | 1.0 | 1 | 1.0 | 63.0 | 38 | 1.7 | 15.0 | 9 | 1.7 |
| 平成28年度 | 316.5 | 57 | 5.6 | 4.0 | 4 | 1.0 | 190.0 | 57 | 3.3 | 1.0 | 1 | 1.0 | 73.5 | 42 | 1.8 | 20.0 | 10 | 2.0 |

注1：専任教員の「総時間」は，卒業論文指導・特別研究指導・集中の科目（実習など）を含んでいない。
注2：同時間帯・同内容の科目は，科目名が異なっていても1科目としている。
注3：専任教員の「人数」は，当該年度に学部・大学院で授業を担当した教員数を表す。
注4：非常勤講師の「総時間」は，担当するすべての科目（毎週・集中問わず）を算入している。
注5：平成17年度までの間，協力教員（協力講座を含む）・外国人教師の担当科目は学内非常勤講師に算入している。
注6：平成18～23年度の間，外国人の教員は外国語教育研究センターの所属であった（学内非常勤講師）。
注7：平成26年度より開始した「AIMS-HUプログラム」及び「博士課程リーディング育成プログラム」を追加。ただし，文学部・文学研究科の授業と同時間帯・同内容の科目は文学部・文学研究科の授業に算定。

## 表３－６　平成２８年度　文学部開設授業の履修状況

| コース等 | 分野等 | 前期 | | | | | | | 後期 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 科目数 | 単位数 | 履修届提出者数 | | | 合格者数 | 合格率 | 科目数 | 単位数 | 履修届提出者数 | | | 合格者数 | 合格率 |
| | | | | 文学部 | 他学部 | 計 | | | | | 文学部 | 他学部 | 計 | | |
| 哲学・思想文化学 | 西洋哲学 | 18 | 36 | 145 | 36 | 181 | 136 | 75.1% | 14 | 28 | 94 | 11 | 105 | 82 | 78.1% |
| | インド哲学・仏教学 | 13 | 26 | 112 | 3 | 115 | 100 | 87.0% | 14 | 28 | 115 | 51 | 166 | 148 | 89.2% |
| | 倫理学 | 9 | 18 | 121 | 5 | 126 | 105 | 83.3% | 10 | 20 | 110 | 26 | 136 | 126 | 92.6% |
| | 中国思想文化学 | 11 | 22 | 52 | 4 | 56 | 49 | 87.5% | 11 | 22 | 48 | 3 | 51 | 44 | 86.3% |
| | 計 | 51 | 102 | 430 | 48 | 478 | 390 | 81.6% | 49 | 98 | 367 | 91 | 458 | 400 | 87.3% |
| 歴史学 | 日本史学 | 14 | 26 | 255 | 69 | 324 | 298 | 92.0% | 13 | 26 | 247 | 2 | 249 | 233 | 93.6% |
| | 東洋史学 | 11 | 22 | 87 | 11 | 98 | 89 | 90.8% | 13 | 26 | 91 | 4 | 95 | 79 | 83.2% |
| | 西洋史学 | 9 | 18 | 197 | 30 | 227 | 208 | 91.6% | 9 | 18 | 200 | 34 | 234 | 202 | 86.3% |
| | 計 | 34 | 66 | 539 | 110 | 649 | 595 | 91.7% | 35 | 70 | 538 | 40 | 578 | 514 | 88.9% |
| 地理学・考古学・文化財学 | 地理学 | 12 | 22 | 190 | 17 | 207 | 191 | 92.3% | 14 | 26 | 150 | 14 | 164 | 149 | 90.9% |
| | 考古学 | 12 | 20 | 68 | 27 | 95 | 88 | 92.6% | 12 | 21 | 81 | 3 | 84 | 76 | 90.5% |
| | 文化財学 | 11 | 20 | 216 | 43 | 259 | 249 | 96.1% | 13 | 24 | 168 | 61 | 229 | 200 | 87.3% |
| | 計 | 35 | 62 | 474 | 87 | 561 | 528 | 94.1% | 39 | 71 | 399 | 78 | 477 | 425 | 89.1% |
| 日本・中国文学語学 | 日本文学語学 | 18 | 36 | 451 | 71 | 522 | 468 | 89.7% | 18 | 36 | 418 | 110 | 528 | 480 | 90.9% |
| | 中国文学語学 | 11 | 22 | 51 | 20 | 71 | 67 | 94.4% | 10 | 20 | 62 | 11 | 73 | 65 | 89.0% |
| | 計 | 29 | 58 | 502 | 91 | 593 | 535 | 90.2% | 28 | 56 | 480 | 121 | 601 | 545 | 90.7% |
| 欧米文学語学・言語学 | 英米文学語学 | 16 | 32 | 473 | 56 | 529 | 494 | 93.4% | 15 | 30 | 307 | 28 | 335 | 300 | 89.6% |
| | ドイツ文学語学 | 20 | 40 | 82 | 7 | 89 | 83 | 93.3% | 18 | 36 | 54 | 0 | 54 | 52 | 96.3% |
| | フランス文学語学 | 19 | 38 | 67 | 3 | 70 | 62 | 88.6% | 16 | 32 | 27 | 0 | 27 | 24 | 88.9% |
| | 言語学 | 15 | 30 | 204 | 14 | 218 | 198 | 90.8% | 16 | 32 | 138 | 4 | 142 | 132 | 93.0% |
| | 計 | 70 | 140 | 826 | 80 | 906 | 837 | 92.4% | 65 | 130 | 526 | 32 | 558 | 508 | 91.0% |
| 文学部提供教育プログラム共通科目群 | | 9 | 16 | 160 | 11 | 171 | 162 | 94.7% | 8 | 14 | 150 | 8 | 158 | 142 | 89.9% |
| 教職に関する科目 | | 3 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | － | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | － |
| AIMSプログラム | | 6 | 18 | 14 | 13 | 27 | 26 | 96.3% | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 | 2 | 100.0% |
| 合計 | | 237 | 468 | 2,945 | 440 | 3,385 | 3,073 | 90.8% | 226 | 443 | 2,462 | 370 | 2,832 | 2,536 | 89.5% |

注1：教養ゼミ（2単位），卒業論文指導（4単位），卒業論文（8単位）を除く。
注2：大学院生・非正規生の受講者を除く（ただし，AIMSプログラム受講者は非正規生を含む）。

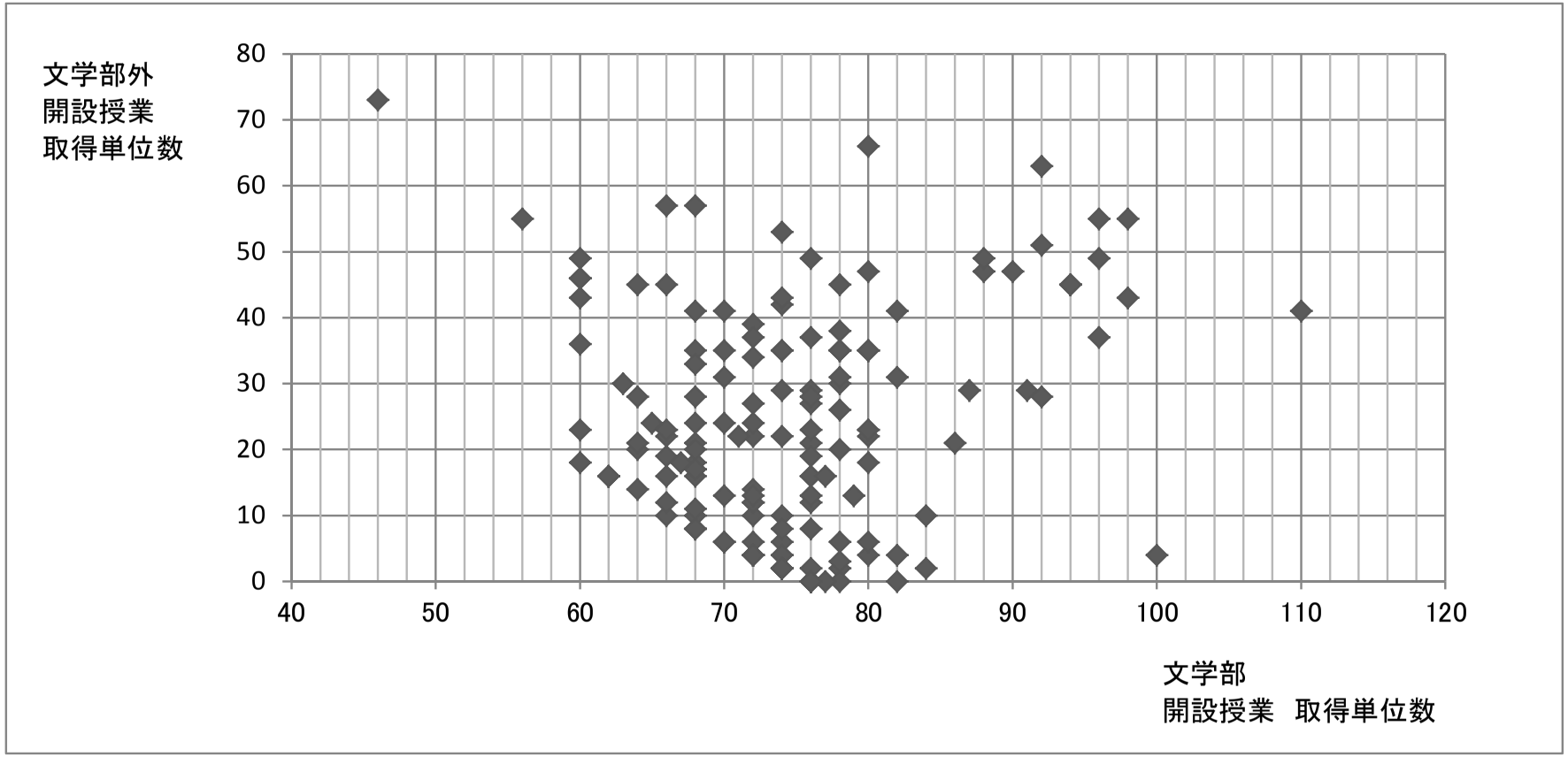
## 表3－7　平成28年度　文学部卒業生の文学部開設授業単位修得状況

| 学科 | コース等 | 分野等 | 修得単位数別人数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 平均単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 46 | 56 | 60 | 62 | 63 | 64 | 65 | 66 | 67 | 68 | 70 | 71 | 72 | 74 | 76 | 77 | 78 | 79 | 80 | 82 | 84 | 86 | 87 | 88 | 90 | 91 | 92 | 94 | 96 | 98 | 100 | 110 | 計 | |
| 人文学科 | 哲学・思想文化学 | 西洋哲学 | | | | | | | | | | 1 | 1 | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | 90.2 |
| | | インド哲学・仏教学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | 94.0 |
| | | 倫理学 | | | 1 | | | 1 | | 1 | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 6 | 90.5 |
| | | 中国思想文化学 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 2 | 95.5 |
| | | 計 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 1 | 2 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 14 | 92.6 |
| | 歴史学 | 日本史学 | | 1 | 1 | | | 1 | | 3 | | 2 | 1 | | 1 | 1 | 3 | | 1 | | 4 | 1 | | | | | 1 | | 1 | 3 | | 1 | | | 26 | 107.4 |
| | | 東洋史学 | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 2 | | 2 | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | 8 | 103.4 |
| | | 西洋史学 | | | | | | 1 | | | | 2 | | | 4 | 5 | 1 | | 1 | | 2 | | | 1 | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | 20 | 97.4 |
| | | 計 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 3 | 0 | 5 | 1 | 0 | 5 | 7 | 6 | 0 | 4 | 0 | 6 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 1 | 3 | 1 | 2 | 0 | 1 | 54 | 102.7 |
| | 地理学・考古学・文化財学 | 地理学 | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | 7 | 99.7 |
| | | 考古学 | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 5 | 95.2 |
| | | 文化財学 | | | 1 | | | | | 1 | | | 1 | | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | 12 | 93.1 |
| | | 計 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 2 | 1 | 3 | 1 | 3 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 24 | 96.0 |
| | 日本・中国文学語学 | 日本文学語学 | | | | | | | | | | | | | | 5 | 7 | | 5 | 1 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | 1 | | 23 | 98.6 |
| | | 中国文学語学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | 2 | 109.5 |
| | | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 7 | 0 | 5 | 1 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 25 | 104.1 |
| | 欧米文学語学・言語学 | 英米文学語学 | 1 | | 4 | 1 | | 1 | | 2 | | 8 | 4 | | 3 | 4 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 29 | 99.0 |
| | | ドイツ文学語学 | | | | | | 1 | | | | 2 | | | 2 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | 95.0 |
| | | フランス文学語学 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 86.0 |
| | | 言語学 | | | | 1 | | | | 1 | | 1 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 6 | 84.7 |
| | | 計 | 1 | 0 | 4 | 2 | 0 | 2 | 0 | 3 | 0 | 11 | 4 | 0 | 7 | 5 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 42 | 91.2 |
| 合計 | | | 1 | 1 | 7 | 3 | 1 | 5 | 1 | 8 | 1 | 17 | 7 | 1 | 16 | 19 | 19 | 2 | 13 | 1 | 11 | 4 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 3 | 3 | 3 | 2 | 1 | 1 | 159 | 96.2 |

（注）平成18年度以降入学生の専門科目の最低修得単位数は76単位

他学部の専門科目の単位や留学、編入等で単位認定を受けた単位については上表に含まれていない。

卒業生の内訳（平成21年度生2名、23年度生5名、24年度生34名、25年度生118名）


文学部外
開設授業
取得単位数
80
70
60
50
40
30
20
10
0
40
50
60
70
80
90
100
110
120
文学部
開設授業　取得単位数

## 表３－８　文学部学生の事由別休学状況

単位　：　人

| 年度 | 学期 | 海外 大学留学 | 海外 語学研修 | 海外 資料収集 | 海外 旅行 | 病気 療養 | 勉学意欲衰退 | 学費困難 | 出産・育児 | 家業家事手伝 | 詳細不明 家庭事情 | 詳細不明 一身上 | 兵役 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成 16 | 前 | 1 | 2 | | | 4 | | 2 | | | | 6 | | 15 |
| | 後 | 1 | 2 | | | 4 | | | | | | 6 | | 13 |
| 17 | 前 | | | | | 1 | 1 | 3 | | | | 5 | | 10 |
| | 後 | 2 | | | | | 1 | | | | | 4 | | 7 |
| 18 | 前 | 3 | | | | 2 | 1 | 7 | | | | | | 13 |
| | 後 | 3 | | | | 2 | 1 | 1 | | | | 2 | | 9 |
| 19 | 前 | 4 | | | | 4 | | 6 | | | 1 | 2 | | 17 |
| | 後 | 6 | | | | 2 | 1 | 2 | | | | | | 11 |
| 20 | 前 | 6 | | | | 3 | 1 | 10 | | | | 4 | | 24 |
| | 後 | 6 | | | | 3 | 1 | 3 | | | | 1 | | 14 |
| 21 | 前 | 1 | | | | 3 | 2 | 6 | | | | 1 | | 13 |
| | 後 | 9 | | | | 2 | 1 | 3 | | | | | | 15 |
| 22 | 前 | 9 | | | | 3 | 2 | 3 | | | | 1 | | 18 |
| | 後 | 5 | | | | 5 | 2 | 1 | | | | 3 | | 16 |
| 23 | 前 | 5 | | | | 4 | 5 | 2 | | | 2 | 1 | 1 | 20 |
| | 後 | 2 | | | | 3 | | 3 | | | | | 1 | 9 |
| 24 | 前 | 2 | 2 | | | 4 | | 7 | | | | 1 | 1 | 17 |
| | 後 | 2 | 2 | | | 4 | 4 | 4 | | | 1 | 1 | 1 | 19 |
| 25 | 前 | | 3 | | | 2 | 6 | 6 | | | 1 | 1 | | 19 |
| | 後 | | 3 | | | 2 | 6 | | | | 2 | 1 | | 14 |
| 26 | 前 | | 2 | | | 4 | 2 | 3 | | | | | | 11 |
| | 後 | | 1 | | | 4 | 1 | 4 | | | 1 | | | 11 |
| 27 | 前 | | | | | 2 | 2 | 8 | | | | 1 | | 13 |
| | 後 | | 3 | | | 4 | | 5 | | | 1 | 1 | | 14 |
| 28 | 前 | 1 | 2 | | | 6 | | 9 | | | 1 | | | 19 |
| | 後 | 2 | 2 | | | 4 | | 1 | | | 1 | 2 | | 12 |

注：人数の計は延べ数

## 表３－９　文学部学生の事由別退学状況

単位　：　人

| 年度 | 他大学等 入学 | 他大学等 入学準備 | 就業・家業 | 家事専念 | 修得単位不足 | 病気 | 死亡 | 詳細不明 進路変更 | 詳細不明 意欲衰退 | 詳細不明 経済家庭 | 詳細不明 不明 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成 16 | 2 | | | | | 1 | | 2 | | 2 | | 7 |
| 17 | | | | | 2 | 1 | | 1 | | 1 | 3 | 8 |
| 18 | | | 1 | | | | | 2 | | | 3 | 6 |
| 19 | 1 | | 1 | | | 1 | 2 | 1 | | | 2 | 8 |
| 20 | 2 | | 1 | | | 1 | | | | 2 | 2 | 8 |
| 21 | 1 | | 1 | | | | | 1 | 1 | 1 | | 5 |
| 22 | 1 | | 1 | | 1 | 1 | | 3 | | 1 | | 8 |
| 23 | | | 2 | | 1 | | | | | | | 3 |
| 24 | 3 | | | | 1 | | | 1 | | | | 5 |
| 25 | | | | | | | | | | | | 0 |
| 26 | 1 | | 1 | | | 1 | | 1 | 1 | | | 5 |
| 27 | | | 1 | | | 1 | | 1 | | | 1 | 4 |
| 28 | 1 | | 1 | | | 1 | | 1 | | | | 4 |

## 表３－１０　文学部学生の日本学生支援機構奨学金受給状況

| 年度 | 奨学生数内訳 一種 (人) | 奨学生数内訳 きぼう２１ (人) | 奨学生数内訳 二種 (人) | 奨学生数内訳 計 (人) | 在学生数 (人) | 奨学生割合 (%) | 地方育英団体奨学生 (人) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成 16 | 127 | 137 | | 264 | 638 | 41.38 | 6 |
| 17 | 129 | 140 | | 269 | 641 | 41.97 | 10 |
| 18 | 115 | 134 | | 249 | 642 | 38.79 | 9 |
| 19 | 115 | 134 | | 249 | 635 | 39.21 | 9 |
| 20 | 134 | 183 | | 317 | 643 | 49.30 | 16 |
| 21 | 132 | 190 | | 322 | 637 | 50.55 | 13 |
| 22 | 114 | 156 | | 270 | 624 | 43.27 | 10 |
| 23 | 120 | 171 | | 291 | 636 | 45.75 | 7 |
| 24 | 137 | 155 | | 292 | 623 | 46.87 | 6 |
| 25 | 140 | 169 | | 309 | 631 | 48.97 | 8 |
| 26 | 149 | 164 | | 313 | 631 | 49.60 | 7 |
| 27 | 158 | 148 | | 306 | 635 | 48.19 | 8 |
| 28 | 173 | 132 | | 305 | 647 | 47.14 | 8 |

注1：第二種奨学金は，平成11年度より募集停止となり，代わってきぼう21プラン奨学金の募集が開始された。
注2：日本育英会奨学金貸与事業は，平成16年4月1日より日本学生支援機構に統合された。

## 表３－１１　文学部学生の日本学生支援機構奨学金受給状況

（入学年度別）

| 年度 (10.1状況) | 奨学生数内訳 一種（人） | きぼう２１（人） | 二種（人） | 計（人） | 在学生数（人） | 奨学生割合（%） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成　16 | 34 | 33 | | 67 | 152 | 44.08 |
| 17 | 38 | 42 | | 80 | 152 | 52.63 |
| 18 | 40 | 52 | | 92 | 152 | 60.53 |
| 19 | 40 | 52 | | 92 | 143 | 64.34 |
| 20 | 25 | 42 | | 67 | 147 | 45.58 |
| 21 | 34 | 52 | | 86 | 150 | 57.33 |
| 22 | 28 | 31 | | 59 | 143 | 41.26 |
| 23 | 26 | 54 | | 80 | 143 | 55.94 |
| 24 | 38 | 41 | | 79 | 140 | 56.43 |
| 25 | 37 | 43 | | 80 | 153 | 52.29 |
| 26 | 39 | 41 | | 80 | 145 | 55.17 |
| 27 | 38 | 34 | | 72 | 149 | 48.32 |
| 28 | 53 | 31 | | 84 | 148 | 56.76 |

注1：在学生数に外国人留学生は含まれない。
注2：第二種奨学金は，平成11年度より募集停止となり、代わってきぼう21プラン奨学金の募集が開始された。
注3：日本育英会奨学金貸与事業は，平成16年4月1日より日本学生支援機構に統合された。

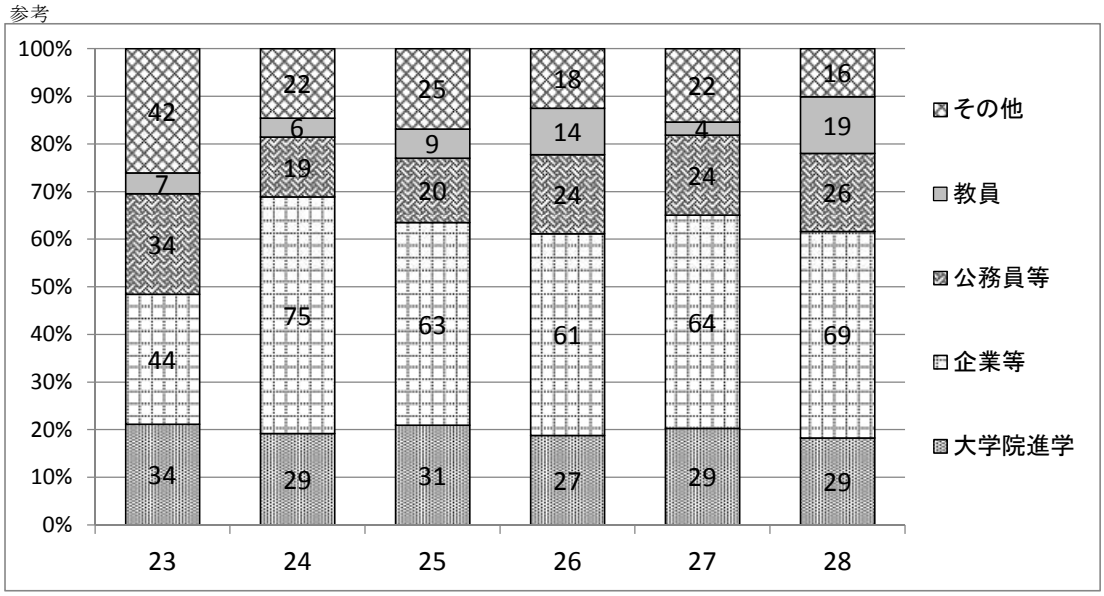
## 表３－１２　文学部学生の授業料免除申請状況

| 実施年度 | 学期 | 申請者（人） | 許可者（人） 全額免除 | 半額免除 | 不許可者（人） | 免除金額（千円） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成16 | 前期分 | 35 | 21 | 6 | 8 | 6,249.6 |
| | 後期分 | 30 | 25 | 4 | 1 | 7,030.8 |
| 17 | 前期分 | 31 | 22 | 4 | 5 | 6,429.0 |
| | 後期分 | 34 | 28 | 3 | 3 | 7,903.0 |
| 18 | 前期分 | 43 | 27 | 5 | 11 | 7,903.0 |
| | 後期分 | 35 | 23 | 7 | 5 | 7,099.3 |
| 19 | 前期分 | 49 | 30 | 11 | 8 | 9,510.4 |
| | 後期分 | 36 | 26 | 10 | 0 | 8,304.9 |
| 20 | 前期分 | 38 | 22 | 9 | 7 | 7,233.3 |
| | 後期分 | 38 | 28 | 5 | 5 | 8,170.9 |
| 21 | 前期分 | 38 | 23 | 11 | 4 | 7,635.1 |
| | 後期分 | 37 | 22 | 9 | 6 | 7,099.3 |
| 22 | 前期分 | 39 | 23 | 9 | 7 | 7,367.2 |
| | 後期分 | 37 | 24 | 11 | 2 | 7,903.0 |
| 23 | 前期分 | 42 | 37 | 2 | 3 | 10,180.2 |
| | 後期分 | 45 | 39 | 3 | 3 | 10,849.9 |
| 24 | 前期分 | 40 | 30 | 7 | 3 | 8,974.6 |
| | 後期分 | 40 | 32 | 8 | 0 | 9,644.4 |
| 25 | 前期分 | 46 | 39 | 5 | 2 | 11,117.8 |
| | 後期分 | 44 | 38 | 6 | 0 | 10,983.9 |
| 26 | 前期分 | 46 | 39 | 5 | 2 | 11,117.8 |
| | 後期分 | 44 | 38 | 6 | 0 | 10,983.9 |
| 27 | 前期分 | 55 | 37 | 13 | 5 | 11,653.6 |
| | 後期分 | 52 | 39 | 7 | 6 | 11,385.7 |
| 28 | 前期分 | 70 | 50 | 13 | 7 | 15,136.3 |
| | 後期分 | 59 | 43 | 11 | 5 | 12,993.1 |

## 表３－１３　文学部卒業者の進路状況

| 年　度 | 進路状況内訳 | 合　計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 男 | 女 | 合　計 | |
| 平成23年度 | 卒業者数 | 67 | 94 | 161 | |
| | 大学院進学 | 18 | 16 | 34 | |
| | 就職 | 29 | 56 | 85 | |
| | 企業等 | 15 | 29 | 44 | |
| | 公務員等 | 10 | 24 | 34 | |
| | 教員 | 4 | 3 | 7 | うち２名は就業猶予で大学院進学 |
| | その他 | 20 | 22 | 42 | |
| 平成24年度 | 卒業者数 | 50 | 101 | 151 | |
| | 大学院進学 | 13 | 16 | 29 | |
| | 就職 | 32 | 68 | 100 | |
| | 企業等 | 22 | 53 | 75 | |
| | 公務員等 | 6 | 13 | 19 | |
| | 教員 | 4 | 2 | 6 | |
| | その他 | 5 | 17 | 22 | |
| 平成25年度 | 卒業者数 | 52 | 96 | 148 | |
| | 大学院進学 | 15 | 16 | 31 | |
| | 就職 | 25 | 67 | 92 | |
| | 企業等 | 16 | 47 | 63 | |
| | 公務員等 | 5 | 15 | 20 | |
| | 教員 | 4 | 5 | 9 | |
| | その他 | 12 | 13 | 25 | |
| 平成26年度 | 卒業者数 | 67 | 77 | 144 | |
| | 大学院進学 | 12 | 15 | 27 | |
| | 就職 | 43 | 56 | 99 | |
| | 企業等 | 22 | 39 | 61 | |
| | 公務員等 | 11 | 13 | 24 | |
| | 教員 | 10 | 4 | 14 | |
| | その他 | 12 | 6 | 18 | |
| 平成27年度 | 卒業者数 | 69 | 74 | 143 | |
| | 大学院進学 | 19 | 10 | 29 | |
| | 就職 | 38 | 54 | 92 | |
| | 企業等 | 28 | 36 | 64 | |
| | 公務員等 | 8 | 16 | 24 | |
| | 教員 | 2 | 2 | 4 | |
| | その他 | 12 | 10 | 22 | |
| 平成28年度 | 卒業者数 | 72 | 97 | 169 | |
| | 大学院進学 | 15 | 14 | 29 | |
| | 就職 | 46 | 78 | 124 | |
| | 企業等 | 26 | 43 | 69 | |
| | 公務員等 | 9 | 17 | 26 | |
| | 教員 | 11 | 18 | 29 | |
| | その他 | 11 | 5 | 16 | |

参考



## 表３－１４　卒業者の主な企業等就職先

| 年度 | 就　職　先 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成23 | (教員) | | | | | |
| | 東京都教育委員会 | 福井県教育委員会 | 兵庫県教育委員会(2) | 山口県教育委員会 | 大島高等学校 | |
| | (公務員) | | | | | |
| | 国税庁広島国税局 | 広島入国管理局 | 法務省広島法務局 | 防衛省 | 愛知県 | 岡山県 |
| | 広島県(2) | 島根県 | 大分県 | 鹿児島県 | 鳥取県警察 | 静岡市 |
| | あわら市 | 東広島市(2) | 呉市 | 廿日市市 | 岩国市 | 徳島市 |
| | 松山市(2) | 久留米市 | 大分市 | 国東市 | 坂町 | 飯南町 |
| | 広島大学 | 高知大学 | | | | |
| | (企業等) | | | | | |
| | SMBC日興証券 | TOTO | イオンモール | エルクホームズ | JR九州ビルマネジメント | バイエル薬品 |
| | パイオニア | JTB中国四国 | WEGOW | カワニシホールディングス | ゼンショー | そごう・西武 |
| | ティーブライド | のと楽 | フレンド商会 | もみじ銀行 | ゆうちょ銀行 | 安川電機 |
| | 丸市青果 | 虎の穴 | 向学社 | 山陰合同銀行 | 山口銀行 | 大塚商会 |
| | 島根銀行 | 古野電気 | 高知県信用農業協同組合 | 三浦工業 | 三菱電機 | 山陰中央テレビジョン放送 |
| | 山九 | モアヤングこもれびホーム | 住友ゴム工業 | 住友生命保険 | 杉山会計事務所 | 全国農業協同組合連合会 |
| | 全日本空輸 | 第一生命保険(2) | 日本生命保険 | 日立ソリューションズ | 萩山口信用金庫 | 北海道電力 |
| 24 | (教員) | | | | | |
| | 広島県教育委員会 | 愛媛県教育委員会 | 岐阜県教育委員会 | 名電高等学校 | 慶進高等学校 | 清林館高等学校 |
| | (公務員) | | | | | |
| | 厚生労働省静岡労働局 | 国税庁広島国税局 | 財務省福岡財務支局 | 自衛隊 | 愛知県 | 岡山県警察 |
| | 福岡県 | 佐賀県(2) | 大分県 | 広島市 | 尾道市 | 大分市 |
| | 徳島市 | 大洲市 | 出雲市 | 舞鶴市 | 北広島町 | |
| | (企業等) | | | | | |
| | ＬＩＸＩＬ | ＱＯＬサービス | アミパラ | かめや釣具 | クラシエホールディングス | サンエイJUMBO |
| | シークス | スガキコシステムズ | セキスイハイム山陽 | トラスコ中山 | ゆめカード | 英進館 |
| | 学校法人立命館 | 笠岡信用組合 | ＤＮＰ西日本 | ＪＴＢ九州 | ＪＴＢ中国四国 | アキュラホーム |
| | ジャパネットたかた | タカギ | フジトラベルサービス | ゆうちょ銀行 | 紀伊國屋書店 | 共立メンテナンス |
| | 熊本ファミリー銀行 | 個別教育舎 | 広島東洋カープ | 山口銀行 | 山陽新聞社 | 十八銀行 |
| | 置田鉄工所 | 中国サンネット | 中国銀行 | 長谷工ライブネット | 読売新聞西部本社 | 日本セレモニー |
| | 白十字 | 百十四銀行 | 富士メガネ | 平和堂 | 毎日新聞社 | 岡山情報処理センター |
| | 両備ヘルシーケア | 呉信用金庫 | 三井住友海上火災保険 | 若築建設 | 西日本旅客鉄道 | 青葉印刷株式会社 |
| | 大日本印刷 | 第一航業 | 地域新聞社 | 中国電力 | 東京海上日動火災保険 | 東和不動産 |
| | 内外地図 | 日泉化学 | 日本アイピーエム中国 | 日本たばこ産業 | 日本生命保険 | 日本通運 |
| 25 | (教員) | | | | | |
| | 広島県教育委員会 | 山口県教育委員会 | 香川県教育委員会 | 徳島県教育委員会 | 高知県教育委員会 | AICJ中学校 |
| | 真和高等学校 | 比治山女子高等学校 | | | | |
| | (公務員) | | | | | |
| | 厚生労働省岐阜労働局 | 厚生労働省島根労働局 | 財務省中国財務局 | 法務省名古屋法務局 | 陸上自衛隊 | 島根県(2) |
| | 香川県 | 大分県(2) | 広島市 | 呉市 | 大田市 | 日置市 |
| | 大分市 | 鹿児島市 | 広島大学 | 愛媛大学 | | |
| | (企業等) | | | | | |
| | ＫＤＤＩ | ＬＩＸＩＬ | MAR DESINGS Inc | ソフトバンクテレコム | ネッツトヨタ中国 | ブレーンバンク |
| | マックスバリュ九州 | マツダエース | マツダ | 宇和島ケーブルテレビ | ＤＮＰ西日本 | ＪＴＢ中国四国 |
| | イズミ | エイチ・アイ・エス | エスト・コーポレーション | ガスバル | ケーヨー | サニックス |
| | サンドラッグ | シーゲートコーポレーション | セブンーイレブン・ジャパン | トーカイ | ドン・キホーテ | パソナ岡山 |
| | ププレひまわり | ホテルグランヴィア岡山 | マキタ | ミズ | もみじ銀行(2) | レールテック |
| | ワールド航空サービス | 鴎州コーポレーション | 広島銀行 | 香川銀行 | 中国新聞社 | ビジネスパートナー |
| | 岩谷産業 | 呉信用金庫 | 彩図社 | 三井住友海上火災保険 | 三菱ＵＦＪリース | 四電ビジネス |
| | 翠宝商事 | 西日本高速道路 | 雪印メグミルク | 中国ターミナルサービス | 中国電力(2) | 朝日インテック |
| | 日本ユニシス | 日本生命保険 | 日本放送協会 | 日本郵便(2) | 福山市農業協同組合 | 池田食品工場 |
| 26 | (教員) | | | | | |
| | 広島県教育委員会 | 広島市教育委員会 | 山口県教育委員会 | 愛媛県教育委員会 | 兵庫県教育委員会(2) | 大阪府教育委員会 |
| | 静岡県教育委員会 | 尾道中・高等学校 | 尽誠学園高等学校 | 大手前中・高等学校 | 県立垂水高等学校 | |
| | (公務員) | | | | | |
| | 財務省 | 経済産業省 | 厚生労働省 | 警察庁 | 広島県(2) | 岡山県 |
| | 島根県 | 鳥取県 | 福岡県 | 長崎県 | 熊本県 | 大分県 |
| | 和歌山県 | 愛知県 | 東広島市 | 廿日市市 | 松江市 | 雲南市 |
| | 下松市 | 小松島市 | 大分市(2) | 岡山県立大学 | | |
| | (企業等) | | | | | |
| | NTTファイナンス | SMBC日興証券 | SODアートワークス | SODアートワークス | ｼﾞｬｲｴﾌｰｽﾞおおいた | トップツアー |
| | トマトコーポレーション | ひろぎんウツミ屋証券 | マコセエージェンシー | 伊藤忠ﾃｸﾉｿﾘｭｰｼｮﾝｽﾞ | 伊藤忠テクノソリューションズ | LIXIL |
| | NTTマーケティングアクト | イオン銀行 | イズミ | インテリジェンス | かんぽ生命保険 | コスモス薬品 |
| | ビエトロ | ヒマラヤ | みずほ銀行 | もみじ銀行 | ﾘｸﾙｰﾄﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞﾊﾟｰﾄﾅｰｽﾞ | りそな銀行 |
| | 紀陽銀行 | 広島銀行(2) | 山陰合同銀行 | 山口銀行 | 山佐 | 住吉 |
| | 十八銀行 | 神鋼環境ソリューション | 親和銀行 | 前川製作所 | 大進本店 | 大和ライフネクスト |
| | 日立産業制御ｿﾘｭｰｼｮﾝｽﾞ | 百十四銀行 | ㈱マルコシ | 丸全昭和運輸 | 五洋建設 | 広島県信用組合 |
| | 佐々木造船 | 三井住友海上火災保険 | 三菱UFJ信託銀行 | 鹿児島信用金庫 | 西日本電信電話 | 西日本旅客鉄道 |
| | 大日本印刷 | 大分県農業協同組合 | 第一生命保険相互会社 | 中国電力 | 日鉄住金環境ﾌﾟﾗﾝﾄｿﾘｭｰｼｮﾝｽﾞ | 日本年金機構 |
| | 野村證券 | 両備ホールディングス | | | | |
| 27 | (教員) | | | | | |
| | 広島県教育委員会(2) | 山口県教育委員会 | 広陵高等学校 | | | |
| | (公務員) | | | | | |
| | 国税庁(4) | 広島県(2) | 岡山県(3) | 山口県 | 島根県 | 徳島県 |
| | 和歌山県 | 千葉県 | 広島市(3) | 尾道市 | 松山市 | 延岡市 |
| | 霧島市 | 善通寺市 | 上尾町 | 島根大学 | 愛媛大学 | |
| | (企業等) | | | | | |
| | JFE商事㈱ | セントラル硝子㈱ | タカラベルモント㈱ | ツネイシCバリューズ㈱ | はるやま商事㈱ | フィールズ㈱ |
| | フクダライフテック四国㈱ | ホーチキ㈱ | みのり農業協同組合 | リョービ㈱ | 一般社団法人 広島県医師会 | ㈱JTB中国四国(2) |
| | ㈱ QOLサービス | ㈱ エム・バック | ㈱ コスモネット | ㈱ ザラ・ジャパン | ㈱ ドン・キホーテ | ㈱ フィル・エ・クチーレ |
| | ㈱ プライムアシスタンス | ㈱ マコセエージェンシー | ㈱ みずほFG(3) | ㈱ ユーシン | ㈱ ロイヤルコーポレーション | ㈱ 愛媛銀行 |
| | ㈱ 音光 | ㈱ 岐阜新聞社 | ㈱ 向学社 | ㈱ 広島銀行 | ㈱ 佐田 | ㈱ 三越伊勢丹HD |
| | ㈱ 森本建設 | ㈱ 大分銀行 | ㈱ 中電工 | ㈱ 奈良ホテル | ㈱ 日美輝 | ㈱ 八十二銀行 |
| | ㈱ 美濃忠 | ㈱ 保険ひろば | ㈱ 名南経営コンサルティング | 九州電力㈱ | 高松信用金庫 | 高知信用金庫 |
| | 今治造船㈱ | 西日本電信電話㈱ | 双日㈱ | 損害保険ジャパン日本興亜㈱ | 中村角㈱ | 東日本電信電話㈱ |
| | 国立病院機構　中国四国グループ | 内田鍛工㈱ | 日本たばこ産業㈱ | 日本航空㈱ | 日本生命保険相互会社(2) | 日本郵便㈱ |
| | 明治安田生命保険相互会社(2) | 有限会社 ジョイホーム | | | | |
| 28 | (教員) | | | | | |
| | 広島県教育委員会(4) | 広島市教育委員会 | 岡山県教育委員会 | 岡山市教育委員会 | **島根県教育委員会** | 福岡県教育委員会 |
| | **長崎県教育委員会** | **和歌山県教育委員会** | **滋賀県教育委員会(2)** | **長野県教育委員会** | **静岡県教育委員会** | 栃木県教育委員会 |
| | **京都学園中・高等学校** | **星稜中・高等学校** | | | | |
| | (公務員) | | | | | |
| | 国税庁 | 財務省(3) | 経済産業省 | 厚生労働省 | **神戸税関** | 門司税関 |
| | 広島県(4) | 岡山県(2) | 広島市(3) | 鳥取県 | 島根県 | 香川県 |
| | 徳島県 | 福岡県 | 大分県 | 熊本県 | **東広島市(3)** | 吉備中央町 |
| | 竹田市 | 広島地方裁判所 | | | | |
| | (企業等) | | | | | |
| | ANAウイングス㈱ | JFEスチール㈱ | NTTビジネスソリューションズ㈱ | アイフル㈱ | イオンリテール㈱ | マルカ㈱ |
| | ㈱ CDG(2) | ㈱ JSコーポレーション | ㈱ JTB中国四国 | ㈱ KSBマーケティング・セールス | ㈱ テレビ北海道 | ㈱ ニトリ |
| | ㈱ ハートネットワーク | ㈱ みずほFG | ㈱ もみじ銀行 | ㈱ ゆうちょ銀行 | ㈱ 九電工 | ㈱ 熊本リビング新聞社 |
| | ㈱ 広島銀行 | ㈱ 阪急オアシス | ㈱ 三菱東京UFJ銀行 | ㈱ 山口FG(2) | ㈱ 総合プランニング | ㈱ 第一学習社 |
| | ㈱ 中国新聞社 | ㈱ 電通西日本 | ㈱ 徳島銀行 | ㈱ 南日本新聞社 | ㈱ 日本経済新聞社 | ㈱ 八天堂 |
| | ㈱ 毎日新聞社 | 京都工芸繊維大学 | 栗田工業㈱ | 広島信用金庫 | 三井住友海上あいおい生命保険㈱ | 住友電装㈱ |
| | 西川物産㈱ | 西鉄旅行㈱ | 西日本電信電話㈱ | 全日本空輸㈱ | 損害保険ジャパン日本興亜㈱(2) | 中国電力㈱ |
| | 東京海上日動火災保険㈱ | **日本ユニシス㈱** | **日本航空㈱** | **日本郵便㈱** | **白木英語塾** | **比治山神社** |

# 第４章　研究活動

## １．共同研究の体制

文学研究科においては、内海文化研究施設と 9 のプロジェクト研究センターを中心に共同研究に取り組んでいる。平成 13 年度の大学院部局化を契機として領域横断的な新しい人間学の構築を掲げ、研究活動を進めてきた。

本研究科附属の内海文化研究施設は、世界遺産・厳島−内海の歴史と文化プロジェクト研究センターと連携して、共同研究を活発に進めてきた。広島大学の瀬戸内海研究を支える貴重な拠点の一つであるが、全学的な連携によりさらなる発展の可能性がある。この点で、現代南アジア地域システムプロジェクト研究センターの活動が基礎となって、平成 22 年度に広島大学現代インド研究センターが設置されたのは、プロジェクト研究センターの活動が研究の拠点性を高めた事例である。今後は、研究科内でプロジェクト研究センター及び内海文化研究施設や帝釈峡野外実習施設を中心に分野横断的な共同研究の優れた成果をあげるとともに、人文科学の分野のみならずより学際的な分野への展開、さらに学内の他の部局と連携した新たな研究拠点形成のための計画案作成を進めていかなければならない。（表 4-1）

比較論理学プロジェクト研究センター
応用倫理学プロジェクト研究センター
文化交流史比較プロジェクト研究センター
中国古典文学プロジェクト研究センター
表現技術プロジェクト研究センター
活断層プロジェクト研究センター
石灰岩地帯－人と自然の共生プロジェクト研究センター
世界遺産・厳島－内海の歴史と文化プロジェクト研究センター
比較日本文化学プロジェクト研究センター

## ２．研究補助金の取得状況

平成 28 年度における研究科の研究活動のなかで、科学研究費補助金の申請について見ると、継続の研究課題を有する教員以外、ほぼ全員が申請しており、外部資金の獲得に積極的に取り組んでいるといってよい。

専任教員を研究代表者とする科学研究費補助金による共同研究として、28 年度の新規及び継続の研究課題のうち、比較的大型の基盤研究(B)以上のものをあげれば以下のようになる。「「平和」理論の構築－「和解」概念に着目した応用倫理学的アプローチ」（基盤研究(B)、28 年度）、「再考・清化（タインホア）集団」（基盤研究(B)海外、28 年度）、「現代インドの経済空間構造とその形成メカニズム」（基盤研究(A)

海外、28 年度）である。主にアジアを対象に斬新な基礎的共同研究に取り組んでいる（表 4-2)。

各教員が個人の専門分野において、さらなる研究の充実を図る必要があることはいうまでもなく、また同時に、専門領域を越えた視点を持ち、外部の競争的資金を獲得することによって、積極的に共同研究を遂行することが一層望まれる。

なお、平成 28 年度の科学研究費補助金の申請と採択の状況は、申請 47 件、採択 32 件である。科学研究費補助金による継続の研究課題を有している場合を除き、ほぼ全専任教員の申請が実現しつつある。また、申請件数に対する採択率は 68%で、前年度とほぼ同等の率であり、優秀であったと評価できる。17 年度をピークに、一件当たりの平均交付金額が徐々に少なくなっている。17 年度は特に大型の科学研究費補助金が多く採択されており、単純な比較は適当でないが、基盤研究(B)以上の採択が増えるように努力することが必要である。また、採択件数・交付金額に学問分野間でかなりの差がある状況がまだ続いており、採択件数の少ない学問分野での一層の努力が望まれる（表 4-3)。近年各大学ともに科学研究費補助金への申請を積極的に進めており、競争は厳しくなっているが、これまでの実績を活かして今後とも優れた研究計画を立案し、継続して申請を行うことが重要である。

## ３．学協会への参加状況

研究科教員は各種の学協会に積極的に参加しており、大半の者が全国レベルを含む諸学会の役員として、学会運営・開催などに関わり、活動を行っている。

また学内に学士会館等の施設が整備されたことによって、本研究科に事務局を置く学会等の開催や全国規模の学会の開催が容易となった。学会活動の活発化のために今後のさらなる努力が望まれる。

## ４．研究科論集による研究成果の公表

平成 13 年度の大学院部局化にともない、従来の『広島大学文学部紀要』を『広島大学大学院文学研究科論集』に改称し、あわせて判型のＢ5 判への大型化、投稿規定の明確化，パソコン処理による判型作成（特輯号のみ）等大幅な変更を行った。これによって従来、発表に困難の伴った分野における研究論文の増加、また早期の発行や予算の節減が期待できるようになった。また、冊子体だけでなく、PDF でも公開されているため、論文の流通性は高まっている。なお『文学研究科論集』の巻号は『文学部紀要』の巻号が継承されている。

平成 28 年度における、研究科論集による研究発表の実績は、第 76 巻（2016 年 12 月）普通号 1 冊(掲載論文 7 編)である。

第 72 巻から、特輯号については、文学研究科ＨＰと広島大学学術情報リポジト

リに掲載し、冊子体での発行は中止した。

専門分野別の執筆状況は、表 4-4 に示すとおりである。

## ５．研究員等の受入れ

本研究科では、国内外から各種の形態で研究者を受け入れ、研究活動を支援している。平成 17 年度以降の実績は表 4-5 に示すとおりである。平成 28 年度は中国から研究者を受け入れている。当該年度に限らず、国外からの研究者の受け入れは中国を中心にアジアが多いが、近年宿舎など受け入れ環境の整備が進みつつあり、広く世界の研究者が本研究科での研究を希望するように国際交流を一層推進する必要がある。

## ６．ファカルティ・ディベロプメント（ＦＤ）

平成 24 年度から、人文学の多様性と普遍性を研究科内で確認することを目的とし、各分野の研究方法・技法のこれからのあり方とその教育について認識しあう会を文学研究科 FD として開くこととした。これを「人文学の方法とその教育」と題し、平成 28 年度は次のとおり開催した。今後も継続して開催していくこととしており、研究・教育面での教員間の交流の進展が、期待される。

試行　日時：平成 24 年 6 月 18 日　担当：市來津由彦 教授
　題目：「技術としての漢文訓読」

第１回　日時：平成 25 年 3 月 19 日　担当：五十嵐陽介 准教授
　題目：「音声学の方法とその教育」

第２回　日時：平成 25 年 11 月 11 日　担当：前野弘志 准教授
　題目：「ギリシア語碑文学をどう考えるか？」
　日時：平成 25 年 11 月 11 日　担当：本多博之 教授
　題目：「古文書の分析と学生教育」

第３回　日時：平成 26 年 10 月 20 日　担当：陳　翀 准教授
　題目：「唐鈔本と旧鈔本」
　日時：平成 26 年 10 月 20 日　担当：久保田　啓一　教授
　題目：「近世文学資料としての写本・版本」

第４回　日時：平成 27 年 3 月 19 日　担当：宮川朗子 准教授
　題目：「小説の文体と発表媒体との関係を考えるーゾラ『プラッサン征服の草稿，プレ・オリジナル版，初版との照合」

第５回　日時：平成 28 年 3 月 22 日　担当：太田 淳 准教授
　題目：「近世西ジャワの地域社会史とグローバルヒストリー」

第６回　日時：平成 28 年 4 月 18 日　担当：岡橋秀典 教授

題目：「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」について

第７回　日時：平成 29 年 1 月 16 日　　担当：硲　智樹 准教授

題目：「ヘーゲル研究から見る哲学におけるテキスト編集の意義」

## ７．サバティカル研修

文学研究科としては平成 24 年度から開始したサバティカル研修は、平成 28 年度の実績はなかった。

平成 27 年度の 1 件は平成 28 年 6 月に文学研究科 FD として、サバティカル研修の報告を行い、研究成果等を研究科全体で共有した。

【平成 27 年度】

大地 真介 准教授　期間：平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

研修従事機関：ハーヴァード大学映像・環境研究科

**表4－1　プロジェクト研究センター活動状況**

## プロジェクト研究センター活動状況報告書（平成２８年度）

センター名：比較論理学プロジェクト研究センター
研究代表者：小川　英世

<table>
<tr><td>Ⅰ．センターの設置目的</td><td colspan="2">異なった文明間の対話と理解が最も求められている現在、インドとヨーロッパ、東洋と西洋の思考の根源を追究し、その一致点と差異点を一つ一つ緻密に比較検討することにより、相異なる文明間の対話可能な接点を見出すことを本研究プロジェクトの最終的な目的とする。そのために広島大学大学院文学研究科のスタッフを中心に、古代ギリシアの論理学、中世哲学、ドイツ観念論、現代論理学、現代言語哲学、インド論理学、仏教認識論、インドの言語哲学と修辞学、チベット中観思想・論理学を専門領域とする研究者が、各自が指導する大学院生とともに参加するセミナーを定期的に開催し、それぞれの研究成果を発表し、その内容を全員で検討する。「論証」「弁論術」「問答法」などの論理学に関わるものだけでなく、「言葉」「意味」「文法」「沈黙」「存在」「知性」「自己認識」など思考の根源に関わるキーワードに関して自由討論を積み重ねることにより、東西の思考方法の接点を見出していく。また、単に教員レベルでの共同研究ではなく、様々なバックグラウンドを持った複数の教員が、強い専門性と柔軟な複眼的思考ができる研究者を育成するという教育的目標を持つことを強調しておきたい。そのために大学院学生の積極的な参加を推進する予定である。そして、単なる勉強会に終わらせず、各自の研究成果を積極的に外に発信していくことを目指す。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ⅱ．研究活動状況について</td><td>研究会、講演会、講習会等の開催状況</td><td>（研究会）<br>「比較論理学プロジェクトセンター定例研究会」平成28年度30回（学内28名）<br>（講演会）<br>1.“News on Aviddhakarṇṇa, chronolgies and identities”（英語による講演）<br>平成28年10月17日（講師：Ernst Prets［オーストリア科学アカデミーアジア文化・思想史研究所］、参加者：学内15名）<br>2. “Bod kyi dbu ma'i lta ba byung tshul”［チベット中観思想史］（チベット語による講演）平成29年2月27日（講師：更登［青海民族大学］、参加者：学内11名）</td></tr>
<tr><td>研究及び調査の成果発表状況</td><td>成果物：『比較論理学研究』14号（2016年度）<br>発行部数：300部<br>公表範囲：国内外各種図書館・研究施設・関連分野研究者</td></tr>
<tr><td>Ⅲ．外部資金の獲得状況</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>Ⅳ．研究者数</td><td colspan="2">（教員）<br>大学院文学研究科 教授 小川英世、准教授 赤井清晃、准教授根本裕史<br>大学院総合科学研究科 教授 古東哲明<br>国際センター 教授 本田義央<br>（他機関研究者［国内］）<br>広島大学名誉教授 桂 紹隆、種智院大学名誉教授 沖 和史、<br>慶応義塾大学文学部 教授 上枝美典、玉川大学 文学部教授 山口修二、<br>福岡大学人文学部 教授 関口浩喜、福岡歯科大学 教授 永嶋哲也、<br>筑紫女学園大学人間文化研究所 リサーチアソシエイト 川尻洋平、<br>徳山工業高等専門学校 准教授 高橋祥吾</td></tr>
<tr><td>Ⅴ．今後の計画</td><td colspan="2">相異なる文明間の対話可能な接点を見出すことという本研究プロジェクトの最終的な目的の達成をめざして引き続き研究展開する予定であるため、研究センターの継続設置を希望する。</td></tr>
</table>

## プロジェクト研究センター活動状況報告書（平成２８年度）

センター名：応用倫理学プロジェクト研究センター
研究代表者：後藤　弘志

<table>
<tr><td>Ⅰ．センターの設置目的</td><td colspan="2">人間を取り巻く社会環境は複雑になり、文献研究のみでは現代の諸問題に容易に対処できない。本研究の目的は、こうした反省に立ち、現代社会において最も 緊急かつ重要な諸問題にスポットを当て､応用倫理学的に問題解決の方向性を探ることにある｡応用倫理問題は様々である。例えば情報ネットワークやメディア情報における情報倫理､高齢化社会や年金問題における福祉倫理、クローンやES 細胞をめぐる生命倫理、ゴミ公害や地球温暖化をめぐる環境倫理、ジェンダーやセクハラをめぐるフェミニズム倫理、企業のあり方を問う企業倫理、さらに近年 とくに深刻になりつつある教育のあり方を問う教育倫理など多種多様である｡これらは個々別々の問題であると同時に、相互に連関していることを見逃してはならない。本センターの役割は、個々の研究の進展を計りながら、それらの研究を統合する働きにある。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ⅱ．研究活動状況について</td><td>研究会、講演会、講習会等の開催状況</td><td>平成 28 年度<br>・第 21 回広島大学応用倫理学プロジェクト研究センター例会<br>（学内 8 名、学外研究者 15 名参加、一般 2 名）<br>・第 22 回広島大学応用倫理学プロジェクト研究センター例会<br>（学内 6 名、学外研究者 12 名参加、一般 3 名）</td></tr>
<tr><td>研究及び調査の成果発表状況</td><td>平成 28 年度『ぷらくしす』第 18 号　250 部発行、広島大学学術情報リポジトリ、ISSN：18808638</td></tr>
<tr><td>Ⅲ．外部資金の獲得状況</td><td colspan="2">平成２９年度　科学研究費補助金（基盤Ｂ）申請　採択（３，７００，０００円）</td></tr>
<tr><td>Ⅳ．研究者数</td><td colspan="2">後藤弘志（広島大学）、松井富美男（広島大学）、衛藤吉則（広島大学）、硲智樹（広島大学）、加藤尚武（人間総合科学大学）、山内廣隆（安田女子大学）、岡野治子（清泉女子大学）、越智貢（プ-ル学院大学）石﨑嘉彦（大和大学）、秋山博正（くらしき作陽大学）、池辺寧（奈良県立医科大学）、石田三千雄（徳島大学）、伊藤潔志（桃山学院大学）、上野哲（小山工業高等専門学校）、上村崇（福山平成大学）、桐原隆弘（下関市立大学）、後藤雄太（北海道情報大学）、杉田孝夫（お茶の水女子大学）、手代木陽（神戸市立工業高等専門学校）、眞嶋俊造（北海道大学）、村田貴信（山口東京理科大学）、村若修（鹿児島女子短期大学）、濱井潤也（新居浜工業高等専門学校）、飯島昇蔵（早稲田大学）、太田義器（摂南大学）、高田純（札幌大学）、横山陸（一橋大学）<br>（国外）<br>クリストフ・ハルビッヒ（ギーセン大学）、ミヒャエル・クヴァンテ（ミュンスター大学）、クラウス・フィーヴェーク（イエナ大学）</td></tr>
<tr><td>Ⅴ．今後の計画</td><td colspan="2">平成 29 年度は、科研「「平和」理論の構築－「和解」概念に着目した応用倫理学的アプローチ」（基盤 B）の最終年度に当たり、生命・環境・教育・政治・社会の各領域で再構成された「和解」概念を、さらに〈総合〉し、世界に通用する〈平和実現のための実践的理論モデル〉を､著作・論文等において公表し、それらの成果を海外に発信したり、臨床の場での応用の可能性を探ったりすることを計画している。具体的に、センター長の後藤弘志を中心に、広島大学とミュンスター大学との共同開催による「平和 2020」プロジェクトや、研究員の越智貢を中心に広島県の初等･中等学校での臨床応用の計画が進められている。さらに、新たな科学研究費（基盤Ｂ）の獲得をひきつづき「平和」理論の構築という視点から進めていく予定である。具体的には、広島大学が所蔵する膨大な西晋一郎文庫の書籍等の分析を通して、戦前・戦中の国体論の位置づけを相対化し、広島発の平和理論を世界に発信していくことを計画している。</td></tr>
</table>

# プロジェクト研究センター活動状況報告書（平成２８年度）

センター名：文化交流史比較プロジェクト研究センター
研究代表者：八尾　隆生

| | | |
|---|---|---|
| **Ⅰ．センターの設置目的** | 日本・アジア・ヨーロッパの諸文化の相互交流が、人・物・制度・思想等について、いつ、どのように行われ、どのような影響を受容主体に及ぼし、それがどのように変化したのか、また、移植過程でどのような変容をとげたのかの解明を研究目的とする。古代から現代まで時代ごとの様相を追跡する。また、そのことを通して、文化の発信主体や受容主体の歴史上の位置と交流過程の歴史的特質を問う。国と国、民族と民族、あるいは地域と地域の間の文化交流史の比較研究をめざす。<br>この研究プロジェクトの背景にあるのは、今日のグローバル化の進む世界発展である。金融・経済やNPO活動、情報全般の世界的ネットワークの出現、EU統合や複合的な民族問題の噴出といった21世紀が直面する新しい情勢が、世界史的解釈にも新しい視点の導入を要請している。特定の有力国の価値観や世界認識に立脚した戦略的な歴史観を取ることなく、地域・民族の固有性と歴史的相対主義のもつ意味をふまえた、公平で均衡ある観点が重要である。文化交流の歴史の比較研究が望まれる理由である。 | |
| **Ⅱ．研究活動状況について** | **研究会、講演会、講習会等の開催状況** | 広島大学地域アカデミー（広島県立図書館、広島大学大学院文学研究科と共催（２回、参加者（毎回平均）：学内５名、学外２５名 |
| | **研究及び調査の成果発表状況** | 別添リサーチ・アシスタント研究成果報告書を参照。 |
| **Ⅲ．外部資金の獲得状況** | 平成28年度　科学研究費補助金（基盤研究Ｂ海外）継続　採択（2,700千円）<br>平成28年度　科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）継続　採択（700千円）<br>平成28年度　科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）新規　採択（900千円）<br>平成28年度　科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）継続・継続　採択（600千円）<br>平成28年度　科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）継続　採択（1,600千円） | |
| **Ⅳ．研究者数** | 文学研究科 教授 八尾隆生、教授 井内太郎、教授 勝部眞人、教授 金子肇、教授 中山富廣、<br>教授 本多博之、教授 前野弘志、准教授 足立孝、准教授 舩田善之（H28.10より）、<br>広島大学名誉教授 岸田裕之、岡本明、西別府元日<br>文学研究科博士課程後期大学院生 海　阿虎 | |
| **Ⅴ．今後の計画** | 外部資金の調達はかなり充実したものであり、それをもとにしてセンター各員はそれぞれ鋭意研究を進展させ論文・著書などの形で成果を公表したが、広島史学研究会、歴史文化学講座及び歴史学ユニットの計画を再検討した結果、本センターの活動はそれらと重なる部分が多く、センター自体の廃止が妥当と判断される。 | |

## プロジェクト研究センター活動状況報告書（平成２８年度）

センター名：中国古典文学プロジェクト研究センター
研究代表者：佐藤利行

| | | |
|---|---|---|
| **Ⅰ．センターの設置目的** | 本プロジェクトは中国古典文学研究の推進を目的とする。特に六朝文学に関する研究を基幹に据え、そこから先秦・漢魏、或いは唐宋以降の文学へと視野を広げていくことを企図している。本プロジェクトで重要視したいのは、漢字情報処理というコンピュータを駆使した新しい研究方法と、旧来の伝統的研究手法との融合である。具体的には次の３つを計画している。<br>１.中国古典文学研究資料のデータベース化とその研究<br>国内外には既に多くの中国古典文献に関するデータベースが構築され、広島大学中国文学研究室でもいくつかのデータベースを公開している。電子情報上での漢字を取り巻く環境はなお流動的であり、字体やデータの取扱い方などの問題も残されたままである。これらの問題を視野に入れつつ、新たなデータベースを作成し、既設データベースの有効な利用方法を構築する。<br>２.六朝詩の語彙および表現技巧の研究<br>六朝詩には、前代からの詩語を継承したものの他に、新たに詩人達が創り出したものが多く含まれている。そうした詩語を収集・整理してデータベース化し、有効に活用する。また、六朝詩に見られる表現技巧の特徴について、具体的な資料をもとに考察する。<br>３.『文選』の研究<br>広島大学中国文学研究室の伝統である「文選学」の実績を活用し、『文選』李善注を活用した文学言語の創作と継承の研究を行う。すでにデータベース化している李善注・五臣注と『文選』語彙を対照しながら文学言語の創作・継承過程を解明する。 | |
| **Ⅱ．研究活動状況について** | **研究会、講演会、講習会等の開催状況** | ・2016 年 10 月 01 日　『漢詩日中合作学術シンポジウム』（広島大学レセプションホール）参加者数：学内者 3 名、学外研究者 6 名、一般 100 名ほど<br>・2016 年 10 月 26 日　講演会：『王羲之の思想と生活』（中国・西南大学）講演者：佐藤利行　参加者：学内者２名、西南大学教員 15 名、学生 200 名 |
| | **研究及び調査の成果発表状況** | 『中国古典文学研究 ： 広島大学中国古典文学プロジェクト研究センター年報』（14），2017-03 |
| **Ⅲ．外部資金の獲得状況** | 2015 年 12 月　研究寄付金　協同創新研究費（首都師範大学日本文化研究中心）<br>200000 人民元（3396623 円） | |
| **Ⅳ．研究者数** | センター長：<br>佐藤利行（広島大学大学院文学研究科・教授）<br>研究員（学内）：<br>川島優子（広島大学大学院文学研究科・准教授）<br>陳 翀（広島大学大学院文学研究科・准教授）<br>本田義央（広島大学国際センター・教授）<br>佐藤大志（広島大学大学院教育学研究科・准教授）<br>劉 金鵬（広島大学大学院文学研究科・文学博士）<br>研究員（学外）：<br>石川忠久（二松学舎大学・顧問）<br>橘 英範（岡山大学文学部・准教授）<br>鷹橋明久（尾道大学芸術文化学部・准教授）<br>木村 守（東京学芸大学・准教授）<br>高西成介（高知女子大学文化学部・准教授）<br>武井満幹（下関市立大学・講師）<br>畑村 学（宇部工業高等専門学校・准教授）<br>太田 亨（愛媛大学教育学部・准教授）<br>先坊幸子（安田女子大学文学部・非常勤講師）<br>趙 敏俐（首都師範大学詩歌研究センター・教授）<br>左 東嶺（首都師範大学詩歌研究センター・教授）<br>李 均洋（首都師範大学外国語学院・教授）<br>呉 相洲（首都師範大学文学院・教授）<br>張 立新（首都師範大学外国語学院・教授）<br>封 友文（中国書法家協会・理事）<br>周 延良（天津師範大学古典文献研究所・教授）<br>夏 廣興（上海師範大学人文学院・教授）<br>屋敷信晴（熊本大学文学部・准教授）<br>中村光伸（大栄教育学院・院長）<br>佐伯雅宣（四国大学文学部・准教授）<br>末葭敏久（比治山大学・非常勤講師）<br>西原千代<br>河内ひとみ（大竹市教育委員会） | |
| **Ⅴ．今後の計画** | これまでの研究を継続するとともに、従来日本中国古典学研究の閉鎖的状況を打開し、中国詩歌研究センターなど諸外国の研究機関と連携した研究の展開を図るため、研究センターの継続設置を希望する。また、中国古典学研究の学問的見地から、中国学及び中国社会に関わる幅広い問題へのアプローチを試みる。 | |

## プロジェクト研究センター活動状況報告書（平成２８年度）

センター名：表現技術プロジェクト研究センター
研究代表者：今林　修

| | | |
|---|---|---|
| **Ⅰ．センターの設置目的** | | 本センターの研究目標は、地域文化を表現の面から探求することである。表現の研究は表現技術の解明と不可分であり、その解明はおのずと比較研究の視点を必要とする。本研究センターが目標とする多様な表現技術の研究は、現在のグローバルかつローカルな社会のなかで望まれている異文化・自文化の真の理解の実現にも重要な意義がある。<br>平成27年度～28年度の計画は、研究員の個別研究は言うまでもなく、『表現技術研究』において研究成果を発表し、共同研究を推進するとともに、成果を広く社会に還元することである。 |
| **Ⅱ．研究活動状況について** | **研究会、講演会、講習会等の開催状況** | 本センターは、毎年、講師 2～3 名を派遣して米子市内において講演会「文藝学校」を開催している。聴衆は一般市民ならびに高校生で、参加者は 60～80 名程度。楽しみに毎回参加されている方もおられ、継続実施への要望が強い。その他、研究員主催による外国人講師や映画監督による講演会も開催して、研究成果の社会への還元を行っている。 |
| | **研究及び調査の成果発表状況** | 本センターが有する研究成果発信の場は、研究誌『表現技術研究』である。<br>平成28年度も毎年1回発行した（第11～12号）。発行部数は200部で、全国の図書館や大学機関（40）に送付するほか、文学研究科全構成員と学内の関連教員等に配布している。『表現技術研究』掲載論文は、すべて広島大学学術情報リポジトリに登録されてPDFファイルで閲覧が可能であり、研究成果は広く一般に公開されている。<br>その他、各研究員は個別の学術雑誌にも積極的に研究成果を発表している |
| **Ⅲ．外部資金の獲得状況** | | 平成 28 年度　科研費　基盤研究 C(10 名)・同若手（1 名）直接経費計 1,010 万円 |
| **Ⅳ．研究者数** | | （学内）文学研究科 教授 有元伸子、文学研究科 教授 今林修、文学研究科 准教授 今道晴彦、文学研究科 准教授 大地真介、文学研究科 教授 小川恒男、文学研究科 助教 奥村真理子、文学研究科 准教授 川島優子、文学研究科 教授 久保田啓一、ナノデバイス・バイオ融合科学研究所 准教授 小出哲士、文学研究科 教授 小林英起子、文学研究科 教授 佐藤利行、文学研究科 教授 妹尾好信、文学研究科 教授 高永茂、文学研究科 教授 新田玲子、文学研究科 助教 古川昌文、文学研究科 助教 松本舞、文学研究科　教授 松本光隆、文学研究科 准教授 溝渕園子、文学研究科 教授 宮川朗子、文学研究科 教授 吉中孝志、文学研究科 准教授 陳翀、文学研究科 教授 D・ヴァリンズ、文学研究科 教授 L・フェーダーマイヤー<br>（学外）<br>宇部工業高等専門学校　准教授　赤迫照子、広島大学名誉教授　位藤邦生、東京大学大学院総合文化研究科　准教授　稲葉治朗、広島大学名誉教授　植木研介、広島大学名誉教授　狩野充徳、広島大学名誉教授　小林芳規、広島大学名誉教授 J・G・サントニ、島根大学　嘱託講師　島克也、同志社大学文学部 准教授瀬崎圭二、広島大学名誉教授　田中久男、広島大学名誉教授 地村彰之、広島大学名誉教授　富永一登、広島大学名誉教授　原野昇、尾道市立大学日本文学科　准教授　藤川功和、広島大学名誉教授 松本陽正<br>（海外）<br>中国北京対外経済留易大学英語学院　准教授　石小軍<br>（リサーチ・アシスタント）<br>文学研究科博士課程後期　板倉大貴、文学研究科博士課程後期　重松恵梨 |
| **Ⅴ．今後の計画** | | 表現技術に関する共同研究をさらに発展展開させて、成果発表の場としての『表現技術研究』も継続刊行する予定である。また講演会「文藝学校」も地域の継続要望が強い。このため、引き続き、研究センターの継続設置を希望する。 |

## プロジェクト研究センター活動状況報告書（平成２８年度）

センター名：活断層プロジェクト研究センター
研究代表者：奥村晃史

<table>
<tr><td>Ⅰ．センターの設置目的</td><td colspan="2">日本や世界の主要な活断層を地形・地質学的に調査研究し，その特徴を断層線の分布形態の分析や活動履歴の復元をもとに解明して将来の大地震の規模と発生時期，破壊過程の予測等に関わる基礎的なデータを収集し地震災害の軽減に寄与する．主要な研究テーマは以下のとおり．<br>(1) 地表における活断層の分布形態に基づく破壊課程予測の研究<br>(2) 活断層を震源とする地震の規模と再来間隔の規則性に関する研究<br>(3) 活断層を震源とする地震の災害軽減に関する研究</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ⅱ．研究活動状況について</td><td>研究会、講演会、講習会等の開催状況</td><td></td></tr>
<tr><td>研究及び調査の成果発表状況</td><td>国内・国外の学術雑誌において論文多数を公表.<br>・Seismological Society of America Bulletin: 1編<br>・Tectonophysics: 1編<br>・Eearh and Planetary Science: 3編<br>・地質学論集：１編<br>・活断層研究：8編<br>・広島大学大学院文学研究科紀要：２編<br>・口頭発表 50 編</td></tr>
<tr><td>Ⅲ．外部資金の獲得状況</td><td colspan="2">平成28年度JICA-JST 地球規模課題対応国際科学技術協力事業<br>（東京大学地震研究所：奥村晃史）約7,000千円交付</td></tr>
<tr><td>Ⅳ．研究者数</td><td colspan="2">大学院文学研究科　教授　奥村晃史<br>大学院文学研究科　准教授　後藤秀昭<br>大学院教育学研究科　教授　前杢英明（法政大学文学部へ転出）<br>大学院教育学研究科　准教授　熊原康博<br>広島大学文学研究科　名誉教授　中田　高<br>岡山大学理学部　准教授　隈元　崇</td></tr>
<tr><td>Ⅴ．今後の計画</td><td colspan="2">調査研究・成果公表・国際交流を継続する.</td></tr>
</table>

## プロジェクト研究センター活動状況報告書（平成２８年度）

センター名：世界遺産・厳島―内海の歴史と文化プロジェクト研究センター

研究代表者：　　妹尾　好信

<table>
<tr><td colspan="2">Ⅰ．センターの設置目的</td><td>文学研究科付属内海文化研究施設は長年、瀬戸内海地域を中心にして、世界各地の内海の歴史と文化を総合的に研究してきた。その研究活動の蓄積を基礎として「世界遺産・厳島―内海の歴史と文化プロジェクト研究センター」を設置し、世界的に価値を認められた「厳島」の総合的な学術研究に取り組むに至った。世界遺産である「厳島」を総合的に研究する組織は他に存在せず、世界初の研究機関である。本プロジェクトによって、厳島の担ってきた歴史・文化的意義を初めて総合的に解明することができ、内海地域が育んできた歴史と文化の多様性と価値を今まで以上に明確化することができる。日本史学・考古学・文化財学・人文地理学・自然地理学・日本文学語学・中国文学語学・中国哲学を総合することによって、世界遺産・厳島の全体像を解明することができる。このような総合的研究によって今後、世界遺産学という新分野の創生も不可能ではない。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ⅱ．研究活動状況について</td><td>研究会、講演会、講習会等の開催状況</td><td>厳島に関する学識や経験を有する学内外の人々を講師に招いて話を聴く年３回の季例会・公開講演会（通算第 30 回～35 回）を文学研究科内の講義室あるいは大会議室で開催し、毎回教員 10 名前後、学生（院生）10 名前後、一般市民 30 名前後が参加している。とりわけ一般市民の中には毎回参加する熱心な受講者も少なくなく、市民社会にも定着してきている。</td></tr>
<tr><td>研究及び調査の成果発表状況</td><td>研究成果報告書『厳島研究』第 13 号（発行部数各 300 程度）を３月末に刊行し、研究科内の教員、また学内関連部局の施設や教員に配布する一方、120 部程度を学外の大学・研究機関や研究者に送付し、加えて一般市民の希望者にも希望があれば、季例会・公開講演会などの場で頒布した。一般市民の中には定期的な購読を求める声もあり、厳島に関心がある層に広く迎えられている出版物となっている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">Ⅲ．外部資金の獲得状況</td><td>平成 24 年度　科学研究費補助金基盤研究（B）申請　２００万円採択<br>研究課題名「世界遺産・厳島の総合的研究―「伝承・伝説の時代性」の視点から―」<br>平成 28 年度も基盤研究（B）に申請するも、不採択。<br>平成 29 年度以降も再申請の予定である。</td></tr>
<tr><td colspan="2">Ⅳ．研究者数</td><td>勝部眞人（文学研究科・教授・内海文化研究施設研究員・日本史学）<br>中山富廣（文学研究科・教授・内海文化研究施設研究員・日本史学）<br>本多博之（文学研究科・教授・内海文化研究施設研究員・日本史学）<br>竹広文明（文学研究科・教授・内海文化研究施設研究員・考古学）<br>三浦正幸（文学研究科・教授・内海文化研究施設研究員・文化財学）<br>奥村晃史（文学研究科・教授・内海文化研究施設研究員・自然地理学）<br>妹尾好信（文学研究科・教授・内海文化研究施設研究員・日本文学）<br>有元伸子（文学研究科・教授・内海文化研究施設研究員・日本文学）<br>久保田啓一（文学研究科・教授・内海文化研究施設研究員・日本文学）<br>有馬卓也（文学研究科・准教授・内海文化研究施設研究員・中国哲学）<br>フンク・カロリン（総合科学研究科・教授・人文地理学）<br>野島　永（文学研究科・准教授・内海文化研究施設研究員・考古学）<br>伊藤奈保子（文学研究科・准教授・内海文化研究施設研究員・文化財学）<br>川島優子（文学研究科・准教授・内海文化研究施設研究員・中国文学語学）<br>陳　　翀（文学研究科・准教授・内海文化研究施設研究員・中国文学語学）<br>坪田博美（理学研究科・准教授・植物学）<br>岸田裕之（龍谷大学・文学部・教授・日本史学）<br>狩野充德（広島大学名誉教授・中国文学語学）<br>西別府元日（広島大学名誉教授・内海文化研究施設研究員・日本史学）</td></tr>
<tr><td colspan="2">Ⅴ．今後の計画</td><td>世界的に価値を認められた厳島の総合的な学術研究に取り組むことによって厳島の文化的価値を高めるとともに、その価値を広く地域の市民社会に普及させるために、引き続きプロジェクト研究センターの活動を継続したい。今後は文学研究科以外の学内部局、とりわけ自然科学系の研究者も参加することによって、より広範な学際的研究が可能になることが期待される。</td></tr>
</table>

## プロジェクト研究センター活動状況報告書（平成２８年度）

センター名：比較日本文化学プロジェクト研究センター
研究代表者：河西英通

<table>
<tr><td>Ⅰ．センターの設置目的</td><td colspan="2">本学における比較日本文化学のセンターとして機能することで、本学の比較日本文化学の総合化・体系化を図り、「広島大学発信の比較日本文化学」を国内外に開示する。平成 26～28 年度にかけて研究会の開催、研究雑誌の刊行などを行う。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ⅱ．研究活動状況について</td><td>研究会、講演会、講習会等の開催状況</td><td>1．大学院博士課程前期の学生の研究発表会を前期、後期それぞれ二回ずつ（計四回）開催し、比較日本文化学に関する研究交流を行った。<br>2．2015 年 4 月：本多俊和（スチュアート・ヘンリ、放送大学）「博物館展示を通して世界を覗く」、参加者学内 100 名</td></tr>
<tr><td>研究及び調査の成果発表状況</td><td>非日本語を使用言語とする雑誌 Hiroshima Interdisciplinary Studies in the Humanities は第 14 号まで、広く中国在住研究者の論考までも掲載している『比較日本文化学研究』は第 10 号まで刊行している。<br>発行部数はいずれも 400～500 部で国内外の大学をはじめとする研究機関も送付している（ISSN 獲得）。<br>この他、研究員による個人研究、共同研究も順調に進んでいる。</td></tr>
<tr><td>Ⅲ．外部資金の獲得状況</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>Ⅳ．研究者数</td><td colspan="2">文学研究科　教授　河西英通<br>教授　佐藤利行<br>教授　高永茂<br>准教授　太田淳<br>准教授　溝渕園子<br>北京研究センター　教授　李均洋<br>教授　佐藤暢治<br>中国人民大学外国語学院　教授　張威<br>湖南大学外国語学院　教授　張楓霞<br>国際関係学院　教授　欧文東</td></tr>
<tr><td>Ⅴ．今後の計画</td><td colspan="2">2013 年度にスタートした新しい教育プログラム（たおやかＬＰ、ＡＩＭＳ）および現在申請中の新日本学プログラム（国費外国人留学生の優先的配置を行う特別プログラム）を展開する上でも、本研究センターの役割はこれまで以上に求められている。従来の研究システムを継続しながらも、研究のワク組みの拡大・深化を含めたうえで、引き続き研究センターの継続設置を要求する。</td></tr>
</table>

表4－2　平成28年度　科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）交付実績

| 分　野 | 研究代表者<br>最終年度職<br>氏　名 | 種　目 | 研 究 課 題 等 | 分担者数 | 年度 | 交付額<br>（千円） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 比較日本文化学 | 教授<br>河西　英通 | 基盤研究（C） | 社共合同運動の基礎的研究 | | 平成28 | 600 |
| | 教授<br>高永　茂 | 基盤研究（C） | 3Dカメラを活用した医療コミュニケーションの記述的研究とその応用 | 3名 | 平成28 | 1,000 |
| | 准教授<br>中村　平 | 基盤研究（C） | 台湾先住民の「民族」自治：中国と周辺地域における脱植民化 | 2名 | 平成28 | 700 |
| | 准教授<br>溝渕　園子 | 基盤研究（C） | 「少女小説」の受容とコロニアリズムの関係をめぐる日露比較研究 | | 平成28 | 1,000 |
| インド哲学 | 教授<br>小川　英世 | 基盤研究（C） | パーニニ文法学の視座からのディグナーガ言語理論アポーハ論原像の再構築 | | 平成28 | 1,400 |
| | 准教授<br>根本　裕史 | 若手研究（B） | チベットの中観思想と文学の総合的研究 | | 平成28 | 800 |
| 倫理学 | 教授<br>越智　貢 | 基盤研究（B） | 「平和」理論の構築－「和解」概念に着目した応用倫理学的アプローチ | 21名 | 平成28 | 4,000 |
| | 准教授<br>衛藤　吉則 | 基盤研究（C） | シュタイナー教育の今日的意義－能力概念に基づく国際調査 | | 平成28 | 1,000 |
| 中国思想文化学 | 教授<br>有馬　卓也 | 基盤研究（C） | 古代中国における呪術系医療文化の基礎的研究 | | 平成28 | 400 |
| | 教授<br>市來　津由彦 | 基盤研究（C） | 東アジア近世儒学思想における評価基準としての「二程子」像の総合的研究 | | 平成28 | 500 |
| | 准教授<br>末永　高康 | 基盤研究（C） | 礼学形成史資料としての両載記の基礎的研究 | | 平成28 | 500 |
| 東洋史学 | 教授<br>金子　肇 | 基盤研究（C） | 近現代中国における国家、税政と同業団体 | | 平成28 | 900 |
| | 教授<br>八尾　隆生 | 基盤研究(B)(海) | 再考・清化（タインホア）集団 | | 平成28 | 2,700 |
| | 准教授<br>舩田　善之 | 基盤研究（C） | 文献・戦跡・遺物の総合的分析に基づくモンゴル－宋戦争の研究 | | 平成28 | 1,600 |
| 西洋史学 | 准教授<br>足立　孝 | 基盤研究（C） | 中世盛期スペイン東部における「辺境」と入植運動の空間編成論的研究 | | 平成28 | 600 |
| | 准教授<br>前野　弘志 | 基盤研究（C） | 古代ギリシア・ローマ世界における呪詛板の研究 | | 平成28 | 700 |
| 日本文学語学 | 教授<br>有元　伸子 | 基盤研究（C） | 広島の女性作家・岡田（永代）美知代に関する基礎的および総合的研究 | | 平成28 | 800 |
| | 教授<br>久保田　啓一 | 基盤研究（C） | 成島家を中心とする近世中後期幕臣文化圏の研究 | | 平成28 | 700 |
| | 教授<br>妹尾　好信 | 基盤研究（C） | 岩国市に伝存する和漢古典籍の総合的調査研究―分類総合目録の作成に向けて― | | 平成28 | 500 |
| | 教授<br>松本　光隆 | 基盤研究（C） | 訓点語彙の意味論的研究－文脈付き訓点語彙コーパスの作成－ | | 平成28 | 700 |
| | 准教授<br>下岡　友加 | 基盤研究（C） | ポストコロニアル台湾の日本語作家・黄霊芝に関する総体的研究 | | 平成28 | 700 |
| 中国文学語学 | 教授<br>小川　恒男 | 基盤研究（C） | 言語実験の場としての六朝楽府に関する研究 | | 平成28 | 200 |
| | 准教授<br>川島　優子 | 基盤研究（C） | 「粗悪本」を中心とした中国通俗小説の出版および受容に関する研究 | | 平成28 | 900 |
| | 准教授<br>陳　翀 | 基盤研究（C） | 日本現存の旧鈔本を中心とする文選資料群に関する総合的研究 | | 平成28 | 900 |

| 分　野 | 研究代表者<br>最終年度職<br>氏　名 | 種　目 | 研 究 課 題 等 | 分担者数 | 年度 | 交付額<br>（千円） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 英米文学<br>語学 | 教授<br>新田　玲子 | 基盤研究（C） | アメリカ文学における平和への戦略――第二次世界大戦がもたらした文学的影響 | | 平成28 | 600 |
| | 教授<br>吉中　孝志 | 基盤研究（C） | 自己保存と自己実現の修辞―アンドリュー・マーヴェルの敵と友 | | 平成28 | 700 |
| | 教授<br>今林　修 | 基盤研究（C） | TEIによる次世代英文学アーカイブの構築 | 5名 | 平成28 | 1,100 |
| ドイツ文学<br>語学 | 准教授<br>今道　晴彦 | 基盤研究（C） | 現代ドイツ語の書き言葉における現在完了形の使用実態に関する計量的研究 | | 平成28 | 1,100 |
| 地理学 | 教授<br>友澤　和夫 | 基盤研究(A)(海) | 現代インドの経済空間構造とその形成メカニズム | 15名 | 平成28 | 7,700 |
| | 准教授<br>後藤　秀昭 | 基盤研究（C） | 陸海を統合した詳細ステレオ画像による南西諸島とその周辺海域の変動地形学的研究 | | 平成28 | 2,000 |
| 考古学 | 准教授<br>野島　永 | 基盤研究（C） | 弥生時代鍛造鉄器の生産と流通に関する考古学的研究 | | 平成28 | 900 |
| 文化財学 | 准教授<br>伊藤　奈保子 | 基盤研究（C） | スマトラ・マレー半島におけるシュリーヴィジャヤの美術史学的調査研究 | | 平成28 | 1,300 |

| 分　野 | 研究代表者<br>最終年度職<br>氏　名 | 種　目 | 研 究 課 題 等 | 分担者数 | 年度 | 交付額<br>（千円） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 名誉教授<br>中田　高 | 基盤研究（B） | フィリピンの地震関連地形の包括的把握と地震発生予測精度向上に関する研究 | 2名 | 平成28 | 1,800 |
| | 名誉教授<br>田中　久男 | 基盤研究（C） | アメリカ作家と共同体との確執 | | 平成28 | 800 |
| | 特任助教<br>陳　林 | 若手研究（B） | 構造転換期における中国労働力移動のメカニズムと空間構造 | | 平成28 | 1,100 |

## 表4－3　科学研究費助成事業（学術研究基金助成金／科学研究費補助金）の申請・交付状況

| 学　　科 | 平成19年度 | | 平成20年度 | | 平成21年度 | | 平成22年度 | | | | 平成23年度 | | | | 平成24年度 | | | | 平成25年度 | | | | 平成26年度 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 |
| | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 |
| 人文学科 | 53 | 115,615 | 51 | 120,589 | 61 | 192,855 | 31 | 222,404 | 55 | 117,927 | 36 | 252,056 | 56 | 95,316 | 32 | 193,893 | 58 | 96,499 | 27 | 103,067 | 56 | 97,576 | 28 | 338,348 | 53 | 94,745 |
| | 37 | 70,000 | 31 | 56,700 | 32 | 56,080 | 5 | 13,700 | 29 | 41,053 | 17 | 92,360 | 37 | 54,100 | 13 | 61,640 | 39 | 53,900 | 11 | 37,300 | 40 | 55,200 | 12 | 56,900 | 36 | 48,600 |

注1：上段は申請件数及び金額を，下段は交付件数及び金額を表す。
注2：この表は日本学術振興会特別研究員が含まれない。

（内訳）

| 専攻（分野）＼年度 | 平成19年度 | | 平成20年度 | | 平成21年度 | | 平成22年度 | | | | 平成23年度 | | | | 平成24年度 | | | | 平成25年度 | | | | 平成26年度 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 新規 | | 新規＋継続 | | 新規 | | 新規＋継続 | | 新規 | | 新規＋継続 | | 新規 | | 新規＋継続 | | 新規 | | 新規＋継続 | |
| | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 | 申請件数 | 金額 |
| | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 | 交付件数 | 金額 |
| 比較日本文化学 | 1 | 900 | 1 | 800 | 2 | 1,759 | 3 | 9,128 | 5 | 5,510 | 3 | 13,745 | 4 | 5,400 | 2 | 6,340 | 5 | 4,390 | 2 | 4,780 | 6 | 7,035 | 3 | 49,660 | 5 | 13,072 |
| | 1 | 900 | 1 | 800 | 2 | 1,500 | | | 2 | 2,000 | 2 | 7,160 | 3 | 4,100 | 1 | 1,740 | 4 | 3,800 | 2 | 3,500 | 6 | 5,500 | 2 | 6,400 | 3 | 2,500 |
| 西洋哲学 | 3 | 5,070 | 3 | 4,510 | 3 | 2,620 | 1 | 2,972 | 2 | 1,200 | 2 | 4,431 | 2 | 1,709 | 1 | 1,511 | 2 | 1,310 | 1 | 1,882 | 1 | 484 | 2 | 9,990 | 3 | 4,059 |
| | 3 | 3,900 | 2 | 2,800 | 2 | 1,700 | | | 1 | 500 | 1 | 1,600 | 1 | 500 | | | 1 | 700 | 1 | 1,500 | 1 | 400 | | | 1 | 700 |
| 中国哲学（中国思想文化学） | 2 | 2,250 | 2 | 2,100 | 3 | 3,400 | 1 | 2,600 | 3 | 2,400 | 1 | 2,850 | 3 | 2,750 | 1 | 1,500 | 2 | 1,000 | 3 | 8,340 | 3 | 3,260 | 2 | 9,220 | 3 | 2,340 |
| | 1 | 1,000 | 1 | 1,000 | 2 | 1,900 | | | 2 | 1,600 | 1 | 2,300 | 3 | 2,600 | | | 1 | 500 | 1 | 2900 | 1 | 700 | 1 | 1,500 | 2 | 1,400 |
| インド哲学 | 2 | 7,693 | 2 | 5,931 | 2 | 1,911 | 1 | 4,997 | 2 | 1,811 | 2 | 9,767 | 2 | 3,064 | 1 | 4,938 | 1 | 1,487 | | | 1 | 1,237 | 1 | 5,900 | 2 | 1,500 |
| | 1 | 1,500 | 1 | 800 | 1 | 500 | | | 1 | 600 | | | | | 1 | 4,000 | 1 | 1,200 | | | 1 | 1,000 | 1 | 2,100 | 2 | 2,100 |
| 倫理学 | 2 | 1,820 | 3 | 9,510 | 3 | 9,901 | | | 3 | 6,300 | | | 3 | 5,800 | 2 | 24,589 | 3 | 9,595 | 2 | 8,721 | 3 | 8,483 | 1 | 9,870 | 3 | 8,366 |
| | 2 | 1,400 | 2 | 1,800 | 3 | 5,800 | | | 3 | 6,300 | | | 3 | 5,800 | 1 | 13,700 | 2 | 6,000 | 1 | 3,700 | 2 | 4,800 | | | 2 | 4,800 |
| 国史学（日本史学） | 4 | 7,529 | 4 | 6,186 | 4 | 6,380 | 2 | 22,420 | 4 | 5,660 | 4 | 28,066 | 4 | 6,066 | 2 | 6,594 | 4 | 3,596 | 2 | 6,879 | 4 | 3,981 | 2 | 36,770 | 4 | 7,802 |
| | 3 | 5,400 | 4 | 5,700 | 3 | 5,700 | | | 2 | 1,200 | 2 | 4,800 | 2 | 1,300 | | | 2 | 1,200 | 1 | 3,800 | 3 | 2,500 | | | 2 | 2,100 |
| 東洋史学 | 6 | 24,546 | 5 | 19,745 | 5 | 22,996 | 1 | 4,673 | 2 | 5,796 | 1 | 2,680 | 3 | 8,900 | 3 | 43,390 | 3 | 9,700 | 1 | 5,000 | 3 | 9,790 | | | 3 | 5,640 |
| | 5 | 20,700 | 3 | 16,100 | 4 | 17,300 | | | 1 | 4,200 | | | 2 | 7,700 | 2 | 17,200 | 2 | 4,500 | 1 | 4,000 | 3 | 4,200 | | | 3 | 4,100 |
| 西洋史学 | 3 | 9,450 | 2 | 6,900 | 4 | 14,420 | 1 | 20,000 | 2 | 5,600 | 1 | 20,000 | 2 | 5,600 | 3 | 22,800 | 3 | 2,200 | 2 | 7,249 | 3 | 3,019 | 2 | 14,498 | 3 | 3,019 |
| | | | | | 1 | 700 | | | 1 | 600 | | | 1 | 600 | 1 | 4,100 | 1 | 800 | | | 1 | 900 | 1 | 2,100 | 2 | 1,600 |
| 国語学国文学（日本文学語学） | 5 | 5,812 | 4 | 7,328 | 6 | 36,627 | 5 | 61,470 | 5 | 38,272 | 4 | 13,464 | 5 | 1,000 | 2 | 7,758 | 5 | 5,161 | 2 | 7,758 | 5 | 5,131 | 3 | 27,936 | 5 | 6,002 |
| | 3 | 3,200 | 2 | 2,200 | 1 | 600 | 1 | 2,900 | 1 | 5,483 | 2 | 5,800 | 3 | 2,900 | | | 3 | 2,100 | 1 | 2,000 | 4 | 2,500 | 3 | 9,700 | 5 | 4,300 |
| 中国語学中国文学（中国文学語学） | 3 | 6,130 | 3 | 7,444 | 4 | 5,960 | | | 2 | 1,000 | 1 | 19,690 | 2 | 6,900 | 3 | 7,883 | 5 | 9,393 | 1 | 950 | 4 | 10,230 | 1 | 1,900 | 3 | 1,600 |
| | 2 | 3,600 | 2 | 4,900 | 3 | 4,300 | | | 2 | 1,000 | 1 | 14,200 | 2 | 5,000 | 3 | 6,400 | 5 | 7,300 | | | 3 | 7,400 | 1 | 900 | 3 | 1,600 |
| 英語学英文学（英米文学語学） | 6 | 8,110 | 5 | 4,500 | 6 | 7,281 | 1 | 5,000 | 6 | 5,660 | 2 | 5,413 | 7 | 5,503 | 2 | 9,820 | 6 | 7,803 | 2 | 6,188 | 6 | 7,115 | 2 | 17,950 | 5 | 5,436 |
| | 5 | 5,500 | 4 | 2,800 | 4 | 2,900 | 1 | 3,100 | 6 | 5,100 | 2 | 4,100 | 7 | 5,100 | 2 | 7,700 | 6 | 6,300 | 1 | 3,600 | 5 | 4,500 | | | 3 | 2,700 |
| ドイツ語学ドイツ文学（ドイツ文学語学） | 2 | 3,570 | 3 | 4,100 | 2 | 4,997 | 3 | 6,110 | 3 | 2,280 | 3 | 7,755 | 3 | 2,505 | 1 | 3,975 | 3 | 1,415 | | | 3 | 1,800 | 1 | 4,160 | 2 | 1,810 |
| | | | | | | | | | | | 2 | 3,100 | 2 | 1,600 | 1 | 3,100 | 3 | 1,300 | | | 3 | 1,300 | | | 1 | 700 |
| フランス語学フランス文学（フランス文学語学） | 2 | 1,185 | 2 | 422 | 3 | 2,816 | 3 | 5,292 | 3 | 2,298 | 3 | 5,319 | 3 | 2,324 | 3 | 5,460 | 3 | 2,079 | 3 | 6,155 | 3 | 2,600 | 2 | 6,520 | 2 | 1,316 |
| | 1 | 600 | 1 | 200 | 1 | 500 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 言語学 | 2 | 2,510 | 2 | 1,080 | 3 | 2,740 | 2 | 6,190 | 3 | 2,300 | 3 | 9,570 | 3 | 2,650 | 2 | 5,270 | 3 | 2,400 | 1 | 2,390 | 2 | 1,740 | 2 | 10,780 | 2 | 1,440 |
| | 1 | 500 | 1 | 500 | 1 | 1,080 | | | 1 | 970 | 1 | 2,600 | 1 | 1,000 | | | 1 | 800 | | | 1 | 800 | 1 | 1,800 | 1 | 600 |
| 地理学 | 6 | 24,360 | 5 | 17,159 | 5 | 42,990 | 2 | 24,830 | 4 | 16,215 | 3 | 76,450 | 4 | 21,300 | 1 | 19,730 | 4 | 25,168 | 3 | 22,876 | 5 | 24,127 | 2 | 113,600 | 4 | 24,720 |
| | 6 | 18,200 | 5 | 14,500 | 3 | 10,000 | 1 | 3,100 | 3 | 8,400 | 2 | 42,900 | 3 | 12,300 | | | 3 | 13,600 | 1 | 4,200 | 3 | 14,200 | 1 | 28,700 | 3 | 15,800 |
| 考古学 | 3 | 4,030 | 2 | 6,873 | 3 | 15,855 | 3 | 25,592 | 3 | 7,368 | 2 | 20,556 | 3 | 6,145 | 1 | 12,848 | 3 | 5,041 | 1 | 12,246 | 2 | 4,324 | 1 | 9,598 | 2 | 3,901 |
| | 2 | 3,100 | 2 | 2,600 | | | 1 | 3,500 | 1 | 1,800 | 1 | 3,800 | 2 | 2,400 | | | 2 | 1,800 | 1 | 8,100 | 2 | 3,200 | 1 | 3,700 | 2 | 2,700 |
| 文化財学 | 1 | 650 | 3 | 16,001 | 3 | 10,202 | 2 | 21,130 | 3 | 8,257 | 1 | 12,300 | 3 | 7,700 | 2 | 9,487 | 3 | 4,761 | 1 | 1,653 | 2 | 3,220 | 1 | 9,996 | 2 | 2,722 |
| | 1 | 500 | | | 1 | 1,600 | 1 | 1,100 | 2 | 1,300 | | | 2 | 1,200 | 1 | 3,700 | 2 | 2,000 | | | 1 | 1,300 | | | 1 | 900 |
| 合　計 | 53 | 115,615 | 51 | 120,589 | 61 | 192,855 | 31 | 222,404 | 55 | 117,927 | 36 | 252,056 | 56 | 95,316 | 32 | 193,893 | 58 | 96,499 | 27 | 103,067 | 56 | 97,576 | 28 | 338,348 | 53 | 94,745 |
| | 37 | 70,000 | 31 | 56,700 | 32 | 56,080 | 5 | 13,700 | 29 | 41,053 | 17 | 92,360 | 37 | 54,100 | 13 | 61,640 | 39 | 53,900 | 11 | 37,300 | 40 | 55,200 | 12 | 56,900 | 36 | 48,600 |

注1：上段は申請件数及び金額を，下段は交付件数及び金額を表す。
注2：この表は日本学術振興会特別研究員が含まれない。
注3：新規に関しては、研究期間全体の金額を、新規+継続に関しては当該年度のみの金額を表す。

| 平成27年度 | | | | 平成28年度 | | | | 10年間合計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 申請件数金額 | | 申請件数金額 | | 申請件数金額 | | 申請件数金額 | | 申請件数金額 | | 申請件数金額 | |
| 交付件数金額 | | 交付件数金額 | | 交付件数金額 | | 交付件数金額 | | 交付件数金額 | | 交付件数金額 | |
| 25 | 367,359 | 49 | 103,574 | 27 | 171,552 | 47 | 86,700 | 371 | 2,077,738 | 539 | 1,121,396 |
| 7 | 22,200 | 33 | 44,500 | 11 | 32,700 | 32 | 39,400 | 176 | 499,580 | 346 | 519,533 |

| 平成27年度 | | | | 平成28年度 | | | | 10年間合計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 新規 | | 新規＋継続 | | 新規 | | 新規＋継続 | | 新規 | | 新規＋継続 | |
| 申請件数金額 | | 申請件数金額 | | 申請件数金額 | | 申請件数金額 | | 申請件数金額 | | 申請件数金額 | |
| 交付件数金額 | | 交付件数金額 | | 交付件数金額 | | 交付件数金額 | | 交付件数金額 | | 交付件数金額 | |
| 2 | 49,782 | 5 | 12,528 | 2 | 20,100 | 5 | 7,900 | 21 | 156,994 | 39 | 59,294 |
| | | 3 | 2,900 | 1 | 1,900 | 4 | 3,500 | 12 | 23,900 | 29 | 27,500 |
| 2 | 11,690 | 3 | 3,629 | 3 | 8,830 | 3 | 4,234 | 21 | 53,506 | 25 | 28,825 |
| | | 1 | 400 | | | | | 9 | 11,500 | 13 | 11,600 |
| 2 | 8,081 | 3 | 4,561 | | | 3 | 1,440 | 17 | 40,341 | 27 | 25,501 |
| 2 | 3,900 | 4 | 4,300 | | | 3 | 1,400 | 9 | 14,500 | 20 | 16,400 |
| | | 1 | 1,450 | 2 | 9,800 | 2 | 3,300 | 13 | 50,937 | 17 | 29,384 |
| | | 2 | 1,800 | 2 | 6,400 | 2 | 2,200 | 7 | 15,300 | 12 | 11,700 |
| 2 | 45,042 | 3 | 9,134 | 1 | 3,503 | 3 | 8,981 | 16 | 112,956 | 29 | 77,890 |
| 1 | 4,900 | 2 | 5,700 | | | 2 | 5,000 | 10 | 31,300 | 23 | 47,400 |
| 2 | 36,790 | 4 | 7,313 | 3 | 38,127 | 3 | 11,544 | 29 | 195,741 | 39 | 66,057 |
| | | 2 | 1,500 | | | | | 13 | 25,400 | 23 | 26,600 |
| 1 | 3,292 | 4 | 8,882 | 1 | 4,760 | 3 | 5,410 | 24 | 131,082 | 37 | 121,405 |
| 1 | 2,800 | 4 | 6,900 | 1 | 3,400 | 3 | 5,200 | 17 | 81,500 | 30 | 90,900 |
| 1 | 8,298 | 3 | 3,019 | 1 | 4,149 | 3 | 2,119 | 20 | 127,764 | 28 | 55,346 |
| | | 2 | 1,600 | | | 2 | 1,300 | 3 | 6,900 | 11 | 8,100 |
| 1 | 6,900 | 5 | 5,045 | 1 | 3,450 | 5 | 3,895 | 33 | 178,503 | 50 | 114,273 |
| | | 4 | 3,000 | 1 | 2,500 | 5 | 3,400 | 14 | 28,900 | 31 | 29,683 |
| 2 | 15,120 | 3 | 3,120 | 2 | 7,740 | 3 | 2,920 | 20 | 72,817 | 32 | 54,697 |
| | | 1 | 200 | 2 | 5,500 | 3 | 2,000 | 14 | 39,800 | 26 | 37,300 |
| 3 | 26,610 | 4 | 5,954 | 4 | 17,720 | 4 | 5,799 | 33 | 108,592 | 55 | 63,161 |
| 2 | 6,900 | 3 | 3,600 | 2 | 6,200 | 3 | 2,400 | 23 | 42,800 | 46 | 40,900 |
| 1 | 4,070 | 1 | 800 | 2 | 6,990 | 2 | 2,260 | 18 | 45,727 | 24 | 25,537 |
| | | | | 1 | 3,200 | 1 | 1,100 | 4 | 9,400 | 10 | 6,000 |
| 2 | 7,856 | 2 | 1,411 | 2 | 4,154 | 2 | 1,278 | 25 | 45,179 | 25 | 17,729 |
| | | | | | | | | 3 | 1,300 | 3 | 1,300 |
| | | | | 1 | 2,230 | 1 | 880 | 18 | 42,760 | 21 | 17,740 |
| | | | | | | | | 5 | 6,480 | 8 | 6,250 |
| 2 | 123,840 | 4 | 29,246 | 2 | 39,999 | 3 | 21,811 | 31 | 505,834 | 44 | 247,096 |
| | | 2 | 8,400 | 1 | 3,600 | 2 | 9,700 | 20 | 125,200 | 33 | 125,100 |
| | | 2 | 3,847 | | | 1 | 1,163 | 16 | 107,598 | 24 | 58,547 |
| | | 2 | 2,700 | | | 1 | 900 | 8 | 24,800 | 16 | 21,200 |
| 2 | 19,988 | 2 | 3,635 | | | 1 | 1,766 | 16 | 101,407 | 23 | 58,914 |
| 1 | 3,700 | 1 | 1,500 | | | 1 | 1,300 | 5 | 10,600 | 12 | 11,600 |
| 25 | 367,359 | 49 | 103,574 | 27 | 171,552 | 47 | 86,700 | 371 | 2,077,738 | 539 | 1,121,396 |
| 7 | 22,200 | 33 | 44,500 | 11 | 32,700 | 32 | 39,400 | 176 | 499,580 | 346 | 519,533 |

## 表４－４　文学研究科論集の執筆者数

| 専門分野 | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 13年間の計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 比較日本文化学 | | 2 | 1 | | 1 | 1 | | | 1 | | 1 | | 1 | 8 |
| 哲学 | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| 倫理学 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | 1 | | 1 | 1 | 12 |
| インド哲学 | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | 2 |
| 中国思想文化学 | 2 | | 2 | 1 | | 1 | 1 | | | | | | | 7 |
| | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | 2 |
| 日本史学 | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | 1 | 2 | | | | | 7 |
| 東洋史学 | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| 西洋史学 | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 日本文学語学 | 2 | 3 | 3 | 2 | 3 | 3 | 4 | 3 | 4 | 4 | 2 | 2 | 2 | 37 |
| 中国文学語学 | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | 2 |
| アメリカ・イギリス文学 | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| | | | 1 | | | | | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | | 7 |
| 英語学 | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| ドイツ文学語学 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | 1 | | | | | 1 | 2 | 2 | | | | | 6 |
| フランス文学語学 | | | | 1 | | 1 | 1 | 1 | 3 | 1 | 1 | | 1 | 10 |
| 言語学 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | 1 | 1 | 11 |
| 地理学 | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | 4 |
| | 2 | 1 | | | 1 | | | 1 | 1 | | 1 | 2 | | 9 |
| 考古学 | | | | | | | | | | | | | | |
| 文化財学 | | | | | | | | | | | | | | |
| 外国語教育研究センター | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | 5 |
| その他（教育研究補助職員等） | 2 | 1 | | 1 | | 2 | | 1 | 2 | 1 | 1 | | 2 | 13 |
| 合　計 | 3 | 2 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 | 18 |
| | 11 | 12 | 11 | 9 | 10 | 12 | 9 | 12 | 18 | 8 | 7 | 8 | 8 | 135 |

注1：上段は特輯号の，下段は普通号の執筆者数を表す。
注2：執筆者の専門分野は，現在の分野名で分類している。
注3：「広島大学文学部紀要」は，平成13年度から「広島大学大学院文学研究科論集」へ改称した。

## 表４－５　研究員等受入れ状況

### 内地研究員

| 年度 | 件数 | 氏　名 | 受入れ分野 | 派遣元 |
|---|---|---|---|---|
| 平成18年度 | 1 | 山﨑　真克 | 日本文学語学 | 松江工業高等専門学校 |

### 公立大学研修員

| 年度 | 件数 | 氏　名 | 受入れ分野 | 派遣元 |
|---|---|---|---|---|
| 平成27年度 | 1 | 西田　雅弘 | 倫理学 | 下関市立大学 |

### 私学研修員

| 年度 | 件数 | 氏　名 | 受入れ分野 | 派遣元 |
|---|---|---|---|---|
| 平成17年度 | 1 | 藤河家　利昭 | 日本文学語学 | 広島女学院大学 |

### 中国内陸部人材育成事業研修員

| 年度 | 件数 | 氏　名 | 受入れ分野 | 派遣元 |
|---|---|---|---|---|
| 平成20年度 | 1 | ヨウ　エンペイ<br>楊　艶萍 | 日本文学語学 | 中南林業科技大学 |

### 中国人材育成事業研修員

| 年度 | 件数 | 氏　名 | 受入れ分野 | 派遣元 |
|---|---|---|---|---|
| 平成24年度 | 1 | セツ　セイスイ<br>薛　成水 | 比較日本文化学 | 山西師範大学 |

### 日本学術振興会外国人招へい研究者事業（長期）による研究者

| 年度 | 件数 | 氏　名 | 受入れ分野 | 派遣元 |
|---|---|---|---|---|
| 平成21年度 | 1 | チャットパトヤイ<br>Chattopadhyay,M | インド哲学・仏教学 | ジャダヴプル大学 |

### 日本学術振興会外国人招へい研究者事業（短期）による研究者

| 年度 | 件数 | 氏　名 | 受入れ分野 | 派遣元 |
|---|---|---|---|---|
| 平成23年度 | 1 | ヴィンフリート　ウルリヒ<br>WinfriedV.ULRICH | 言語学 | キール大学 |
| 平成24年度 | 1 | ティワリ，P.C<br>TIWARI，P.C | 地理学 | クマオン大学 |

### 日本学術振興会対応期間との覚書等に基づく研究者

| 年度 | 件数 | 氏　名 | 受入れ分野 | 派遣元 |
|---|---|---|---|---|
| 平成25年度 | 1 | クノフ　トーマス<br>Knoph Thomas | 考古学 | エバーハルト・カール、<br>テュービンゲン大学 |

### 日本学術振興会サマープログラム事業による外国人研究者

| 年度 | 件数 | 氏　名 | 受入れ分野 | 派遣元 |
|---|---|---|---|---|
| 平成26年度 | 1 | クレバー，エミリー　J<br>KLEBER，Emily J | 地理学 | アリゾナ州立大学 |

### 外国人客員研究員

| 年度 | 件数 | 氏　名 | 受入れ分野 | 派遣元 |
|---|---|---|---|---|
| 平成22年度 | 1 | イ　ブヒョン<br>李　釜鉉 | 哲学 | 釜山カトリック大學校 |
| 平成23年度 | 2 | イ　ブヒョン<br>李　釜鉉 | 哲学 | 釜山カトリック大學校 |
| | | セイハン，　センジェル<br>SAYHAN,Sencer | 地理学 | アヒ・エブラン大学 |
| 平成25年度 | 1 | カ　リ<br>賈　莉 | 比較日本文化学 | 浙江財経大学 |
| 平成26年度 | 1 | サイ　チュウ<br>崔　忠 | 比較日本文化学 | 江蘇省教育庁 |
| 平成27年度 | 4 | サイ　ビ ギョク<br>崔　美玉 | 比較日本文化学 | 通化師範学院 |
| | | シン　コウセン<br>沈　紅泉 | 比較日本文化学 | 湖州師範大学 |
| | | テイ　ショウ<br>程　章燦 | 比較日本文化学 | 南京大学 |
| | | コウ　ヘイ<br>黄　萍 | 倫理学 | 燕山大学 |
| 平成28年度 | 4 | コウ　コウケン<br>黄　灝剣 | 比較日本文化学 | 北京市外文翻訳サービス有限会社 |
| | | ジン　ガ ホウ<br>任　雅芳 | 中国文学語学 | 復旦大学 |
| | | ショウタン<br>鐘　丹 | 比較日本文化学 | 武漢職業技術学院外語外貿学院 |
| | | チョウマン<br>丁　曼 | 比較日本文化学 | 外交学院 |

# 第５章　国際交流

## １．教員の交流

教員の外国出張は、33 人（60 件）と、前年度同様、活発に行われた。

教員の研究活動にかかわる出張の経費の内訳を見ると、科学研究費補助金が最も多く、33 件に達している。これも第 4 章の「研究活動」で指摘したような、科学研究費補助金の採択の結果の反映であると考えられる。また、研究科運営費交付金も活用されており、10 件となっている。それ以外としては、北京研究センター等の学内諸機関の経費や、新たにスーパーグローバル大学創成支援事業経費によるものも一定数みられる。このように、26・27 両年度も多数の教員が各種の経費によって、調査や国際学会への出席・研究発表を目的とする外国出張を積極的に行った。出張先を地域別で見ると両年度ともにアジアが多く、なかでも学術調査・研究交流や大学の業務を目的とする、中国への渡航が盛んである（表 5-1）。

海外研修出張は、10 人（19 件）である（表 5-2）。

## ２．学生の交流

### (1) 派遣留学生

学生の海外留学は、前期が学部生 42 人、大学院生 4 人、後期が学部生 18 人、大学院生 2 人である。留学先は 15 カ国以上にわたっている。

アジア地域の中では、台湾が 13 人、中国が 3 人、韓国が 2 名であり、欧米諸国は、最も多いのがドイツであり 11 人、次いでフランス 5 人、アメリカ合衆国、連合王国が各 3 人、スイス 1 人、それ以外は、オーストラリア 13 人、ニュージーランド 2 人である。（表 5-3）。

文学研究科のものに加え、国際室主催のものも含めると、各種短期留学プログラムへの参加も盛んであり、延べ人数では 59 人にのぼり、アジア・オセアニアでは、中国、台湾、韓国、インドネシア、タイ、オーストラリア、ニュージーランド、欧州では、連合王国、ドイツ、スイス、フランス、ロシア、スペイン、米大陸では、アメリカ合衆国である（表 5-4）。

### (2) 受入れ留学生

外国人留学生の受入れ状況についてみると、学部生は 7 人であった。大学院生は顕著に増加した 20・21 年度以降とほぼ同水準で推移している。在籍者数で見ると、122 人（国費 11、私費 111）であり、そのうち博士前期が 65%を占める。このほかに研究生と特別聴講学生がおり、前者は学部が 4 人、大学院が 3 人、後者は学部 4 人、大学院 3 人である（表 5-5）。受入れ留学生の人数は近年増加しつつあるが、今後より多くの留学生を受入れ、指

導していくためには、入試制度や広報活動の充実の他に、住居等の生活環境を整備して行くことが重要な課題となってくる。

## ３．学術・教育交流

**部局間協定等に基づく交流の状況**

①中華人民共和国　北京第二外国語大学日本語学院
　大学間交流協定に基づく修士ダブルディグリープログラム実施に関する附属書締結

②中華人民共和国　中山大学外国語学院
　大学間交流協定に基づく部局間附属書締結

③ヴェトナム　ヴェトナム国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学
　大学間交流協定に基づく部局間附属書締結

④ヴェトナム　ヴェトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学
　部局間交流協定、附属書締結

⑤ドイツ　ヴェストファーレン・ヴィルヘルム大学（通称：ミュンスター大学）
　大学間交流協定（提案部局）

## ４．学術講演会

次のとおり、海外の研究者を招聘して学術講演会を実施した。

平成 28 年度

7 月 14 日

講演者　シュリーディーヴィ・レッディ氏 Dr.Sreedevi Reddy
京都大学人文科学研究所 博報財団国際日本研究フェロー

講演題目　「『輝ク』（1933-1941）を中心に～戦争協力・平和について～」

10 月 5 日

講演者　アンドリュー・ゴードン博士　フロリダ大学名誉教授

講演題目　「To Kill a Mockingbird『アラバマ物語』（映画と原作について）」

10 月 7 日

講演者　Nader Siklaoui（ナーデル・シクラウィ氏・考古学）
レバノン文化省・考古総局・研究員

講演題目　「レバノンにおける考古学的発掘調査のための戦略：ベイルートとテュロス」

表5－1　教員の外国出張状況

| 出発年度 | 講座 | 専門分野 | 氏　　名 | 渡航先国等 | 渡航期間 | 目　　的 | 費用の出所 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成28 | 総合人間学 | 比較日本文化学 | 高永　茂 | 中華人民共和国 | 28.11.9 ～ 28.11.12 | 予備審査への参加 | 教育室 |
| | | | 中村　平 | 台湾 | 28.7.30 ～ 28.8.2 | 先住民に関する調査、資料収集 | 科学研究費助成事業 |
| | | | 中村　平 | ロシア連邦 | 28.9.4 ～ 28.9.9 | 帝国日本の移動と動員に関する調査 | 科学研究費助成事業 |
| | | | 中村　平 | 台湾 | 28.12.27 ～ 29.1.5 | 台湾の条件不利地域に関する資料収集および現地調査 | リーディングプログラム(たおやか) |
| | | | 溝渕　園子 | ロシア連邦 | 29.2.17 ～ 29.2.23 | 20世紀初頭のロシアの少女小説に関する資料調査のため | 科学研究費助成事業 |
| | | | 溝渕　園子 | アメリカ合衆国 | 29.3.15 ～ 29.3.22 | 1920年代アメリカの亡命ロシア人作家の翻訳活動に関する研究調査のため | 科学研究費助成事業 |
| | 応用哲学・古典学 | 哲学 | 後藤　弘志 | ドイツ連邦共和国 | 28.8.11 ～ 28.8.25 | 共同研究打合せ | 運営費交付金 |
| | | | 後藤　弘志 | 中華人民共和国 | 28.9.16 ～ 28.9.18 | 留学相談会への参加 | 教育室 |
| | | | 後藤　弘志 | 中華人民共和国 | 28.11.9 ～ 28.11.12 | 予備審査への参加 | 教育室 |
| | | | 後藤　弘志 | 大韓民国 | 28.11.24 ～ 28.11.26 | 共同国際学術大会に参加 | 科学研究費助成事業 |
| | | 倫理学 | 衞藤　吉則 | 大韓民国 | 28.11.24 ～ 28.11.26 | 広島大学・高麗大学　共同国際学術大会　研究発表 | 科学研究費助成事業 |
| | | インド哲学 | 根本　裕史 | ノルウェー王国 | 28.6.18 ～ 28.6.26 | 第14回国際チベット学会(14th　IATS Seminar)参加 | 科学研究費助成事業 |
| | 応用哲学・古典学 | 中国思想文化学 | 有馬　卓也 | 中華人民共和国 | 28.11.9 ～ 28.11.12 | 予備審査への参加 | 教育室 |
| | | | 有馬　卓也 | 台湾 | 28.11.24 ～ 28.11.28 | 第十回漢代文学与思想暨創系60週年国際学術研討会に参加 | 他機関経費<br>科学研究費助成事業 |
| | | | 市來　津由彦 | 中華人民共和国 | 28.5.13 ～ 28.5.15 | 中国地区大学留学フェア参加 | 運営費交付金 |
| | | | 末永　高康 | 台湾 | 28.6.9 ～ 28.6.13 | 国際会議「離詞・辨言・問道―古典研究再出発」および『荀子』研読会への参加発表 | 科学研究費助成事業 |
| | | | 末永　高康 | 台湾 | 28.8.21 ～ 28.8.25 | 成功大学および中央研究院における学術交流 | 科学研究費助成事業 |
| | | | 末永　高康 | 大韓民国 | 28.11.24 ～ 28.11.27 | 高麗大学校哲学研究所との合同ワークショップへの参加・発表 | 運営費交付金 |
| | 歴史文化学 | 日本史学 | 勝部　眞人 | インドネシア共和国 | 28.8.31 ～ 28.9.4 | グローバルインターンシップ（G.ecbo）学生の引率・学術講演・協定に関する下交渉 | 国際室 |
| | | 東洋史学 | 金子　肇 | 中華人民共和国 | 28.9.4 ～ 28.9.10 | 近代上海の税政，同業団体，工商業聯合会関連史料の調査・収集 | 科学研究費助成事業 |
| | | | 金子　肇 | 中華人民共和国 | 28.9.16 ～ 28.9.18 | 留学相談会への参加 | 教育室 |
| | | | 金子　肇 | 中華人民共和国 | 28.11.18 ～ 28.11.20 | 「近代中国と東アジア：新史料と新視点」学術シンポジウム出席・報告のため | 運営費交付金 |
| | | | 金子　肇 | 中華人民共和国 | 29.3.26 ～ 29.3.29 | 近現代上海の同業団体関連史料の収集 | 運営費交付金 |
| | | | 八尾　隆生 | ベトナム社会主義共和国 | 28.9.7 ～ 28.9.17 | 科研に係る黎朝関連史資料の調査収集 | 科学研究費助成事業 |
| | | | 八尾　隆生 | ベトナム社会主義共和国 | 28.12.14 ～ 29.1.7 | 科研に係る黎朝関連史資料の調査収集及び国際学会での発表 | 科学研究費助成事業 |
| | | | 舩田　善之 | 中華人民共和国 | 28.11.19 ～ 28.11.25 | 東アジア海域交流史の調査研究 | 他機関経費 |
| | | | 舩田　善之 | 台湾 | 28.12.2 ～ 28.12.4 | 研究資料の調査 | 科学研究費助成事業 |
| | | | 船田　善之 | フランス共和国 | 29.1.17 ～ 29.1.24 | 国際ワークショップにおける研究成果の公表 | 科学研究費助成事業 |
| | | 西洋史学 | 井内　太郎 | 英国 | 29.2.17 ～ 29.2.28 | 研究報告ならびに史資料の収集のため | 科学研究費助成事業 |
| | | | 前野　弘志 | 中華人民共和国 | 28.11.9 ～ 28.11.12 | 予備審査への参加 | 教育室 |
| | | | 前野　弘志 | イタリア共和国 | 29.3.24 ～ 29.3.30 | 呪詛に関する遺跡および碑文の調査 | 科学研究費助成事業 |
| | | | 足立　孝 | スペイン | 29.3.13 ～ 29.4.1 | 史料調査 | 科学研究費助成事業 |
| | 日本・中国文学語学 | 日本文学語学 | 下岡　友加 | 台湾 | 29.3.11 ～ 29.3.14 | 調査 | 科学研究費助成事業 |
| | 欧米文学語学・言語学 | アメリカ・イギリス文学 | 新田　玲子 | フランス共和国 | 28.6.27 ～ 28.7.7 | 国際文学心理学会に参加、研究発表 | 科学研究費助成事業 |
| | | | 新田　玲子 | 中華人民共和国 | 28.11.9 ～ 28.11.12 | 予備審査への参加 | 教育室 |
| | | | 吉中　孝志 | 英国 | 28.7.10 ～ 28.7.21 | 資料収集 | 科学研究費助成事業 |
| | | | D. ヴァリンズ | 英国 | 28.8.2 ～ 28.8.27 | 資料収集調査 | 科学研究費助成事業 |
| | | | 松本　舞 | 英国<br>イタリア共和国 | 28.7.12 ～ 28.7.27 | 湖水地方現地調査，ローマ市内現地調査 | 社会産学連携室<br>運営費交付金 |
| | | 英語学 | 今林　修 | 中華人民共和国 | 28.5.13 ～ 28.5.15 | 中国地区大学留学フェア参加 | 運営費交付金 |
| | | | 今林　修 | 中華人民共和国 | 28.9.16 ～ 28.9.18 | 留学相談会への参加 | 教育室 |
| | | | 今林　修 | 中華人民共和国 | 28.11.9 ～ 28.11.12 | 予備審査への参加 | 教育室 |
| | | | 大野　英志 | 英国 | 28.7.9 ～ 28.7.16 | 学会発表（The New Chaucer Society 2016） | 科学研究費助成事業 |
| | | ドイツ文学語学 | 小林　英起子 | 大韓民国 | 28.8.22 ～ 28.8.26 | アジアゲルマニスト会議（AGT 2016）で研究発表のため外 | 運営費交付金 |
| | | | L. ﾌｪｰﾀﾞｰﾏｲﾔｰ | オーストリア共和国 | 28.8.24 ～ 28.9.30 | 文学祭（シュリーアバハ），研究会（ウィーン文学館），作家F.フューマン研究打ち合せ（ベルリン大学）等 | 運営費交付金 |
| | | | L. ﾌｪｰﾀﾞｰﾏｲﾔｰ | スペイン | 29.3.6 ～ 29.3.24 | 会議（オビエド大学），講義（セビリア大学、シンタリマ書店），作家リベイロ研究打合せ等 | 運営費交付金 |
| | | | 今道　晴彦 | ドイツ連邦共和国 | 28.8.31 ～ 28.9.22 | ドイツ語研修，研究資料の収集 | 運営費交付金 |
| | | | 今道　晴彦 | ドイツ連邦共和国 | 29.2.28 ～ 29.3.22 | 資料の収集と電子化，ドイツ語研究所年次大会，研究の打ち合わせ | 科学研究費助成事業 |
| | 地表圏システム学 | 地理学 | 岡橋　秀典 | 中華人民共和国 | 28.8.21 ～ 28.8.26 | 第33回国際地理学会議における発表と学術動向調査 | 日本学術振興会 |
| | | | 岡橋　秀典 | インド | 29.3.4 ～ 29.3.21 | 現代インドの経済空間構造とその形成メカニズムに関する現地調査 | 科学研究費助成事業 |
| | | | 友澤　和夫 | インド | 28.9.10 ～ 28.9.18 | 現代インドの経済空間構造とその形成メカニズムに関する現地調査 | 科学研究費助成事業 |
| | | | 友澤　和夫 | インド | 28.12.30 ～ 29.1.8 | 現代インドの経済空間構造とその形成メカニズムに関する現地調査 | 科学研究費助成事業 |
| | | | 友澤　和夫 | 香港 | 29.2.16 ～ 29.2.20 | たおやかプログラム授業「現代インド地誌学」に関する教材用資料収集 | リーディングプログラム(たおやか) |

| 出発年度 | 講座 | 専門分野 | 氏　　名 | 渡航先国等 | 渡航期間 | 目　　的 | 費用の出所 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成28 | 地表圏システム学 | 地理学 | 後藤　秀昭 | 中華人民共和国 | 28.7.31～28.8.5 | Asia Oceania Geosciences Societyでの発表と資料収集 | 科学研究費助成事業 |
| | | | 後藤　秀昭 | フィリピン共和国 | 28.9.5～28.9.15 | 研究打ち合わせおよび野外調査 | 科学研究費助成事業 |
| | | | 後藤　秀昭 | アメリカ合衆国 | 28.12.11～28.12.16 | アメリカ地球物理学学会での発表 | 科学研究費助成事業 |
| | | 考古学 | 野島　永 | 中華人民共和国 | 29.3.14～29.3.20 | 資料収集調査･鉄器確認作業<br>中国･日本の鉄器製作比較技術研究 | 科学研究費助成事業 |
| | | 文化財学 | 伊藤　奈保子 | インドネシア共和国 | 28.9.7～28.9.23 | 調査のため | 科学研究費助成事業 |
| | | リーディングプログラム（たおやか） | 石川　菜央 | インド | 29.3.4～29.3.13 | オンサイト研修での指導のため | リーディングプログラム(たおやか) |
| | | | 陳　林 | 中華人民共和国 | 28.12.27～29.1.14 | 中国東部沿海地域の労働力移動に関する現地調査 | 科学研究費助成事業 |
| | | | 陳　林 | インド | 29.3.4～29.3.13 | オンサイト研修での指導のため | リーディングプログラム(たおやか) |

表5－2　教員の海外研修出張状況

| 出発年度 | 講座 | 専門分野 | 氏　　名 | 渡航先国等 | 渡航期間 | 目　　的 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成28 | 応用哲学・古典学 | 中国思想文化学 | 末永　高康 | 中華人民共和国 | 28.4.20～28.4.27 | 資料収集 |
| | 歴史文化学 | 東洋史学 | 舩田　善之 | 中華人民共和国 | 28.12.24～28.12.29 | チベット仏教史跡の調査 |
| | 欧米文学語学・言語学 | ドイツ文学語学 | 小林　英起子 | ドイツ連邦共和国 | 28.9.5～28.9.17 | 文献資料収集 |
| | | | L.ﾌｪｰﾀﾞｰﾏｲﾔｰ | オーストリア連邦<br>フランス共和国 | 28.11.17～28.11.27 | 講演，シンポジウム<br>研究打合せ |
| | | フランス文学語学 | 宮川　朗子 | スイス連邦<br>フランス共和国 | 28.9.4～28.9.17 | 協定関係の確認<br>資料調査 |
| | | | O. ロリヤール | フランス共和国 | 28.8.8～28.8.27 | 研究及び資料収集 |
| | | | O. ロリヤール | フランス共和国 | 29.3.3～29.3.20 | 研究及び情報収集 |
| | 地表圏システム学 | 地理学 | 奥村　晃史 | 英国<br>フランス共和国 | 28.4.23～28.5.10 | 研究打合せ |
| | | | 奥村　晃史 | アメリカ合衆国 | 28.5.27～28.6.7 | 研究打合せ |
| | | | 奥村　晃史 | アメリカ合衆国 | 28.7.21～28.7.29 | 地質調査 |
| | | | 奥村　晃史 | ネパール連邦民主共和国 | 28.8.8～28.8.14 | 研究打合せ<br>地質調査 |
| | | | 奥村　晃史 | アメリカ合衆国 | 28.9.9～28.9.16 | 研究打合せ |
| | | | 奥村　晃史 | ネパール連邦民主共和国 | 28.11.21～28.11.29 | 研究打合せ<br>地質調査 |
| | | | 奥村　晃史 | アメリカ合衆国 | 28.12.8～28.12.19 | 研究打合せ，アメリカ地球物理学会<br>地質調査 |
| | | | 奥村　晃史 | ネパール連邦民主共和国 | 29.2.25～29.3.9 | 研究打合せ<br>地質調査 |
| | | 考古学 | 野島　永 | 中華人民共和国 | 29.3.14～29.3.20 | 研究打合せ |
| | | | W. ｼｭﾀｲﾝﾊｳｽ | ドイツ連邦共和国 | 28.9.3～28.9.28 | 研究プロジェクトの打合せ |
| | | 文化財学 | 安嶋　紀昭 | 台湾 | 29.2.14～29.2.17 | 研究打合せ及び美術に関する資料収集 |
| | | | 安嶋　紀昭 | フランス共和国 | 29.2.27～29.3.9 | 国際シンポジウム等打合せ，美術に関する資料収集，講演 |

## 表５－３　学生の海外留学状況

［年度別］

| 留学先国名 | | 年度・学期 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 24 | | 25 | | 26 | | 27 | | 28 | |
| | | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 |
| 中国 | | 1 | | | | | | | | 3 | |
| | | | | | | | | | | | |
| 台湾 | | 5 | 1 | 5 | 3 | 3 | 12 | 2 | 7 | 3 | 10 |
| | | | | | | 1 | | | | | |
| 韓国 | | 4 | | 2 | | 1 | | | | 2 | |
| | | | | 1 | | | | 1 | | | |
| ベトナム | | | 1 | | 3 | | | | 1 | | |
| | | | | | | | | | | | |
| インドネシア | | 1 | | 1 | | 2 | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| マレーシア | | 1 | | | | | | | | 1 | |
| | | | | | | | | | | 1 | |
| アメリカ合衆国 | | 1 | 2 | 2 | 5 | 5 | 5 | 6 | 7 | 4 | |
| | | 2 | | 2 | | 4 | | 3 | | | |
| カナダ | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 1 | | | | | |
| 連合王国 | | 7 | | 5 | 2 | 9 | | 6 | | 3 | |
| | | 1 | | 1 | | 3 | | | | 1 | |
| フランス | | 1 | | | 1 | | | | | 3 | |
| | | | | | | 1 | | | | 1 | 1 |
| ドイツ | | 3 | 3 | 7 | | 3 | | 4 | | 9 | |
| | | | | 1 | 1 | | | 2 | | 1 | 1 |
| スイス | | 6 | | 3 | | 2 | | 2 | | 1 | |
| | | | | | | | | 1 | | | |
| オーストラリア | | | 4 | 3 | | 5 | 2 | 4 | | 11 | 2 |
| ニュージーランド | | | | | | | 7 | | 2 | | 2 |
| その他 | | 1 | | 1 | | 5 | | 5 | 2 | 2 | 4 |
| | | | 1 | | 1 | | | | | | |
| 合計 | 学部生 | 31 | 11 | 29 | 14 | 35 | 26 | 29 | 19 | 42 | 18 |
| | 大学院生 | 3 | 1 | 5 | 2 | 10 | 0 | 7 | 0 | 4 | 2 |

注：数字の上段は文学部学生数を，下段は大学院文学研究科学生数をそれぞれ示す。

## 表５－４　留学プログラム

※部局間国際交流協定校

| プログラム名 | 留学先（国名） | 27年度 | 28年度 | 奨学金受給状況等 |
|---|---|---|---|---|
| HUSA・USAC | 慶熙大学校（韓国） | | | 担当：教育・国際室 |
| | 釜山大学校（韓国） | | | |
| | マラヤ大学（マレーシア） | | | |
| | トムスク国立教育大学（ロシア） | 1 | 1 | |
| | ミネソタ大学（アメリカ合衆国） | | | |
| | ハワイ大学マノア校（アメリカ合衆国） | | | |
| | ネバダ大学リノ校（アメリカ合衆国） | 4 | | |
| | ジェームスマディソン大学（アメリカ合衆国） | | | |
| | グラーツ大学（オーストリア） | | | |
| | ハンブルク大学（ドイツ） | 1 | | |
| | ミュンスター大学（ドイツ）　※ | | | |
| | チュービンゲン大学（ドイツ） | 2 | 3 | |
| | オスナブリュック大学（ドイツ） | | | |
| | トゥールーズジャンジョレス大学（フランス） | 1 | 3 | |
| | アリカンテ大学（スペイン） | 1 | | |
| | フロリダ州立大学（アメリカ合衆国） | 1 | | |
| | セントメリーズ大学（カナダ） | | | |
| | インドネシア大学（インドネシア） | | | |
| | マンチェスター大学（イギリス） | | 1 | |
| | ユヴァスキュラ大学（フィンランド） | | | |
| | 南京大学（中国） | | 1 | |
| | 北京師範大学（中国） | | 1 | |
| | リーズベケット大学（イギリス） | | 1 | |
| | リヨン第二大学（フランス） | | 1 | |
| | サンパウロ大学（ブラジル）　※ | | | |
| AIMS | チュラーローンコーン大学（タイ） | 3 | 2 | |
| START | 國立政治大学（台湾） | 3 | 2 | 担当：教育・国際室 |
| | 輔仁大学（台湾） | | 6 | |
| | ベトナム国家大学（ベトナム） | 3 | | |
| | インドネシア大学（インドネシア） | | | |
| | ブラウィジャヤ大学（インドネシア） | 1 | 1 | |
| | フリンダース大学（オーストラリア） | 3 | 3 | |
| | ジェームスマディソン大学（アメリカ合衆国） | 6 | 3 | |
| | チュラーローンコーン大学（タイ） | 1 | 1 | |
| | ロビーラ・イ・ビルジリ大学（スペイン） | | 1 | |
| | オークランド大学（ニュージーランド） | 2 | 2 | |
| シドニー文化体験ツアー | シドニー大学 | | 2 | |
| | ニューサウスウェルズ大学 | | 8 | |
| イギリス英語研修 | エクセター大学（イギリス） | | | 担当：文学研究科教授<br>今林修 |
| | エクセターアカデミー（イギリス） | 5 | 1 | |
| イギリス英語研修（半年） | エクセター大学（イギリス） | | | |
| 夏季フランス語研修 | ローザンヌ大学（スイス）　※ | 3 | 1 | 担当：文学研究科教授 |
| ドイツ語サマースクール | ハンブルク大学（ドイツ） | 5 | 7 | 担当：外国語教育研究センター |
| English Plus ALOHA | ハワイ大学マノア校（アメリカ） | 3 | | 担当：教育・国際室 |
| 中国・台湾文化特別研修 | 首都師範大学（中国）　※ | | 1 | |
| | 開南大学（台湾） | | | |
| 台湾語学研修 | 輔仁大学（台湾） | 6 | 4 | |
| 夏季韓国語短期研修 | 慶熙大学校（韓国） | | 2 | |

## 表５－５　外国人留学生在籍状況

| 年度 | 区分 | 人文学科 | 人文学専攻 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 24 | 国費留学生数 | 1 | 3 | 4 |
| | 学部生 | | | |
| | 研究生 | 1 | | 1 |
| | 博士課程前期 | | | |
| | 博士課程後期 | | 3 | 3 |
| | 私費留学生数 | 17 | 86 | 103 |
| | 学部生 | 3 | | 3 |
| | 研究生 | 9 | 5 | 14 |
| | 特別聴講学生 | 5 | 4 | 9 |
| | 博士課程前期 | | 59 | 59 |
| | 博士課程後期 | | 18 | 18 |
| | 合計 | 18 | 89 | 107 |
| 25 | 国費留学生数 | 2 | 4 | 6 |
| | 学部生 | | | |
| | 研究生 | 2 | 1 | 3 |
| | 博士課程前期 | | | |
| | 博士課程後期 | | 3 | 3 |
| | 私費留学生数 | 14 | 108 | 122 |
| | 学部生 | 2 | | 2 |
| | 研究生 | 6 | 11 | 17 |
| | 特別聴講学生 | 6 | 8 | 14 |
| | 博士課程前期 | | 66 | 66 |
| | 博士課程後期 | | 23 | 23 |
| | 合計 | 16 | 112 | 128 |
| 26 | 国費留学生数 | 1 | 1 | 2 |
| | 学部生 | 1 | | 1 |
| | 研究生 | | | |
| | 博士課程前期 | | | |
| | 博士課程後期 | | 1 | 1 |
| | 私費留学生数 | 11 | 101 | 112 |
| | 学部生 | 3 | | 3 |
| | 研究生 | | 6 | 6 |
| | 特別聴講学生 | 8 | 5 | 13 |
| | 博士課程前期 | | 68 | 68 |
| | 博士課程後期 | | 22 | 23 |
| | 合計 | 12 | 102 | 114 |
| 27 | 国費留学生数 | 1 | 5 | 6 |
| | 学部生 | 1 | | 1 |
| | 研究生 | | | |
| | 博士課程前期 | | 2 | 2 |
| | 博士課程後期 | | 3 | 3 |
| | 私費留学生数 | 18 | 122 | 140 |
| | 学部生 | 6 | | |
| | 研究生 | 3 | 7 | |
| | 特別聴講学生 | 9 | | |
| | 博士課程前期 | | 77 | |
| | 博士課程後期 | | 38 | |
| | 合計 | 19 | 127 | 146 |
| 28 | 国費留学生数 | 1 | 11 | 12 |
| | 学部生 | 1 | | 1 |
| | 研究生 | | | |
| | 博士課程前期 | | 2 | 2 |
| | 博士課程後期 | | 9 | 9 |
| | 私費留学生数 | 14 | 116 | 130 |
| | 学部生 | 6 | | |
| | 研究生 | 4 | 3 | |
| | 特別聴講学生 | 4 | 3 | |
| | 博士課程前期 | | 77 | |
| | 博士課程後期 | | 34 | |
| | 合計 | 15 | 128 | 143 |

# 第６章　社会との連携

## １．公開講座等

１）広島大学の通則に基づき、昭和 58 年度から一般市民を対象とした公開講座を毎年実施してきた。平成 12 年度からは、これとは別に高校生向けの講座も実施していたが、15 年度から高校生向けの講座を一般市民向けの講座に統合し、以後、継続して実施している。28 年度は「＜隣人＞との出会いと語らいー旅する人文学ー」というテーマで 3 日間実施し（期間は 11 月 12 日～11 月 19 日）、募集人員 60 名に対し 21 名の受講者があり、18 名が修了した。（表 6-1）。

２）平成 16 年度の国立大学法人化を契機として、人文学の社会連携のあり方を模索する試みに着手し、「人文学の社会連携を考える」というテーマでの講演会を催した。人文学という学問の固有性を尊重しながら、可能な社会連携とは何かを、今後とも検討し続けていく必要がある。

このように人文学の社会連携のあり方を検討する一方で、各種の実践を行ってきた。その一つが 16 年度から始めた公開講座「21 世紀の人文学」であり、以後継続して実施している。28 年度は「哲学・倫理学を通して物の見方を考えてみよう」をテーマとし、応用哲学・古典学講座の教員 2 名が担当し、入場者数は約 93 名であった。

人文学の社会連携という観点からのもう一つの試みが芸術鑑賞会である。最初は、16 年度の国立大学法人化のスタートを記念するという意味で、17 年 1 月にサタケメモリアルホールで広島交響楽団による「リテラ ニューイヤーコンサート」を主催したが、東広島市民も含めて好評であったことから、継続して開催し、26 年度の「リテラスプリングコンサート」で 10 回目の開催となった。

27 年度は趣向を変えた新しい試みとして、「リテラ芸術鑑賞会 2016 バレンタイン狂言会」として、日本・中国文学語学講座教授による狂言の古典語解説ミニ講義に引き続き、芝山千五郎家による狂言 2 目を 28 年 2 月 14 日に開催したことから、28 年度は開催しなかった。

（以上、表 6-2）

## ２．学外委員・講師の引き受け

１）文部科学省をはじめとする国の機関、教育委員会およびその他の地方機関、公益法人等において、学術・文化の向上、文化行政の各種施策等のために、文学研究科教員が学識経験者として参画している。

学外委員の引き受け状況は、98 件であり、前年度（101 件）に比してやや減少した。

22 年度と 23 年度は、文部科学省以外の国の機関も多いが、教育委員会や地方機関からの委嘱件数の比率が高い。26 年度からは企業委員も引き受け数に入れるようにした。

２）国立・私立の大学等の教育・研究に協力し、学問の普及に貢献している。講師の引き受け状況は、他の国立大学や、広島県を中心とする他大学・短大での非常勤講師を中心に、各種学校やカルチャーセンター等も含めて、47 件であり、前年度（43 件）に比して、やや増加した。各種学校等やカルチャーセンター等が減っている。

またその他についてみると、法人の理事、調査員、共同研究員の委嘱があり、26 年度からは企業の理事・調査員等も引受数に入れるようにしたが、この分が少なくない数字となっている。(以上、表 6-3)。

## ３．企業等からの学術・教育助成

学術助成、教育助成等を目的とする企業、財団、個人等からの寄附は、計 5 件、約 680 万円であった。件数はこれまでと同程度の受入である。

科学研究費補助金以外の、企業等からの、研究や教育の助成を目的としたこうした外部資金の導入も重要であり、さらなる増加が望まれる。

## ４．受託研究・共同研究の受入れ

受託研究は 2 件、約 160 万円であり、受託事業は 1 件、約 96 万円であった。

## 表６－１　公開講座実施状況（文学部関係）

| 年度 | 講座名称 | 日数(時間数) | 実施期間 | 対象者 | 募集人員 | 受講者 | 修了者 | 講座担当責任者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 19 | ことばとコミュニケーション | 3日(9時間) | 平成19．9．22～10．13 | 一般市民 | 60 | 47 | 40 | 総合人間学講座<br>准教授　高永　　茂 |
| 20 | 古に学び今を問う～応用哲学・古典学からのアプローチ | 5日(15時間) | 平成20．9．20～10．25 | 一般市民 | 60 | 64 | 59 | 応用哲学・古典学講座<br>教授　山内　廣隆 |
| 21 | もっと深く，もっと広く知ろう厳島の歴史と文化 | 3日(9時間) | 平成21．10．3～10．17 | 一般市民 | 60 | 58 | 51 | 地表圏システム学講座<br>教授　三浦　正幸 |
| 22 | 広島のことばと文芸 | 3日(9時間) | 平成22．9．18～10．2 | 一般市民 | 60 | 22 | 20 | 日本・中国文学語学講座<br>教授　久保田　啓一 |
| 23 | 中国の文化と社会 | 3日(9時間) | 平成23．10．15～10．29 | 一般市民 | 60 | 50 | 20 | 応用哲学・古典学講座<br>教授　野間　文史 |
| 24 | 歴史のなかの瀬戸の海～瀬戸内海を旅した人びと | 3日(9時間) | 平成24．11．10～11．24 | 一般市民 | 60 | 55 | 53 | 歴史文化学講座<br>教授　西別府　元日 |
| 25 | ワクワクする欧米文学への招待 | 3日(9時間) | 平成25．11．2～11．16 | 一般市民 | 50 | 28 | 21 | 欧米文学語学・言語学講座<br>教授　小林　英起子 |
| 26 | 古代東洋の叡智(古代アジアの人々は何を考えていたか) | 3日(9時間) | 平成26．11．15～11．29 | 一般市民 | 60 | 47 | 37 | 応用哲学・古典学講座<br>教授　有馬　卓也 |
| 27 | 神になった？東アジアの英雄達 | 3日(9時間) | 平成27．11．7～11．21 | 一般市民 | 60 | 61 | 45 | 歴史文化学講座<br>教授　八尾　隆生 |
| 28 | ＜隣人＞との出会いと語らい－旅する人文学－ | 3日(9時間) | 平成28．11．12～11．19 | 一般市民 | 60 | 21 | 18 | 総合人間学講座<br>教授　河西　英通 |

## 表６－２　部局主催行事等開催状況

| 年度 | 行　事　名 | 開催期間 | 入場者数 |
|---|---|---|---|
| 19 | 平成19年度広島大学大学院文学研究科　公開講座<br>リテラ「21世紀の人文学」講座2007<br>「現代に生きる哲学」<br>第1回 「環境と生命を考える」<br>・「環境倫理の最前線－ドイツ実践的自然哲学から学ぶ」<br>（応用倫理・哲学講座　山内　廣隆教授）<br>・「生命倫理の最前線－カントから学ぶ」<br>（応用倫理・哲学講座　松井　富美男教授）<br>第2回 「教育とモラルを考える」<br>・「教育を哲学の視点から考えてみませんか？」<br>（応用倫理・哲学講座　衛藤　吉則准教授）<br>・「私たちはどこまで自律的か？」<br>（応用倫理・哲学講座　越智　貢教授）<br>第3回 「身近な生活を哲学する」<br>・「西洋古代・中世哲学からみた現代のことば」<br>（応用倫理・哲学講座　赤井　清晃准教授）<br>・「人には親切に－「ふれあい」以上をきらう現代人」<br>（応用倫理・哲学講座　近藤　良樹教授） | 平成19．11．17<br>平成19．11．24<br>平成19．12．1 | 延べ60名 |
| | 広島大学大学院文学研究科主催「日本文化と造形芸術」展<br>－人文科学の研究資料と現代美術との出会い－<br>・ギャラリートーク<br>（地表圏システム学講座　古瀬　清秀教授と木村　東吾氏）<br>・ギャラリートーク<br>（地表圏システム学講座　三浦　正幸教授と的場　智美氏）<br>・茶道講演会<br>（永田　宗伴氏，永田　宗匠氏） | 平成19．10．9　～10．26<br>平成19．10．13<br>平成19．10．20<br>平成19．10．23 | 約2000名 |
| | 広島大学大学院文学研究科主催「リテラ　ニューイヤーコンサート」<br>－広島交響楽団フルート四重奏－<br>エルガー：愛の挨拶<br>バッハ：管弦楽組曲　第2番　～ポロネーズ<br>モーツァルト：フルート四重奏曲　第2番　ト長調　K.285a<br>チャーチル：「白雪姫」～いつか王子様が　ほか<br>フルート：中村めぐみ　　BIG　MARIMBA<br>ヴァイオリン：石井郁子<br>ヴィオラ：伊藤栄朗<br>チェロ：伊藤哲次 | 平成20．1．26 | 約500名 |

| 年度 | 行　事　名 | 開催期間 | 入場者数 |
|---|---|---|---|
| 20 | 平成20年度広島大学大学院文学研究科　公開講座<br>リテラ「21世紀の人文学」講座2008<br>「日本文化を読み解く」<br>第1回 「言語と環境」<br>・「日本語の敬語を考える」（総合人間学講座　高永　茂准教授）<br>・「“環境”が結んだ中世東アジア」（歴史文化学講座　岡　元司准教授）<br>第2回 「地域から世界へ」<br>・「岩見銀山をめぐる人々」（歴史文化学講座　本多　博之准教授）<br>・「移り住む日本文化－広島からハワイへ－」（歴史文化学講座　山代　宏道教授）<br>第3回 「交差する文化」<br>・「日本文化をひっくり返す？」（総合人間講座　河西　英通教授）<br>・「日本の文芸家が見たアメリカ」 | 平成20．11．1<br>平成20．11．8<br>平成20．11．15 | 延べ60名 |
| | 広島大学大学院文学研究科・広島大学図書館主催<br>広島大学公開講演会<br>「源氏物語千年紀の年を振り返って」<br>（国文学研究資料館館長　伊井　春樹氏） | 平成20．12．15 | 約100名 |
| | 広島大学大学院文学研究科主催「リテラウィンターコンサート」<br>－広島交響楽団木管五重奏－<br>イベール：３つの小品～第1章<br>ドヴォルザーク：ユーモレスク<br>ハイドン：ディベルティメント～2楽章<br>ハーライン：星に願いを　ほか<br>フルート：中村めぐみ　広島大学交響楽団弦楽四重奏<br>オーボエ：板谷由起子<br>クラリネット：橋本眞介<br>ファゴット：小澤公裕<br>ホルン：河原　完 | 平成21．1．31 | 約500名 |
| 21 | 平成21年度広島大学大学院文学研究科　公開講座<br>リテラ「21世紀の人文学」講座2009<br>「広島から多喜二を読む」<br>・「もしや蟹工船、さらば蟹工船－蟹工船ブームと日本経済の未来－」<br>（地表圏システム学講座　友澤　和夫教授）<br>・「〈身体が殺されている〉ということ」<br>（日本・中国文学語学講座　瀬崎　圭二准教授） | 平成21．11．28 | 約30名 |
| | 広島大学大学院文学研究科・理学研究科主催<br>広島文理科大学創立80年追懐記念講演会<br>「宗教と社会経済史－真宗門徒における移住・移民－」<br>（広島大学名誉教授　有元　正雄氏）<br>「文理大閉学前後の広島大学」<br>（広島大学名誉教授　紀　隆雄氏） | 平成21．11．7 | 約60名 |
| | 広島大学大学院文学研究科主催「リテラウィンターコンサート」<br>－広島交響楽団木管五重奏－<br>モーツァルト：ディヴェルティメント第9番～第4楽章<br>プーランク：ノベレッテ<br>ショスタコーヴィチ：バレエ「黄金時代」よりポルカ<br>ヒンデミット：小室内楽曲より第1&第5楽章　ほか<br>フルート：中村めぐみ　広島大学パンフルート同好会<br>オーボエ：板谷由起子<br>クラリネット：橋本眞介<br>ファゴット：小澤公裕<br>ホルン：河原　完 | 平成22．2．20 | 約550名 |
| 22 | 平成22年度広島大学大学院文学研究科　公開講座<br>リテラ「21世紀の人文学」講座2010<br>「龍馬の生きた時代の歴史と文学」<br>・「幕末政治と坂本龍馬」<br>（歴史文化学講座　勝部　眞人教授）<br>・「志士と文学－和歌・漢詩－」<br>（日本・中国文学語学講座　久保田　啓一教授） | 平成22．10．23 | 約60名 |
| | 広島大学大学院文学研究科　リテラカフェ<br>「坂本龍馬はヒーローだったか？」<br>（歴史文化学講座　勝部　眞人教授） | 平成22．11．3 | 約60名 |
| | 広島大学大学院文学研究科主催「リテラスプリングコンサート」<br>－広島交響楽団弦楽五重奏－<br>クライスラー：愛の喜び<br>シュトラウス：皇帝円舞曲<br>ホルスト：Jupiter（組曲「惑星」～木星）<br>モーツァルト：アイネ・クライネ・ナハトムジーク　ほか<br>1stヴァイオリン：石井郁子　Key-To<br>2ndヴァイオリン：山根啓太郎　（二胡奏者　竹内ふみの）<br>ヴィオラ：伊達真帆　（ギター　佐々木行）<br>チェロ：伊藤哲次<br>コントラバス：村田和幸 | 平成23．3．21 | 約350名 |

| 年度 | 行　事　名 | 開催期間 | 入場者数 |
|---|---|---|---|
| 23 | (財)広島市未来都市創造財団との連携事業<br>リテラ「21世紀の人文学」講座2011<br>「司馬遼太郎を読む」<br>・「『菜の花の沖』を読む」<br>（歴史文化学講座　中山　富廣教授）<br>・「司馬遼太郎は「東北」をどう読んだか」<br>（総合人間学講座　河西　英通教授） | 平成23．9．17 | 約130名 |
| | 広島大学大学院文学研究科主催「リテラウィンターコンサート」<br>－広島交響楽団弦楽四重奏－<br>モーツァルト：　ディヴェルティメントニ長調K.136～第1楽章<br>クライスラー：　美しきロスマリン<br>ラヴェル：　亡き王女のためのパヴァーヌ<br>ボッケリーニ：　メヌエット　ほか<br>1stヴァイオリン：　石井郁子　　邦楽グループKAMO<br>2ndヴァイオリン：　山根啓太郎<br>ヴィオラ：　伊達真帆<br>チェロ：　伊藤哲次 | 平成24．2．18 | 約500名 |
| 24 | (財)広島市未来都市創造財団との連携事業<br>リテラ「21世紀の人文学」講座2012<br>「『古事記』から日本を読む」<br>・「『古事記』は偽物？」<br>（歴史文化学講座　西別府　元日教授）<br>・「本居宣長以前の『古事記』享受」<br>（日本・中国文学語学講座　久保田　啓一教授） | 平成24．10．13 | 約100名 |
| | 広島大学大学院文学研究科主催「リテラウィンターコンサート」<br>－広島交響楽団木管五重奏－<br>シュライナー：　インマー・クライナー<br>モーツァルト：　ディヴェルティメント第12番<br>ロジャース：「サウンド・オブ・ミュージック」メドレー<br>アルベニス：　スペイン組曲　ほか<br>フルート：　中村めぐみ　　HUPPS 打楽器アンサンブル<br>オーボエ：　板谷由起子<br>クラリネット：　橋本眞介<br>ホルン：　渡部奈津子<br>ファゴット：　徳久英樹 | 平成25．2．16 | 約400名 |
| 25 | (財)広島市未来都市創造財団との連携事業<br>リテラ「21世紀の人文学」講座2013<br>「東アジア世界の中の「日本」史」<br>・「平清盛の天下観と国家像-東アジア海域秩序の再建と『太平御覧』の渡来-」<br>（日本・中国文学語学講座　陳　狲准教授）<br>・「天下統一と銀流通」<br>（歴史文化学講座　本多　博之教授） | 平成25．10．19 | 約60名 |
| 26 | 広島大学大学院文学研究科主催「リテラスプリングコンサート」<br>－広島交響楽団弦楽八重奏－<br>ヴィヴァルディ：「四季」～「冬」第1楽章、「春」第1楽章<br>ドヴォルザーク：　ユーモレスク<br>サルトーリ：　タイム・トゥ・セイ・グッバイ<br>ロジャース：「サウンド・オブ・ミュージック」セレクション　ほか<br>ヴァイオリン：　石井郁子　沖めぐみ　　東広島マンドリンアンサンブル<br>掛本麻里　正田愛子<br>ビオラ：　伊達真帆　栄　智宏<br>チェロ：　岩橋　綾<br>コントラバス：　村田和幸 | 平成26．5．24 | 約250名 |
| | (公財)広島市文化財団との連携事業<br>リテラ「21世紀の人文学」講座2014<br>「第一次世界大戦とはいかなる戦争だったのか」<br>・「中国の第一次世界大戦参戦とその余波」<br>（歴史文化学講座　金子　肇教授）<br>・「「ヨーロッパ戦争」から「世界戦争」へ～歴史認識の問題として読み解く～」<br>（歴史文化学講座　井内　太郎教授） | 平成26．12．6 | 85名 |
| 27 | (公財)広島市文化財団との連携事業<br>リテラ「21世紀の人文学」講座2015<br>「「終活」を哲学しよう―生と死の幸福論―」<br>・「新たな人生の出発としての老い」<br>（応用哲学・古典学講座　松井　富美男教授）<br>・「チベットの臨終儀礼に学ぶ死の迎え方」<br>（応用哲学・古典学講座　根本　裕史准教授） | 平成27．12．5 | 91名 |
| | 広島大学大学院文学研究科主催「リテラ芸術鑑賞会2016」<br>－バレンタイン狂言会－<br>第1部：ミニ講義「入試に役立つ（かもしれない）古典の言葉」<br>（日本・中国文学語学講座　妹尾　好信教授）<br>第2部：バレンタイン狂言会<br>（茂山千五郎家）　「御茶の水」…茂山千三郎、網谷正美、鈴木　実<br>「濯ぎ川」…茂山七五三、島田洋海、松本　薫 | 平成28．2．14 | 約200名 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 28 | (公財)広島市文化財団との連携事業<br>リテラ「21世紀の人文学」講座2016<br>「哲学・倫理学を通して物の見方を考えてみよう<br>−あなたは西洋タイプ，それとも日本タイプ？−」<br>・「日本的な物の見方とは？」<br>（応用哲学・古典学講座　衞藤　吉則准教授）<br>・「西洋的な物の見方とは？」<br>（応用哲学・古典学講座　硲　智樹准教授） | 平成28．12．3 | 93名 |

表６－３　学外委員・講師等の引受け状況

| 区分 | | | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 委員 | 国機関 | 文部科学省 | 6 | 3 | 1 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 2 |
| | | その他 | 15 | 19 | 16 | 17 | 1 | 2 | 21 | 13 | 19 | 22 | 17 | 20 | 16 |
| | 教育委員会 | | 34 | 41 | 37 | 41 | 27 | 43 | 28 | 32 | 47 | 50 | 37 | 31 | 33 |
| | 地方機関（教委を除く） | | 7 | 9 | 11 | 11 | 17 | 20 | 13 | 22 | 31 | 31 | 32 | 34 | 39 |
| | 公益法人等 | | 5 | 7 | 9 | 9 | 18 | 19 | 6 | 10 | 17 | 22 | 17 | 11 | 8 |
| | 企　業 | | | | | | | | | | | | 2 | 3 | |
| | 計 | | 67 | 79 | 74 | 80 | 63 | 86 | 68 | 77 | 114 | 125 | 106 | 101 | 98 |
| 講師 | 国立大学・短大 | | 6 | 6 | 3 | 7 | 8 | 5 | 6 | 5 | 12 | 7 | 8 | 11 | 7 |
| | その他の大学・短大 | | 29 | 33 | 35 | 29 | 44 | 32 | 26 | 32 | 36 | 29 | 32 | 28 | 29 |
| | 各種学校等 | | | 4 | 1 | 1 | 3 | 4 | 11 | 10 | 2 | 3 | 3 | 1 | 10 |
| | カルチャーセンター等 | | 2 | 5 | 2 | 2 | 17 | 19 | 32 | 28 | 16 | 9 | 6 | 3 | 1 |
| | 計 | | 37 | 48 | 41 | 39 | 72 | 60 | 75 | 75 | 66 | 48 | 49 | 43 | 47 |
| 法人の理事等 | | | 5 | 6 | 3 | 2 | 4 | 9 | 5 | 5 | 8 | 8 | 8 | 6 | 4 |
| 調査員等 | | | 3 | 2 | 2 | 2 | 7 | 2 | 2 | 1 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 共同研究員等 | | | 6 | 5 | 7 | 3 | 7 | 14 | 7 | 5 | 12 | 13 | 11 | 11 | 8 |
| 企業の理事・調査員等 | | | | | | | | | | | | | 4 | 9 | 3 |
| 合計 | | | 118 | 140 | 127 | 126 | 153 | 171 | 157 | 163 | 203 | 196 | 180 | 172 | 162 |

注 ： 国の機関等以外については，兼業・同意を要するもののみ掲げた。

# 第７章　教員組織

## １．教員配置

平成 13 年度から従来の大学院教育・研究組織を 14 専攻から 1 専攻の人文学専攻とし、5 教育研究分野（思想文化学、歴史文化学、中国文化学、言語表象文化学、地表圏システム学）に再編し、平成 19 年度には、比較日本文化学分野を新設して、6 教育研究分野とした。

これに対応して、教員組織を文学部から大学院文学研究科へ部局を移行させ、基幹講座 7（総合人間学講座、応用倫理・哲学講座、歴史文化学講座、中国文学思想文化学講座、言語文化学講座、表象文化学講座、地表圏システム学講座）及び協力講座 1（言語応用文化学講座）に改組したが、平成 18 年度には、協力講座を解消した。

平成 20 年度には、応用倫理・哲学講座、中国文学思想文化学講座、言語文化学講座、表象文化学講座の 4 講座を応用哲学・古典学講座、日本・中国文学語学講座、欧米文学語学・言語学講座の 3 講座へ再編し、基幹講座 6 とした。

平成 21 年度には、教育研究分野を、比較日本文化学、思想文化学、歴史文化学、日本・中国文学語学、欧米文学語学・言語学、地表圏システム学の 6 分野に再編し、教員組織との連動を図った。

また、平成 22 年度には、総合人間学講座の教育研究分野を比較日本文化学教育研究分野から人間文化学教育研究分野に変更した。（表 7-1）

平成 23 年度から平成 27 年度にかけては、教員組織の変更はなかった。

平成 28 年度から全学的に教員の所属が「学術院」に移行し、学部、研究科等の教育研究組織に配属されることとなった。

学術院は、専門分野で分類した３５のユニットで構成され、文学研究科教員は、以下の５ユニットに所属する。

「哲学・倫理学・宗教学・芸術学」

「人類学・地理学・歴史学」

「英語圏文学・英語学」

「外国文学・外国語学」

「日本文学・日本語学」

## ２．教員選考の基準・方法等

### (1) 教員選考の基準・方法

教員選考の基準・方法については、平成 13 年度の大学院改組を契機に、従来の教員選考基準の大幅な見直しを行い、人事の基本として①教員の任用は、原則として公募とすること、②明確な選考基準に従った人事を行うこととし、「広島大学大学院文学研究科教員選

考基準内規」、「広島大学大学院文学研究科教員選考基準の基本的な考え方」および「教員選考委員会設置に関する申し合わせ」を制定し、選考手続を明確にした。

これにより、13 年度 3 件、14 年度 3 件、15 年度 7 件、16 年度 1 件 17 年度 4 件、18 年度 6 件、19 年度 7 件、20 年度 3 件、21 年度 8 件、22 年度 1 件、23 年度 6 件、24 年度 2 件、25 年度 2 件、26 年度 3 件、27 年度 5 件、28 年度 3 件の選考手続きを行った。

なお、平成 18 年度の学校教育法の一部改正に伴い、平成 19 年度から助教授が准教授へ名称変更されるとともに、研究科所属の助手が資格審査を経て助教となった。

また、平成 22 年度からの第二期中期目標期間における教員の人員配分については、全学的視点に立った適切かつ効率的な人件費管理を行うとともに、戦略的な学内資源配分を行うため、員数方式から金額方式（ポイント制）へ見直しが行われ、部局に配分されたポイントの中で人員配置計画を行ってきたが、平成 23 年度以降、毎年度 2%のポイント削減が実施された。

教授の選考については、優秀な人材の外部流出防止、上位ポストを下位の者で占めておりポストの枠の状況（当該講座配分ポイント数の残が 1 未満の場合）からして、教授が公募できない場合等を勘案し「公募によらない教授選考についての申し合わせ」を平成 23 年 4 月 18 日に制定し行うこととした。この申し合わせによる教授の選考は、24 年度 1 件、25 年度 1 件、26 年度 2 件であった。

平成 28 年度から、部局に配分されていた人件費ポイントが役員会管理となった。

また、人員措置及び候補者の適否決定は、部局からの人員措置申請及び選考報告に基づき、役員会の議を経て学長が決定することとなった。

**(2) 教員の任期制**

平成 14 年 4 月から本研究科に新たに任用する助手（平成 19 年度以降は助教）に対しては、すべて任期制を適用することとし、任期制適用者の処遇等を審議するため「広島大学大学院文学研究科人事交流委員会」を設置したが、平成 27 年度までに任期を付した助手（平成 19 年度以降は助教）は採用していない。

なお、平成 20 年 10 月から全学枠のプロフェッサーシフト雇用による助教 1 名を採用した。（任期：平成 22 年 4 月 30 日まで）

また、平成 22 年度から教員の人員管理は、員数方式から金額方式（ポイント制）になったことから、各年度で残ったポイントを研究科長預かりとし、そのポイント内で平成 23 年 2 月 16 日に制定（平成 24 年 11 月 12 日に改正）した「特任助教の雇用に関する申し合わせ」に基づき任期 1 年の特任助教を採用している。これにより、平成 23 年度に 6 名、24 年度に 5 名、25 年度に 3 名を採用した。26 年度、27 年度、28 年度は採用しなかった。

平成 26 年度から「広島大学大学院文学研究科のテニュア・トラック制に関する内規」を制定し、文部科学省科学技術人材育成費補助金「科学技術人事育成のコンソーシアム構

築事業」によるテニュア・トラック教員（助教１名）を採用した。

## ３．外国語教育研究センター教員

外国人教師制度において研究科で雇用していた外国人教師は、制度の廃止に伴い、平成18年4月1日から外国語教育研究センター所属教員となった。

その際、外国人教師として雇用されていた4名のうち3名については、資格審査を経て外国語教育研究センター教員として引き続き雇用され、1名については、平成18年4月1日付けで新たに3年任期の外国語教育研究センター教員として採用された。4名は引き続き文学部及び文学研究科の中国語、英語、ドイツ語、フランス語の授業を担当してきた。

しかしながら、これら4名の外国人教員（元外国人教師等）は、もともと文学研究科における大学院や学部担当教員としての能力・適正を基準に採用されたものであり、文学研究科のスタッフとしては優秀な人材であることから、平成23年8月開催の役員会の議を経て、平成24年4月1日付けで再び3年任期の大学院文学研究科所属の教員となった。ただし、人件費ポイントについては、役員会で管理されることとなった。なお、4名の教員の内1名（中国語担当）は、平成24年3月に退職し母国に帰国したため、新たに後任補充を行った。また、当該教員の雇用期間満了時の更新においては、平成23年11月14日制定の「広島大学大学院文学研究科における元外国人教師枠の教員に関する内規」に基づき実施することとなった。

## ４．特任教員

教育・研究の充実を目的に、以下の特任教員を雇用した。

【平成28年度】

・機能強化経費「機能強化促進分」特任教授3名（3ヶ月）
・機能強化経費　特任教授1名（1ヶ月）
・平成26年度全学調整分（外国人教員採用支援分）　特任准教授1名
・大学院リーディングプログラム（たおやかで平和な共生社会創生プログラム）
　特任准教授1名、特任助教1名

## ５．非常勤講師

非常勤講師は、各講座で授業科目の厳選を行い、学外非常勤講師は計画的配置を行っている。多様な教育を提供するためには、非常勤講師の計画的な配置はやむを得ない側面がある一方で、限られた経費の中で教育内容の充実を図るための方策について、さらに踏み込んだ議論を行う必要がある。また、非常勤講師の任用に関しては、平成21年2月18日に「非常勤講師の任用に関する申し合わせ」を制定し、採用の基準をより明確にしたうえで、行っている。

平成 28 年 7 月から全学的に、非常勤講師から客員教員（客員教授・客員准教授・客員講師）に職名が変更された。

## 表7－1　講座別教員現員配置状況

（平成28年4月1日現在）

| 専攻名 | 講座名 | 教授 | 准教授 | 助教 | 計 | 教育研究分野 | 学部教育研究コース |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人文学専攻 | 総合人間学 | 3 | 2 | 0 | 5 | 人間文化学 | 哲学・思想文化学、歴史学、地理学・考古学・文化財学、日本・中国文学語学、欧米文学語学・言語学 |
| | 応用哲学・古典学 | 6 | 5 | 0 | 11 | 思想文化学 | 哲学・思想文化学 |
| | 歴史文化学 | 7 | 1 | 0 | 8 | 歴史文化学 | 歴史学 |
| | 日本・中国文学語学 | 5 | 2 | 0 | 7 | 日本・中国文学語学 | 日本・中国文学語学 |
| | 欧米文学語学・言語学 | 8 | 6 | 3 | 17 | 欧米文学語学・言語学 | 欧米文学語学・言語学 |
| | 地表圏システム学 | 7 | 2 | 0 | 9 | 地表圏システム学 | 地理学・考古学・文化財学 |
| | 計 | 36 | 18 | 3 | 57 | | |

# 第８章　管理と運営

## １．研究科長、副研究科長および研究科長補佐

研究科長は、広島大学大学院文学研究科長候補者選考内規第２条の規定により、大学院文学研究科に所属する専任の教授のうちから選考するとともに、広島大学大学院文学研究科・文学部運営内規第２条第２項の規定により、学部長は研究科長をもって充てることとし、研究科及び学部の組織責任者として職務に従事している。

平成14年度から研究科長の職務を補助することを目的に研究科長補佐制度を取り入れ、平成 16 年４月の国立大学法人化に伴い、研究科長室を設置し、２名の副研究科長（教育担当、研究・社会連携担当）及び３名の研究科長補佐（教務・学生・入試担当、広報・社会連携担当、総務担当（支援室長をもって充てる））を配置し、研究科長を中心に管理・運営に当たってきた。平成 20 年４月からは、新たに研究科長補佐（就学相談担当）を配置し、平成 21 年４月からは、支援室長を研究科長補佐（総務担当）から副研究科長（総務担当）とした。

## ２．研究科および学部の意思決定の方法と組織

平成 16 年４月の国立大学法人化から、研究科及び学部の重要な事項は研究科教授会で審議することとした。なお、研究科教授会から審議を付託された事項については、代議員会の議決をもって研究科教授会の承認事項とするなど意思決定の迅速化を図っている。さらに、責任体制の明確化と効率的・効果的な部局運営を行うため、研究科長を議長とする研究科長室運営会議に副研究科長及び研究科長補佐が参画するとともに、教務委員会及び広報・社会連携委員会の委員長にそれぞれ研究科長補佐（教務・学生・入試担当）及び研究科長補佐（広報・社会連携担当）を充て、各委員会と研究科長室運営会議との連携を図っている。

また、研究科教授会における修士論文及び博士論文の審査等を円滑に行うため、研究科長、副研究科長及び大学院担当の専任教員（教授・准教授）で構成する学位審査会を設置している。

なお、平成 25 年度に、教員共有情報の熟知のために不定期の教員意見交換会を７回開催し、平成26年度以降、同旨の「教員会」を設置し、定期的に開催している。

○　教授会（定例開催日：毎月第３月曜日、平成28年度：18回開催）

大学院文学研究科に所属する専任教授で構成し、①長期的な目標、中期目標・中期計画及び年度計画における教育、研究及び社会貢献活動に関する事項、②教員選考における教育、研究及び社会貢献に係る業績審査に関する事項、③学生の受入れと身分に関する事項、④学位の授与に関する事項、⑤教育課程に関する事項、⑥研究活動に関する事項、⑦社会貢献活動に関する事項、⑧教育・研究及び社会貢献に係る諸規則の制定及び改廃に関する事項、⑨その他研究科長が必要と認めた教育・研究及び社会

貢献に関する事項を審議する。

○　代議員会（定例開催日：毎月第１・３月曜日、平成 28 年度：19 回開催）

研究科長、副研究科長、研究科長補佐及び講座主任で構成し、研究科教授会から付託された①教員の人事に関する事項（研究科長及び学部長の選考と身分に関する事項、教員の選考と身分に関する事項、博士課程後期の研究指導教員等の資格に関する事項を除く。)、②研究生、特別聴講生等学生の受入れと身分に関する事項、③学生の受入れと身分に関する事項（入学試験合格者判定に関する事項、学生の卒業及び修了判定に関する事項、入学者選抜方法の重要な変更に関する事項、学生の懲戒に関する事項を除く。)、④学位の授与に関する事項（博士の学位論文の受理及び審査委員会の設置に関する事項、博士の学位論文の審査及び試験の結果並びに試問の結果に関する事項を除く。）⑤教育課程に関する事項（重要な変更に関する事項を除く。)、⑥研究活動に関する事項、⑦社会貢献活動に関する事項、⑧諸規則の制定及び改廃に関する事項（重要な諸規則の制定及び改廃に関する事項を除く。）⑨その他研究科長が必要と認めた事項を審議する。

○　研究科長室運営会議（定例開催日：毎週木曜日、平成 28 年度：40 回開催）

研究科長、副研究科長及び研究科長補佐で構成し、大学院及び学部に関する重要事項についての企画立案等を行うとともに、教授会及び代議員会等における審議事項の整理、事前検討などを行う。

○　学位審査会（該当月開催：第３月曜日、平成 28 年度：11 回開催）

研究科長、副研究科長（総務担当を除く。)、教授及び准教授で構成し、研究科教授会における審議を円滑に行うために修士論文及び博士論文の審査等に関する事項を審議する。

○　教員会（定例開催日：毎月第３月曜日、平成 28 年度：12 回開催）

文学研究科に所属する専任教員で構成し、研究科及び学部の教育研究及び管理運営等に関する事項についての報告、意見交換を行う。

## ３．研究科・学部の管理・運営に関する諸規則

研究科・学部の管理・運営にかかる主要規則は、国や大学として定められたもののほかは、おおむね次のとおりである。

（内規、細則等）

大学院文学研究科・文学部運営内規、大学院文学研究科教授会内規、大学院文学研究科教授会細則、大学院文学研究科学位審査会細則、大学院文学研究科附属内海文化研究施設細則、大学院文学研究科教員選考基準内規、大学院文学研究科長候補者選考内規、大学院文学研究科細則、学位規則文学研究科内規、文学部細則　等

なお、以下の規則を一部改正した。

大学院文学研究科長候補者選考内規、学位規則文学研究科内規、文学部細則　等

## ４．各種委員会

平成 16 年４月の国立大学法人化に伴い、広島大学の規則で設置が規定されている人事交流委員会、安全衛生委員会以外に研究科が独自に設置する常設の委員会は、審議内容の統合・再編等を行い、教務委員会と広報・社会連携委員会の２つの委員会とした。

平成 27 年 12 月に、組織の運営と評価を実施する機関を分離するため、部局評価組織として評価委員会を設置し、従来、研究科長室運営会議で実施していた評価関係業務を当該委員会に移行した(表 8-1)。

### (1) 人事交流委員会

「広島大学の教員の任期に関する規則」に基づき、文学研究科に人事交流委員会を設置した。構成員は、研究科長、副研究科長（総務担当を除く。)、研究科長補佐、各講座主任及び研究科長が必要と認めた教授若干名である。しかしながら、当委員会設置後、業績評価と再任の可否を検討する対象となる任期制を適用した助教の採用がなかったため開催実績はない。

### (2) 安全衛生委員会

当委員会では、毎年度、施設巡視計画を策定し、計画に基づいて衛生管理者による建物内外の巡視を行い、危険防止等を図っている。

平成 28 年度においては、４月の委員会において、施設巡視計画等を検討し、その後はメール等により情報を共有した。

従来から実施している文学研究科、教育学研究科、社会科学研究科の３部局合同防災訓練は、平成 28 年度（文学研究科担当）は、東広島市総合防災訓練に参加し、危険物産前協会賞を受賞した。

衛生管理者は、平成 28 年度は、教員１名、事務職員３名体制でスタートしたが、事務職員１名の異動により、10 月からは計３名体制となった。平成 25 年度に引き続き、衛生管理者免許資格取得者確保のため、免許資格取得に要する費用を運営費交付金から負担することとし、免許取得希望者を募ったが、平成 26、27 年度に引き続き、28 年度も該当者はなかった。

### (3) 教務委員会

委員長　　今林　修 教授・研究科長補佐（教務・学生・入試担当）
副委員長　有馬卓也 教授
委　員　　前野弘志 教授、小川恒男 教授、宮川朗子 教授、岡橋秀典 教授

**○平成 28 年度の活動状況**

副委員長以下のメンバーが新たに就任したが、前年度までの業務を継承することに

おいて特に支障や混乱はなかった。平成 28 年度は 16 回の委員会を開催した。

なお、平成 23 年度までは教務委員会が教育・入試・学生に関する全ての業務を所管し大きな負担になっていたため、平成 24 年度からはこのうち学生生活に関わる業務の相当部分を「就学相談室」が担当している。

以下、教務委員会の教務・入試・学生関係に関わる事項と、就学相談室の学生生活に関わる事項とに分けて活動の概略を記すこととする。

**○教務委員会の教務・入試・学生関係に関わる事項**

（学部・大学院共通）

・平成 27 年度のクォーター制導入に伴い、移行可能な授業科目からターム科目としての提供を開始した。なお、文学部・文学研究科では教育効果の観点から、教養ゼミ、情報活用演習等の科目は、引き続きセメスター制に従って実施することとした。

（教育課程：学部）

・国立大学の学部定員超過の抑制に係る取り組みとして、１年生のみを対象に行っていた学業成績不振者へのチューター面談を、全学年に拡大した。

・２年生次の分野配属について、AO 入試の趣旨に鑑み、平成 28 年度以降の入学者には原則として受験した専門分野以外への配属を認めないこととした。

・卒業時における外国語運用能力の目標値設定については、文学部では多言語主義に則り、チューターと面談した上で、学生個々が主体的に多言語の中から任意に級または得点を目標値として設定するという方式を定め、平成 26 年度に運用を開始した。これについて実績調査を行ったが、目標との乖離が大きく、TOEIC (R)以外の検定結果の低回収率などの問題が見られた。今後は目標値設定方式の変更も含めた検討が必要となる。

・すでに作成済みの大学院博士課程前期「論文審査についての基準」にならい、「卒業論文審査の指針」を作成し、平成 27 年度から運用を開始した。

・平成 25 年度導入の博士課程前期自己点検・改善年次報告書の方式を踏襲して、平成 27 年度より学士課程における自己点検・改善の取り組み（試行）を開始した。

（教育課程：大学院）

・大学のグローバル化に対応するため、英語を用いた科目のみで修了できる大学院プログラムの整備（平成 28 年度から博士課程後期２専門分野、平成 31 年度から博士課程前期２専門分野）に着手した。また、学位審査関連書類の英語併記のため、広島大学学位規則文学研究科内規を一部改正した。

（入試及び留学生受入）

・平成 24 年度前期日程試験の志願倍率が 1.5 倍に急落したショックを受けて組織された「あしたの文学部を考える若手教員によるプロジェクト」の答申に基づき、平成 27 年度入試から、大学入試センター試験の公民 2 単位科目の選択を認めた。その結果、平成 27 年度前期日程 1.9 倍、平成 28 年度前期日程 2.3 倍、平成 29 年度前期日程 2.2 倍と堅調に推移している。

・平成 27 年度実施分から英語外部検定試験を利用した AO 入試（III 型）を導入した。

・平成 26 年度に従来の外国人留学生特別選抜を I 型と II 型に分け、後者においては、北京研究センターにて実施される留学相談会でのマッチング並びに予備審査を通過した者のみに正式の出願を許可するという方式で選抜を実施した。

・国費外国人留学生（SGU 含む）及び政府派遣等留学生（中国高水平・ベトナムを含む）の受入手順を整備すると同時に、平成 27 年度からは首都師範大学とのダブル・ディグリー（DD）協定に基づいて、博士課程前期学生の選抜を実施した。

・博士課程後期の定員充足の一方策として、海外の日本語教員を主たる対象とした外国人留学生（社会人）特別選抜を平成 27 年度実施分から開始した。

（教員免許関係）

・教職志望の学生に対し、教育学研究科、理学研究科と合同で毎年 5 月頃開催される教職志望者のための都道府県別就職説明会への参加を積極的に呼び掛けた。

（進路支援活動）

・大学院新入生ガイダンス時に、研究倫理教育と並行して、日本学術振興会特別研究員（DC・PC）になるための説明会を行い、早期モティベートを図った。

（その他）

・オープンキャンパス、高校模擬授業、大学訪問受入などを通じて、文学部・文学研究科の魅力を伝えることに努めた。とくにオープンキャンパスにおける個別研究室訪問は、高校生が学問の世界に触れる格好の機会として内外ともに好評である。

・高大連携事業に係る公開授業として「哲学の世界」「文学・語学の世界」「歴史学の世界」「地理・考古・文化財学の世界」を提供した。ただし実績は低調にとどまっており、開催方法について検討の余地はあろう。

（今後の課題）

・クォーター制については、導入前から諸々の問題が懸念されてきたが、教養教育と教職関連のターム科目が原則 2 コマ続きで開講されることとなり、またターム科目とセメスター科目が混在せざるをえない現状においては、授業時間割の作成並びに学生の履修の自由度がいちじるしく制限されている。また、その結果、履修状況が思わしく

ない学生から挽回のチャンスを奪うことにもなり、国立大学の学部定員超過の抑制に係る対応を求められている中、事態を一層深刻にしている。クォーター制導入の成果について、なによりも学生を対象にしたアンケート等を通じて検証し、しかるべき改善策を講じる必要があろう。

・教養教育科目担当の基本方針への対応が求められている。平成 23 年度から教養教育科目を教員数と学生数に基づいた割合で担当するよう授業コマ数の増加を要請され、文学研究科としては特定の教員または科目に負担が集中するような対応方法は研究科内の合意が困難として時間をかけて検討するという方針で臨んできた。この方針に基づき、平成 28 年度からの協力を要請されている東千田キャンパスにおける霞地区学生の教養教育実施について慎重に検討し、平成 29 年度については柔軟に対応することとした。

・大学の人材育成機能の強化、グローバル人材育成、主体的に学び考える力、国の重点的支援、大学評価の改善などの課題について、大学改革のスケジュールを視野に入れながら、文学研究科教員会などで慎重に検討していく必要がある。

・平成 32 年度の「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」導入に向けて、文部科学省、国立大学協会の方針を踏まえて、入学者選抜における利用方法などの検討を早急に本格化させる必要がある。

・平成 28 年度に導入される新たな教員組織である学術院及び教員ユニットの活動と、文学部・文学研究科の教育・研究活動、さらには各教育プログラムとのありうべき関係について、状況を見据えながら検討することが求められよう。

**○就学相談室の学生生活に関わる事項**

室長　井内太郎 教授・研究科長補佐（就学相談担当）

室員　金子　肇 教授 、溝渕園子 准教授

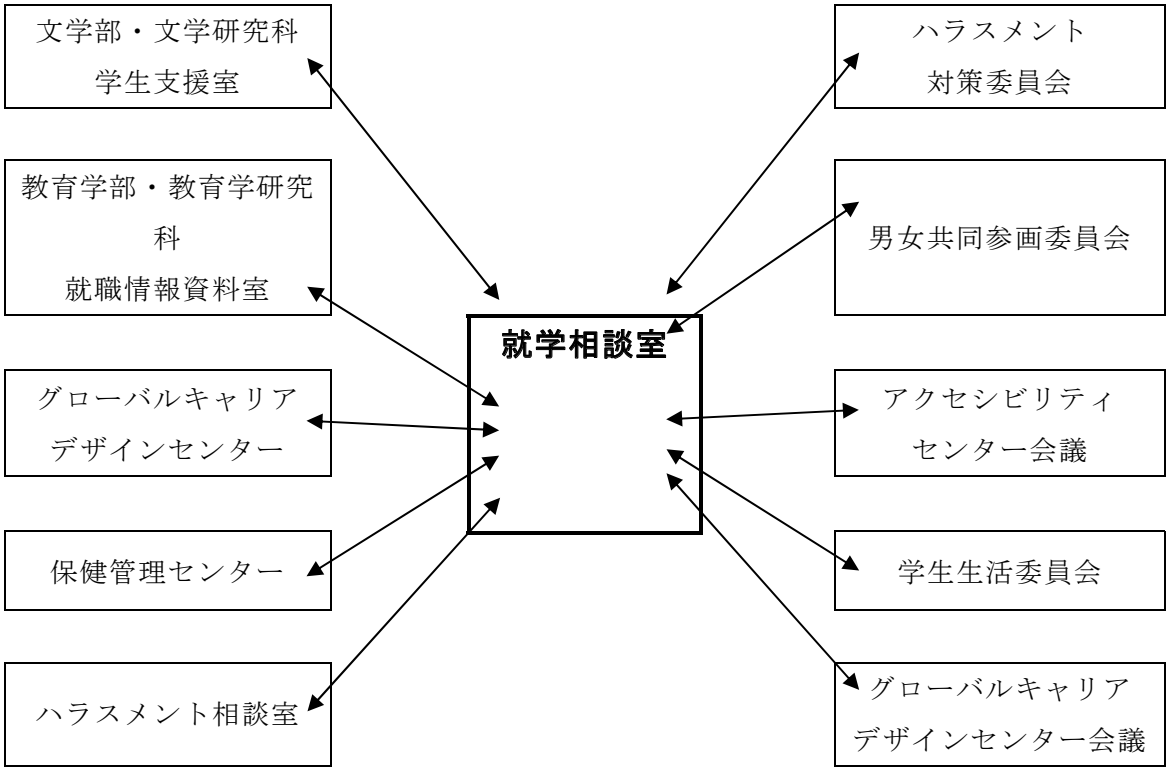
熊井博美 専門員

**(1) 就学相談室の組織体制**

文学研究科では、独自に就学相談室を設け、学生の就職・生活指導にあたっている。【就学相談支援体制の組織図】にあるように、学生生活に関わる組織や会議を就学相談室に集約し情報を共有するとともに、そうした連携を有効に活用しながら学生の就学・就職相談に多角的な観点から対応している。

就学相談室は、教員スタッフ３名と専門のカウンセラー１名からなっている。毎週２回ミーティングを開催し、個々の学生の就学・就職相談について、スタッフ間で協議し、また関連部局・会議とも連携しながら対応している。

【就学支援体制の組織図】




**(2) 就学相談室の活動内容**

主な活動は、就職支援、就学相談、規範教育、教職員のメンタルヘルスからなっている。

① 就職支援・就学支援

まず「グローバルキャリアデザインセンター」との連携を強化しながら、主に広島大学の文系学生の就職支援のための講座を開設した。表 8-2 にあるように、昨年度は計 14 回の講座を開設し、各講座とも平均して 40～50 名の参加者があり、文学部・文学研究科の学生のみならず、多くの他学部・大学院の学生も受講している。

次に個々の学生の就職・就学相談にも応じている。平成 28 年度の相談実績は、【就学相談室の相談実績】のとおり。内容は就活相談を中心に、就学、人間関係、ハラスメントなど多様である。いくつか特徴的な点を挙げれば、最近、他学部・他研究科の学生の相談件数が伸びてきているのに加えて、教職員からの相談件数(心身の不調、人間関係、学生指導など)も漸増していることである。

【就学相談室の相談実績】

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 22年度 | 2 | 2 | 2 | 4 | | | 2 | 0 | 5 | 3 | 1 | | 21 |
| 23年度 | 4 | 8 | 7 | 10 | | | 14 | 14 | 12 | 13 | 15 | | 97 |
| 24年度 | 16 | 14 | 21 | 27 | 15 | | 20 | 27 | 24 | 16 | 19 | 13 | 212 |
| 25年度 | 27 | 28 | 26 | 25 | 18 | | 24 | 18 | 19 | 19 | 20 | 17 | 241 |
| 26年度 | 26 | 25 | 28 | 26 | 16 | 15 | 23 | 25 | 20 | 25 | 28 | 28 | 285 |
| 27年度 | 28 | 19 | 34 | 33 | 18 | 18 | 24 | 23 | 30 | 23 | 24 | 25 | 299 |
| 28年度 | 29 | 21 | 23 | 30 | 12 | 18 | 27 | 28 | 28 | 24 | 28 | 30 | 298 |

② 規範教育

就学相談室では、学生生活会議と連携しながら学生の規範教育を行っている。前述の講座では、マナー講師を招聘し、社会人としてまた就職活動に必要なマナーや最近問題になっているメイルマナーに関する講座を開催した(表 8-2 第 3 回・第 8 回)。次に厚生労働省広島労働局の監督課課長を招聘し、労働法をもとに、就活に関する注意点、ブラック企業の見分け方に関する講座を開設した(表 8-2 第 3 回・第 11 回)。

③ 教職員のメンタルヘルス

先述のように、近年、就学相談室に来談し、精神的な不調を訴えられる教職員が増えてきている。そこで就学相談室では、昨年度から文学研究科 FD として、文学研究科の教職員と大学院生を対象として、メンタルヘルスに関する「ストレスマネジメント」の FD 講座を開設している。本年度は、本学保健管理センターの岡本百合准教授を招聘し「抑うつとうつ病対策」の講演を開催した。

### (3) 今後の課題

① 相談件数の増加への対応

昨年度の相談件数は、【就学相談室の相談実績】にあるようにのべ２９８件であった。現在、就学相談室は週２回開設(火曜日と金曜日)しているが、１日の相談可能件数は最大で４～５件である。そのため、現在，相談予約は、２～３週間待ちの状態で，学生たちに不便を強いている状況にあり、学生たちから開設日数の増加が強く要望されている。

② SGU への対応

SGU に対応して、文学研究科では、留学生(とくに中国人留学生)の就職・就学相談も増えてきている。中国における(とくに日系企業の)就職支援については、「グローバルキャリアデザインセンター」でも十分に対応ができていない。そこで就学相談室では、本年度より、本学修了生の帰国後の進路調査を開始したが、さらに国内外の就職情報をもとに、留学生の就職支援を強化していく。

③ インターンシップの活用

文学研究科・文学部の学生のインターンシップへの参加率は、必ずしも高いとは言えない。 そこで、学部の１，２年次生には、インターンシップの講座を開き(表 8-2 第１回)、教養教育科目として開講されている「地域社会探検プロジェクト」の履修を促し、インターンシップへの意識を高めていく。３年次生については、実践形式でエントリーシートの書き方、心構え、面接への対処などの指導を行っていく。

④ キャリア・サポーター制度の導入

今年度、新たに文学研究科・文学部では、就職活動を終えた学部４年生と修士２年生を対象に、後輩の就職活動を支援するキャリアサポーター制度を導入した。キャリアサポーターの活動内容は、大きく分けて三つある。(a) リテラアワー講座「就職、そして社会人への道」の広報活動、(b)就職についてのアドバイス、(c) 社会人１～２年目に「卒業生のお仕事紹介」である。

今後、同制度を通じて就学相談室と文学部・文学研究科の OB・OG とのネットワークを拡充し、学生の就職支援に役立てていきたい。

**(4) 広報・社会連携委員会**

○平成 28 年度の活動状況

委員長　高永　茂 教授・研究科長補佐（広報・社会連携担当）
委　員　本多　博之 教授
　　伊藤　奈保子 准教授
　　上野　貴史 准教授
　　川島　優子 准教授
　　末永　高康 准教授
　　水田　徹 支援室長

本委員会は平成 16 年度から広報・社会連携委員会として新たに発足し、平成 28 年度には 13 年目を迎えた。これまでの事業を着実に継続・実施し、年間の会議は計 12 回開催した。

① 文学研究科主催　リテラ「21 世紀の人文学」講座の企画・実施

「哲学・倫理学を通して物の見方を考えてみよう」というテーマで、2 名の教員の協力を得て、平成 28 年 12 月 3 日に広島市まちづくり市民交流プラザにおいて実施した。「日本的な物の見方とは？」「西洋的な物の見方とは？」という二つの演題のもと、異なる文化圏における思考法の違いをわかりやすく対照させる内容であった。一般市民 93 名の参加者を得て大好評であった。

②広島大学大学院文学研究科論集第 76 巻の刊行

普通号 7 編を 12 月末に刊行した。

③「リテラ友の会」メールマガジンの発行

平成 16 年度から始めた 2 ヶ月に 1 回発行のメールマガジンの発行を継続し、73 号から 78 号まで、計 6 号を発行した。

④広島大学ホームカミングデー　文学研究科企画の開催

大学祭協賛の行事として 11 回目の「文学部で味わう世界のティータイム」を平成 28 年 11 月 5 日に開催した。インドネシア、スリランカ、中国出身の 3 人の留学生が講演し、多数の来場者（約 120 名）があった。充実した国際交流の場となった。学生ロビーを実施会場として、各国の食べ物・飲み物を準備したり、文学部紹介パネルの掲示位置を工夫したりするなどして、さらに機能的な会場とした。

⑤文学部・文学研究科ウェブサイトの充実と管理・運営

文学部・文学研究科ウェブサイトについてデータの更新作業を行った。ウェブサイトの一層の充実を図り、管理・運営を円滑に行うための検討も行った。とくに、メルマガの発行方法を変更した点は効果が大きかった。従来の方法は E-mail の本文として配信していたが、平成 28 年度からは文学研究科の Web サイトに掲載する方法に変更した。そうすることで記事の量が増え、写真も自由に掲載できるようになった。併せてスマートフォンからのアクセスにも対応できるようになった。また、文学研究科のトップページに教職員ならびに学生から提供された写真を掲載するようになった。身近な行事や風景を載せることでウェブサイトへの関心が増したと感じる。ウェブサイトの更新頻度も多くなった。

⑥楓文庫・サテライト展示

楓文庫については分野別特集を行い、4 月から中国思想文化学分野、10 月から考古学分野の展示を実施した。6 月から 7 月にかけて、楓文庫のケースを利用して「新入生歓迎　お薦めの一冊」の企画を実施した。また、文学部ロビーにおいてサテライト展示を実施した。5 月に「マニュスクリプトの世界」、11 月に「漱石と Soseki」と題する展示を行い、好評であった。

⑦広島大学公開講座の実施

文学研究科が担当する公開講座を「〈隣人〉との出会いと語らい―旅する人文学―」という題目で 11 月に実施し 18 名が修了した。

⑧学部・研究科要覧について

本年度は、文学研究科要覧の日本語版（簡易版）300 部、中国語版 300 部に加え、前年度からの引き継ぎで新たに英語版を 100 部作成した。また、次年度分として文学部要覧の簡易版を 2,500 部作成した。本年度からテレメールを利用した学部案内の送付サービスに参加することにした。

⑨文学部長杯ソフトボール大会の企画・実施

広報・社会連携委員会が実行組織として企画・運営を行った。　諸準備を整えてソフ

トボール大会当日を迎えたが、悪天候のため中止することとなった。

⑩その他

「広島大学で何が学べるか」の編集作業に協力した。学部パンフレット「新しい知の探求」の更新作業を行った。

今後の課題

・メルマガには、文学研究科主催行事のほか文学研究科の教員や学生が参加する行事を幅広く取り上げるよう心がけた。おおむねその方針に沿って編集できたが、掬い切れていない情報もあったと思われる。情報収集の方法をさらに工夫していきたい。

・ソフトボール大会に関しては、予備日を設けていなかったため結局実施できなかった。次年度には予備日を設定することにした。

・ウェブサイト管理に関しては、全学的なシステムの変更があり、研究科独自のコンテンツ等について移行作業に時間を要した。

**（5）評価委員会**

○平成 28 年度の活動状況

委員長　友澤 和夫 教授・副研究科長補佐（研究・社会連携担当）

委　員　後藤 弘志 教授・副研究科長（教育担当）、水田 徹 支援室長・副研究科長（総務担当）、講座主任 6 名

5 回の委員会を開催し、以下の事項について検討した。

・文学研究科の教員の個人評価について

・文学部・文学研究科外部評価について

・文学部・文学研究科自己点検・評価の記録「新しい知の探求」について

## ５．事務組織

平成 16 年 4 月 1 日の国立大学法人化に伴い、従来の職務内容による係制の部局事務室を全学的に見直し、支援対象に視点を置いたグループ制が導入され、部局の業務を円滑に行うため、各部局に教育研究学生支援室を設置し、室の業務・各グループを統括する室長、部局長を直接的に支援する組織として部局長支援グループ、教員の教育研究活動を直接支援する教育研究活動支援グループ及び学生を直接支援する学生支援グループを配置した。平成 20 年 4 月 1 日からは教育研究学生支援室を支援室と名称変更し、部局長支援グループと教育研究活動支援グループを統合し、部局長・教育研究活動支援グループを配置した。平成 21 年 4 月 1 日には部局長・教育研究活動支援グループを運営支援グループと名称変

更した。また、平成 21 年度までは学生支援グループの主査は 1 名であったが、平成 22 年度から学士課程主担当と大学院課程主担当の主査をそれぞれ配置することにより業務組織の強化を図った。

その後、大きな事務組織の変更はなかったが、平成 25 年度途中から新規事業の開始に伴い、文学研究科で教育研究補助職員を 2 名、契約一般職員を 1 名新たに採用した。

・大学院リーディングプログラム（たおやかで平和な共生社会創生プログラム）
　教育研究補助職員 1 名（平成 26 年 1 月 1 日採用）
　契約一般職員 1 名（平成 25 年 12 月 1 日採用）
・大学の世界展開力強化事業（ＡＩＭＳ）
　教育研究補助職員 1 名（平成 26 年 4 月 1 日採用）

平成 26 年度において、大きな事務組織の変更が行われた。

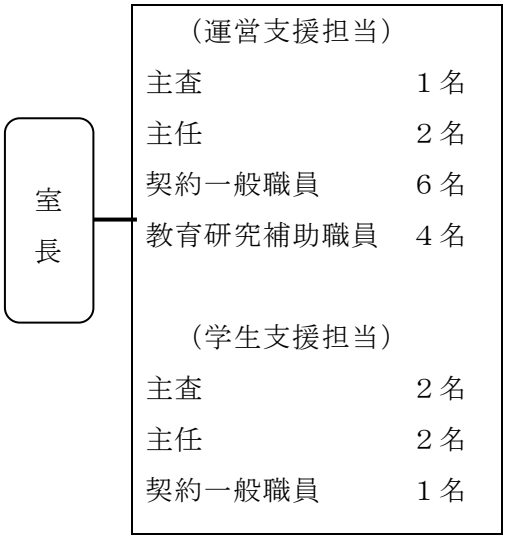
財務業務の集約化のため、平成 26 年 6 月に東広島地区運営支援部共通事務室設置が設置され、運営支援グループ主査（財務担当）1 名が共通事務室の配置となった。

また、文学研究科支援室の運営支援グループ、学生支援グループは支援室一組織となり、東広島地区運営支援部の下に配置された。

平成 28 年度において、事務組織の変更はなかった。

文学研究科支援室

（平成 28 年年度）



## ６．予算

本学を取り巻く財政状況は、運営費交付金が法人化以降毎年減少し、平成 27 年度までに約 27 億円（平成 16 年度比）が削減されており、引き続き厳しい状況である。各部局への配分予算も教育研究に直接必要な基盤的経費を除き毎年約 2%程度の削減となっている。

こういった厳しい財政状況の中で、中期計画・中期目標を着実に実施していくため、各学部の予算は、予算総枠の範囲内で、部局長の裁量と責任により、教育研究の目的に応じて弾力的・機動的な予算執行ができる総枠予算方式となっており、本研究科においては、教育研究に直接必要な基盤的経費の予算配分をできるだけ維持しつつ、管理的経費を削減し、部局運営の戦略的に活用する財源として部局長裁量経費を確保している。

また、全学共通管理のうち光熱水料等の予算は、各部局における光熱水料等の節減努力がストレートにインセンティブとして働くような仕組みとなっており、本研究科においては、平成 26 年度の決算残額 379 千円、平成 27 年度の決算残額 657 千円が翌年度の部局長裁量経費として活用している。

文学研究科支出予算科目　　単位：千円

| 目的別 | 予算科目名 | 平成 27 年度 | | | 平成 28 年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 予算額 | 執行額 | 繰越額 | 予算額 | 執行額 | 繰越額 |
| 教育経費 | 学士課程基盤教育費 | 10,778 | 4,953 | 5,825 | ※ | ※ | ※ |
| | 部局長裁量経費(教育) | 7,243 | 10,064 | △ 2,821 | 7,539 | 7,672 | △133 |
| | 学長裁量経費（教育） | 1,000 | 1,140 | △ 140 | 0 | 0 | 0 |
| | その他（入学試験経費等） | 5,393 | 5,022 | 371 | 4,054 | 3,773 | 281 |
| 研究経費 | 教育研究基盤経費 | 50,807 | 51,551 | △ 744 | 48,203 | 45,232 | 2,971 |
| | 部局長裁量経費(研究) | 3,500 | 5,210 | △ 1,710 | 5,247 | 3,099 | 2,147 |
| 教育研究経費 | 広報関係経費 | 1,420 | 1,552 | △ 132 | 1,726 | 857 | 869 |
| | その他(点検・評価関係経費等) | 464 | 6 | 458 | 452 | 497 | △45 |
| 人件費 | 非常勤講師 | 6,479 | 6,349 | 130 | 6,899 | 6,025 | 874 |
| | ＴＡ | 2,462 | 2,176 | 286 | 2,470 | 2,211 | 259 |
| | ＲＡ | 1,520 | 1,227 | 293 | 1,512 | 1,241 | 271 |
| | 教育研究補助職員 | 7,506 | 8,349 | △ 843 | 9,687 | 9,617 | 70 |
| 管理的経費 | 消耗品費・定期刊行物・備品費 | 2,011 | 2,086 | △ 75 | 2,088 | 2,044 | 44 |
| | 国内旅費・交通費 | 218 | 98 | 120 | 124 | 97 | 26 |
| | その他（修繕費等） | 2,155 | 2,208 | △ 53 | 2,272 | 2,551 | △279 |
| 計 | | 102,956 | 101,991 | 965 | 92,273 | 84,916 | 7,357 |

※平成 28 年度から予算科目の見直しにより，学士課程基盤教育費のみの執行額を計上できないため，教育研究基盤経費に集約して計上。

参考までに平成 27・28 年度における部局長裁量経費の主な使途は、次のとおり。

１．平成 27 年度

・就学相談員雇用

・博士課程前期・後期学生に対する学会等発表支援（旅費補助）

・講義室整備（プロジェクター更新、PC 等）

・留学生獲得のための海外拠点入試経費補助

・非常勤講師経費（病休教員の代替）

・博士課程前期留学生のための修士論文日本語校閲支援

・博士課程前期・後期学生に対する学会等発表支援（旅費補助）

・EEBO（初期英語書籍集積データベース）維持経費

・研究科論集印刷製本

・地域アカデミーの実施経費補助

・文藝学校の実施経費補助

２．平成 28 年度

・博士課程前期・後期学生に対する学会等発表支援（旅費補助）

・講義室整備（ホワイトボード，プロジェクター更新）

・マイクロソフト包括ライセンス経費

・非常勤講師経費（病休教員の代替等）

・博士課程前期留学生のための修士論文日本語校閲支援

・博士課程前期・後期学生に対する学会等発表支援（旅費補助）

・研究科論集印刷製本

・地域アカデミーの実施経費補助

・文藝学校の実施経費補助

・国費外国人留学生支援（旅費補助）

・外国人特任教員研究費補助

## ７．防災・環境保全の体制

(1)文学研究科は防災対策として、次のような管理体制を整備している。

①平成 21 年度から新「消防計画」が策定され、防火防災担当責任者、火元責任者を定め、地区自衛消防隊を組織し、非常の際に備える。

②帝釈峡遺跡群発掘調査室については、防火管理者、火元責任者を定め非常の際に備える。

③法令に基づき各消火設備および消火器具の整備点検を年間 2 回実施し、その報告書の届け出を行う。

(2)（1）による管理体制により、平成 28 年度（文学研究科担当）は、東広島市総合防災訓練に参加し、危険物産前協会賞を受賞した。

## 表８－１ 文学研究科各種委員会活動状況

平成28年度

| 委　員　会　名 | 設置年度 | 目　的　・　所　掌　等　の　概　要 | 委　　員 | 所掌グループ | 年度別<br>開催回数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 人事交流委員会 | 平成16 | 職，任期及び再任等に関する事項<br>業績評価の方法等に関する事項<br>任期終了時における業績評価及び再任可否に関する事項<br>任期満了時の処遇に関する事項 | 12名<br>研究科長<br>副研究科長<br>(総務担当を除く)<br>研究科長補佐<br>講座主任 | 運営支援グループ | 0 |
| 安全衛生委員会 | 平成16 | 職員の危険を防止するための具体的な事項<br>労働災害の原因及び再発防止対策で安全衛生に係る具体的な事項<br>職員の健康障害を防止するための具体的な事項<br>地区安全衛生委員会から付託された事項 | 13名<br>研究科長<br>副研究科長<br>研究科長補佐<br>講座主任<br>衛生管理者 | 運営支援グループ | 3 |
| 教務委員会 | 平成16 | 教務に関する事項<br>学生生活に関する事項(学業成績関連)<br>留学生に関する事項<br>入学者選抜に関する事項<br>研究科長から諮問された事項 | 6名<br>研究科長補佐<br>教授 | 学生支援グループ | 16 |
| 就学相談室 | 平成24 | 就職支援・相談<br>リテラアワーの計画・実施<br>学生の就学相談・指導<br>学生の事件・事故対応 | 4名<br>研究科長補佐<br>准教授<br>学外専門員 | | |
| 広報・社会連携委員会 | 平成16 | 広報に関する事項<br>ホームページの管理運営に関する事項<br>社会連携に関する事項<br>研究科長から諮問された事項 | 6名<br>研究科長補佐<br>教授又は准教授<br>主査 | 運営支援グループ | 12 |
| 評価委員会 | 平成27 | 中期目標、中期計画及び年度計画の評価に関する事項<br>外部評価に関する事項<br>教員の個人評価に関する事項<br>自己点検評価報告書の作成に関する事項<br>その他点検・評価に関する事項 | 9名<br>副研究科長<br>講座主任 | 運営支援グループ | 5 |

表８－２ リテラアワー講座 「就職、そして社会人への道」

## 平成28年度リテラアワー講座 「就職、そして社会人への道」

| 回 | 開催日 | 題　　目 | 講師（発表者） | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 5 月 10 日<br>（火） | 就職活動スタート講座<br>～鍵はインターンシップにあり！～ | 広島大学ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｷｬﾘｱ<br>ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾝﾀｰ／ ㈱マイナビ | 20 |
| 2 | 5 月 17 日<br>（火） | 来年度　公務員試験の傾向と対策 | 広島大学生協内公務員試験<br>講師　野口　宗彦 | 20 |
| 3 | 6 月 28 日<br>（火） | IS、面接に欠かせない<br>ビジネスマナー講座 | ユニゾネット<br>主宰　加賀田　瑞恵 | 24 |
| 特別 | 7 月 5 日<br>（火） | もうすぐ夏休み！アルバイトを始める前に<br>～ブラック企業・バイトについて知ろう～ | 広島労働局労働基準部<br>監督課　綿貫課長 | 記録無 |
| 4 | 7 月 12 日<br>（火） | 企業/業界研究の手始め<br>～夏休み、活かすかどうかはあなた次第～ | ㈱マイナビ | 24 |
| 5 | 10 月 18 日<br>（火） | 18 卒就活準備　スタート講座<br>～就職活動本番に向けて、今からすべきこと～ | ㈱マイナビ | 41 |
| 6 | 11 月 22 日<br>（火） | 就職内定者による報告会 | 企業・公務員・教員に<br>就職が決まった 4 年生、M2 生 | 21 |
| 7 | 11 月 29 日<br>（火） | 筆記試験対策講座<br>～早めの対策が功を奏す～ | ㈱マイナビ | 45 |
| 8 | 12 月 6 日<br>（火） | ＜要　申し込み＞体験してみよう！<br>実践！企業研究ワーク | ㈱マイナビ | 27 |
| 9 | 12 月 13 日<br>（火） | 実践！ビジネスマナー講座<br>～IS・就活・将来に役立つマナーを徹底伝授～ | ユニゾネット<br>主宰　加賀田　瑞恵 | 26 |
| 10 | 1 月 17 日<br>（火） | ＜要　申し込み＞グループディスカッション対策講座<br>～文学部・経済学部合同企画！～ | ㈱マイナビ | 49 |
| 11 | 2 月 7 日<br>（火） | 失敗しない就活の知恵<br>～「労働法」を知ってﾌﾞﾗｯｸ企業から自分を守ろう～ | 厚生労働省広島労働局 | 6 |
| 12 | 2 月 17 日<br>（金） | ＜13:00～15:30＞合同企業説明会の回り方・<br>エントリーシートの書き方 | ㈱マイナビ | 35 |
| 13 | | ＜15:45～17:15＞自己 PR 作成講座 | | 27 |
| 14 | 2 月 21 日<br>（火） | ＜要　申し込み＞本番直前！　集団面接対策講座<br>＜90 分×4コース＞ | ㈱マイナビ | 35 |

合計：400 名

# 第９章　研究科自己点検・評価の活動状況

## １年間の活動状況

組織の運営とその評価実施機関とを分離するため、平成27年12月に新たに、自己点検・評価を行う部局評価組織として、副研究科長と各講座主任によって構成される評価委員会を設置した。

平成28年度の評価委員会の構成は次の通りである。

委員長：友澤和夫

委員：後藤弘志、水田　徹、河西英通、小川英世、八尾隆生、有元伸子、小林英起子、野島永

平成28年度の主な活動として、以下の４つが挙げられる。

１）評価委員会を５回開催した。

開催日：8月1日、11月21日、1月16日、2月15日、3月6日

２）『新しい知の探求』（広島大学文学部・文学研究科　自己点検・評価の記録）平成26・27年度版を発行した。教員の活動状況を掲載している点が新しい。

３）文学部独自の外部評価を平成29年に実施することを決定し、その準備に着手した。

４）教員の個人評価の見直しを実施した。